

鹿児島大学構内遺跡

郡元団地 I-9区

2013－2 電気・電子工学科棟改修工事に伴う発掘調査

郡元団地 F-6区

2014－2 保健管理センター増築工事に伴う発掘調査

郡元団地 R～T-7～9区

2018－2 附属中学校ブロック塀補強工事に伴う発掘調査

2020年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

序 文

鹿児島大学郡元キャンパスには、縄文時代から近代までの、貴重な埋蔵文化財が包蔵されていることが鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの発掘調査によって明らかにされています。調査成果は『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』や『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書』によって報告しています。

本報告書では、平成 25 年度調査の郡元団地 I-9 区（電気電子工学科棟改修工事）、平成 26 年度調査である郡元団地 F-6 区（保健管理センター増築工事）、平成 30 年度調査の郡元団地 R～T- 7～9 区（附属中学校ブロック塀補強工事）、3 件分の発掘調査報告を掲載します。電気電子工学科棟では弥生・古墳時代の河川跡を、保健管理センターでは近世の水田跡と先史時代の遺物包含層を、附属中学校では、中世の遺物の他、古代や古墳時代の遺構を確認することができました。いずれも小規模な発掘調査でしたが、郡元キャンパスの過去の景観復元にとって重要な成果となりました。

埋蔵文化財調査センターでは、継続的に調査報告書を刊行することによって、調査成果を広く社会に還元できるよう全力を尽くす所存です。今後とも、本センターの事業にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2020 年 3 月


鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
中村 直子

例 言

1. 本報告書は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが平成 25 年度、平成 26 年度、平成 30 年度に鹿児島大学郡元団地において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 昭和 60 (1985) 年 6 月 1 日の鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以後は、郡元団地では国土座標第 2 座標系 ($X = -158,200$, $Y = -42,400$) を基点として大学構内に一辺 50 m の方形地区割りを行い、各地点を表示している。地区割りに使用している座標は日本測地系によるものである。
3. 調査時における図面作成・写真撮影は 2 章は新里貴之、3・4 章は寒川朋枝が行った。
4. 本書の作成にあたっては、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが行った。担当は以下のとおりである。

遺物実測	新里・相良暁子・濱田綾子・吉村ゆう子
製図	新里・相良・濱田・吉村・寒川・中村直子
作表	新里・中村・相良・濱田・吉村
写真	相良・濱田・吉村
執筆	1 章：中村、2 章：新里、3 章：中村・寒川、4 章：中村・寒川
編集	中村・新里
5. 本報告の内容について、近世陶磁器については渡辺芳朗氏（鹿児島大学法文学部教授）のご教示を得た。
6. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと鹿児島大学内にて保管している。

凡 例

1. 本報告書における座標は、例言にあるように、地区割りに関する本書 Fig. 3 のみ日本測地系を用いたが、その他の座標値は世界測地系によるものである。
2. 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
3. 本書では、土坑状遺構を SK、溝状遺構を SD、ピット状遺構を P と表示とする。
4. 遺物に関しては観察表を作成した。その表現については以下の通りである。
調整：調整名称の前の () は、調整方向を表す。(—)；横位方向，(|)；縦位，(\)；左上がりの斜位，(/)；
右上がりの斜位，とした。→は、調整の新旧関係を表す。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
5. 遺物実測図中、- - - - - は釉の境界ラインを示す。
6. 遺物実測図中、土器の赤色顔料の塗布範囲は  で図示する。
7. 遺物断面黒塗りのものは須恵器を表している。
8. 本文中の遺物番号は通し番号を付し、挿図・図版・遺物観察表と一致する。

抄 録

ふりがな	かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだんち							
シリーズ名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第 16 集							
書名	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 I-9 区, 郡元団地 F-6 区, 郡元団地 R ～ T-7 ～ 9 区							
編著者	中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒 890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2020 年 3 月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	鹿児島市郡元一 丁目 21 番 24 号	4620	1-23-0	31° 34′ 11″	130° 32′ 33″	2013 年 10 月 1 ～ 25 日	55	校舎改修
						2014 年 5 月 22 日～7 月 12 日	136	校舎改修
						2019 年 2 月 12 ～ 22 日	100	支柱埋設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	I-9 区 (電気電子工学科)	近世			薩摩焼, 火打石			
		弥生・古墳時代	河川跡		成川式土器			
	F-6 区 (保健管理センター)	近世	畝間溝, 水田跡 (擬似畦畔)		薩摩焼, その他陶磁器, キセル, スナイドル弾			
	R ～ T-7 ～ 9 区 (附中ブロック堀)	中近世			青磁, 瓦器, 薩摩焼, その他陶磁器			
		古代	土坑		須恵器, 土師器			
	古墳時代	ピット		成川式土器, (弥生時代以前) 打製石鏃				

本文目次

序 文
例 言
凡 例
抄 録

第 1 章	遺跡の位置と環境	1
第 2 章	郡元団地 I- 9 区電気電子工学科棟改修工事に伴う発掘調査	7
1	調査に至る経緯	7
2	調査体制と期間	7
3	調査の経過	7
4	調査トレンチと基本土層	9
5	出土遺物	12
6	まとめ	13
第 3 章	郡元団地 F- 6 区保健管理センター増築工事に伴う発掘調査	17
1	調査に至る経緯	17
2	調査体制と期間	17
3	調査の経過	18
4	基本土層	18
5	遺構	22
6	出土遺物	39
7	まとめ	46
第 4 章	郡元団地 R ～ T- 7 ～ 9 区教育学部附属中学校ブロック塀補強工事に伴う発掘調査	52
1	調査に至る経緯	52
2	調査体制と期間	52
3	調査の経過	52
4	基本土層	53
5	各トレンチの成果	58
6	まとめ	87

挿図目次

Fig. 1	遺跡の位置	1	Fig. 36	3 トレンチ出土遺物	60
Fig. 2	遺跡の位置	2	Fig. 37	4 トレンチ出土遺物	61
Fig. 3	調査区の位置	3	Fig. 38	5 トレンチ出土遺物	62
Fig. 4	調査区の位置	8	Fig. 39	7 トレンチ出土遺物	63
Fig. 5	1 トレンチ上面	9	Fig. 40	9 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	64
Fig. 6	1 トレンチ西壁	9	Fig. 41	9 トレンチ出土遺物	64
Fig. 7	2 トレンチ上面	10	Fig. 42	11 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	66
Fig. 8	2 トレンチ南壁	11	Fig. 43	11 トレンチ出土遺物	67
Fig. 9	2 トレンチ西壁	11	Fig. 44	12 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	70
Fig. 10	出土遺物	14	Fig. 45	13 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	71
Fig. 11	表土除去後平面図	19	Fig. 46	14 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	72
Fig. 12	北壁土層断面図	20	Fig. 47	14 トレンチ出土遺物	73
Fig. 13	下層確認トレンチ南壁土層断面図	21	Fig. 48	15 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図	76
Fig. 14	3c 層上面検出遺構平面図	23	Fig. 49	15 トレンチ出土遺物	76
Fig. 15	3c 層上面検出遺構断面図	24	Fig. 50	17 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図	78
Fig. 16	3d 層上面遺構平面図	25	Fig. 51	17 トレンチ出土遺物	78
Fig. 17	3d 層上面検出遺構断面	26	Fig. 52	18 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図	79
Fig. 18	4 層上面検出遺構平面図	27	Fig. 53	19 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図	80
Fig. 19	4 層上面検出遺構平面図・断面図	28	Fig. 54	19 トレンチ出土遺物	81
Fig. 20	5a 層上面検出遺構平面図	30	Fig. 55	21 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	82
Fig. 21	5a 層上面検出疑似畦畔断面図	31	Fig. 56	23 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	84
Fig. 22	5c・5d 層上面検出遺構平面図	33	Fig. 57	24 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	85
Fig. 23	5c・5d 層上面検出遺構断面図	34	Fig. 58	25 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図	86
Fig. 24	6 層上面遺構検出状況	35	Fig. 59	調査区周辺の遺構配置と遺物出土状況	88
Fig. 25	6 層上面検出遺構断面図	36			
Fig. 26	1～4a 層出土遺物	40			
Fig. 27	5a 層出土遺物	40			
Fig. 28	5b 層出土遺物	43			
Fig. 29	5d 層出土遺物	46			
Fig. 30	各トレンチの位置	53			
Fig. 31	1～8 トレンチの土層断面図	55			
Fig. 32	9～15 トレンチの土層断面図	56			
Fig. 33	16～21・23～25 トレンチの土層断面図	57			
Fig. 34	1 トレンチ出土遺物	58			
Fig. 35	2 トレンチ出土遺物	59			

表目次

Tab. 1	郡元団地内の発掘調査（１）	4	Tab. 10	層別遺物出土数_土器その他	49
Tab. 2	郡元団地内の発掘調査（２）	5	Tab. 11	陶磁器観察表	50
Tab. 3	郡元団地内の発掘調査（３）	6	Tab. 12	土器等遺物観察表	51
Tab. 4	2013-2 出土遺物	12	Tab. 13	遺構リスト	89
Tab. 5	土器観察表	16	Tab. 14	層別遺物出土数_陶磁器	90
Tab. 6	陶磁器観察表	16	Tab. 15	層別遺物出土数_土器その他	91
Tab. 7	石器観察	16	Tab. 16	陶磁器観察表	92
Tab. 8	遺構一覧	47	Tab. 17	土器等観察表（１）	93
Tab. 9	層別遺物出土数_陶磁器	48	Tab. 18	土器等観察表（２）	94
			Tab. 19	石器観察表	94

写真目次

PL. 1	調査前状況	8	PL. 29	1 トレンチ出土遺物	58
PL. 2	調査前状況	8	PL. 30	2 トレンチ出土遺物	60
PL. 3	1 トレンチ上面	9	PL. 31	3 トレンチ出土遺物	60
PL. 4	1 トレンチ西壁	9	PL. 32	4 トレンチ出土遺物	61
PL. 5	2 トレンチ完掘	10	PL. 33	5 トレンチ出土遺物	62
PL. 6	2 トレンチ完掘東半部	10	PL. 34	7 トレンチ出土遺物	63
PL. 7	2 トレンチ完掘西半部	10	PL. 35	9 トレンチ遺構検出状況	64
PL. 8	南壁東半部	12	PL. 36	9 トレンチ出土遺物	64
PL. 9	南壁西半部	12	PL. 37	11 トレンチ遺構検出状況	66
PL. 10	西壁南半部	12	PL. 38	11 トレンチ出土遺物	68
PL. 11	西壁北半部	12	PL. 39	12 トレンチ	70
PL. 12	出土遺物	15	PL. 40	13 トレンチ	71
PL. 13	調査開始時の状況	17	PL. 41	14 トレンチ	72
PL. 14	土層の状況	21	PL. 42	14 トレンチ出土遺物	74
PL. 15	3c 層上面検出状況	24	PL. 43	15 トレンチ	76
PL. 16	3d 層上面遺構検出状況	26	PL. 44	15 トレンチ出土遺物	76
PL. 17	4 層上面遺構検出状況（１）	28	PL. 45	16 トレンチ・17 トレンチ	77
PL. 18	4 層上面遺構検出状況（２）	29	PL. 46	17 トレンチ出土遺物	78
PL. 19	5a 層上面遺構検出状況	31	PL. 47	18 トレンチ	79
PL. 20	5c・5d 層上面遺構検出状況	34	PL. 48	19 トレンチ	80
PL. 21	6 層上面検出遺構（１）	37	PL. 49	19 トレンチ出土遺物	81
PL. 22	6 層上面遺構検出状況（２）	38	PL. 50	20 トレンチ	81
PL. 23	1～4a 層出土遺物	41	PL. 51	21 トレンチ	82
PL. 24	5a 層出土遺物	41	PL. 52	22 トレンチ	83
PL. 25	5b 層出土遺物	44	PL. 53	23 トレンチ	84
PL. 26	5d 層出土遺物	46	PL. 54	24 トレンチ	85
PL. 27	調査開始の状況	52	PL. 55	25 トレンチ	86
PL. 28	壁面土層	54			

第1章 遺跡の位置と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。鹿児島大学には、郡元キャンパス、桜ヶ丘キャンパス、入来牧場（薩摩川内市）、指宿植物試験場（指宿市）、唐湊学生寮において埋蔵文化財が確認されており、本報告地点が含まれる郡元キャンパス内の遺跡は鹿児島大学構内遺跡郡元団地と呼称されている。

郡元団地は、沖積平野部の自然堤防帯に立地し、標高は約7mである。昭和26年の県立医大遺跡（現在の鹿児島大学附属中学校敷地内）の調査¹⁾以降、現在までに63回に及ぶ発掘調査が行われている（Tab.1～3）。なお、埋蔵文化財調査室設置以前の昭和59年までは、「釘田」遺跡や「水町」遺跡など旧小字名等が遺跡の名称として用いられている²⁾。

郡元団地は、縄文時代前期～近世の複合遺跡であるが、特に多く検出されているのは、古墳時代の竪穴建物跡である。現在5か所の居住域が確認でき、いずれも微高地上に立地している。郡元団地中央部には東西方向に流れる河川跡がみられ、河川跡埋土からは弥生～古墳時代の木製品や木杭列などの遺物が出土している。その一部は、井堰跡と考えられ、現在郡元団地内4か所で確認されている弥生時代・古墳時代の水田遺構に関連するものである。古墳時代の遺物・遺構包含層より上位では、古代から近代に至るまでの水田・畑地跡が連続的に認められ、古代遺構、この地では継続的に農耕が行われていたことが推定される。

本書では、3つの学内施設整備事業に伴う発掘調査について報告している。第2章の電気電子工学科棟（2013-2）は古墳時代居住域近くで河川跡が埋没していると予想される場所である。第3章の保健管理センターは河川跡より北側に位置し、周辺は近世水田跡が重層的に確認されている。2006-2農学部講義棟ではその下に弥生時代・縄文時代晩期の遺物包含層が残存しており、弥生時代中期の竪穴建物跡が確認されている。本地点も近世水田層と先史時代包含層の調査となった。第4章の附属中学校ブロック塀部分（2018-2）は、古墳時代の居住域や古代の土坑など遺構が多く発見されている場所である。本報告の調査でも、古代以前の遺物が多く発見されるとともに、中世の遺物とその時期のものである可能性がある包含層が確認された。



Fig. 1 遺跡の位置

註

- 1) 河口貞徳 1969 「弥生時代」『鹿児島市史』I 鹿児島市史編纂委員会 58-75 頁
- 2) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 I』



Fig. 2 遺跡の位置 S= 1/ 50,000

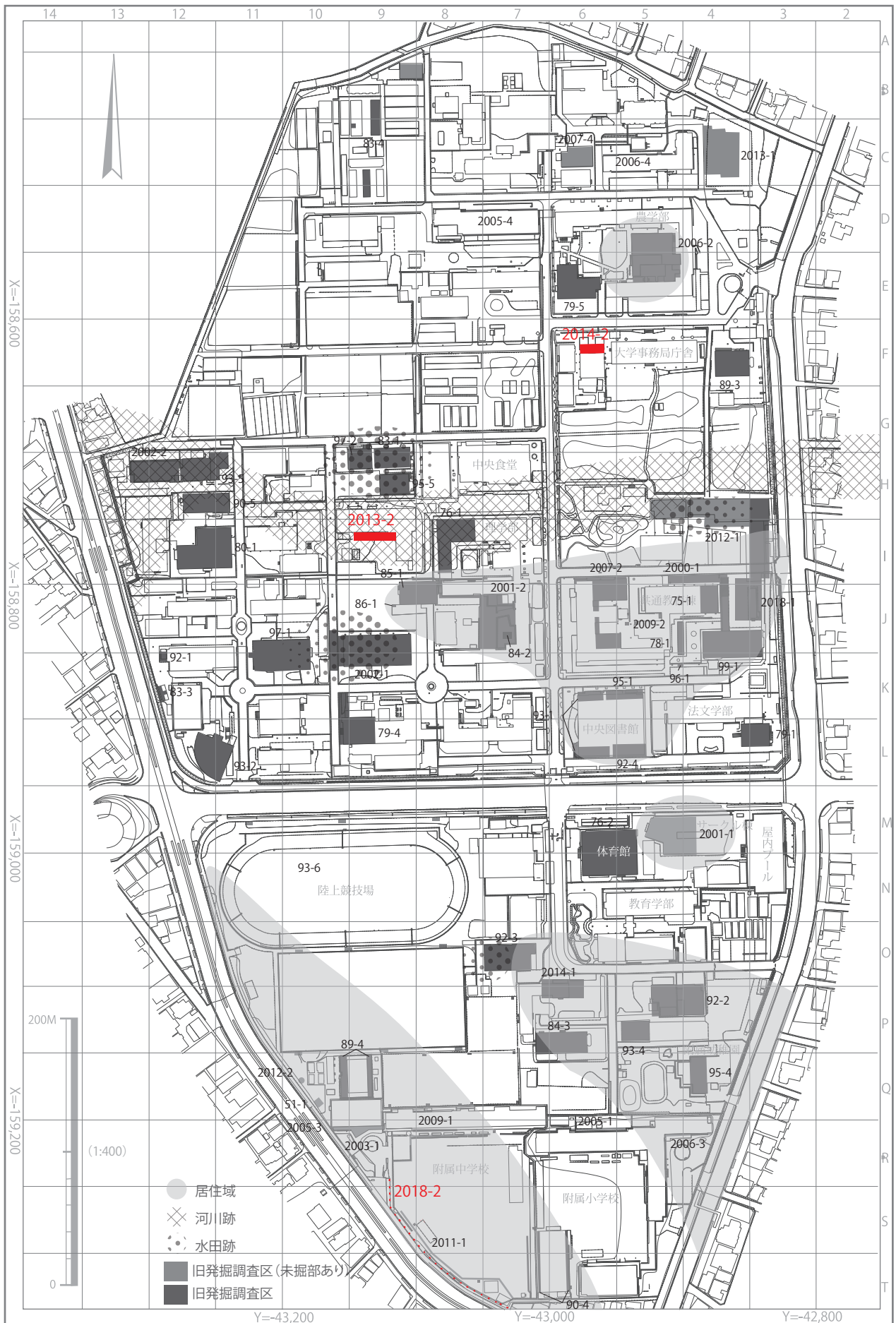


Fig. 3 調査区の位置 S = 1/4000

図中コードは、Tab.1～3に同じ。

Tab. 1 鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査（1）

調査コード	地区	事業名	主な時代	主な遺構・遺物	掲載文献
51-1	Q-10 区	鹿児島県立医大建築工事	古墳時代	竪穴建物跡	河口, 1952・河口, 1955・河口, 1969
75-1	I・J-4 区	教養部校舎増築工事（釘田第1地点）	古墳時代	竪穴建物跡	年報VI
76-1	I-8 区	理学部2号館増築工事（釘田第8地点）		竪穴建物跡・河川跡・木杭列, 土器・須恵器	年報I・報告書12・15
76-2	M・N-5・6 区	教育学部第2体育館建設工事（釘田第6地点）		溝状遺構, 土器・須恵器	年報I
78-1	J-5 区	教養部講義室建設工事（釘田第2地点）		土器	
79-4	K・L-9・10 区	教養部講義室建設工事（釘田第4地点）		用水路	
79-5	E-6 区	農学部研究棟建設工事（釘田第5地点）			
79-1	L-3・4 区	法文学部講義室建設工事（釘田第3地点）		土器	年報I
79-2	O-4・5 区	教育学部校舎建設工事（釘田第7地点）		土器	年報I
80-1	I-11・12 区	工学部機械工学科校舎建設工事		溝状遺構, 土器・須恵器	年報I
83-1	G・H-9 区	電子計算機室建設工事（釘田第9地点）		溝状遺構, 土器・須恵器	年報I 池畑, 1991（年報VI付編III）
83-3	K-12 区	工学部危険物薬品庫改修工事		水田・ピット, 土器・須恵器・磁器	年報I・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1985
83-4	C・D-9 区	農学部温室建替え工事		溝状遺構, 土器・古銭・陶磁器	年報I
84-2	J-7 区	理学部車庫建設工事		土器	年報I・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1986
84-3	P-6・7 区	教育学部校舎建設工事（水町遺跡）		水田跡・溝状遺構, 土器・硬玉製勾玉	坪根, 1987
85-1	I・J-9・10 区	理学部一号館増築工事	古墳時代	竪穴建物跡群	年報I
86-1	J-9 区	理学部座捨場設置工事	古墳時代	竪穴建物跡	年報II
87-2	G・H-9・10 区	電子計算機室増築工事	平安～鎌倉時代	溝状遺構・河川跡	年報III
89-3	F-3・4 区	大学院連合農学研究科校舎建設工事	近世・中世	土取り穴群	年報V
89-4	Q-9・10 区	教育学部附属中学校プール上屋建設工事	古墳時代	竪穴建物跡群	年報V
90-4	S・T-6・7 区	教育学部附属小学校プール上屋建設工事	古墳時代	竪穴建物跡群, 鉄製鋤先・墨書土器	年報VII
90-5	H-11・12 区	工学部情報工学科校舎建設工事	弥生時代～近世	河川跡	年報VII
92-1	K-12 区	工学部応用化学工学科エレベーター建設工事	古代?	土器	年報VIII

Tab. 2 鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査(2)

調査コード	地区	事業名	主な時代	主な遺構・遺物	掲載文献
92-2	O・P-4・5区	教育学部音楽美術棟建設工事	近世 古墳時代	水田跡 溝状遺構	年報IX・X
92-3	O-7区	教育学部福利厚生施設建設工事	古墳時代 古墳時代以前	溝状遺構・ピット群 溝状遺構・水田跡	鹿児島大学埋蔵文化財 調査室年報IX・X
92-4		中央図書館増築工事(1次)	古墳時代	竪穴建物跡	年報18
93-1	K・L-6区	中央図書館増築工事(2次)	古墳時代	竪穴建物跡・溝状遺構	年報18
					報告書3
93-2	L-11・12区	稲盛会館建設工事	近世 平安～近世	水田跡 遺物	『鹿児島大学構内遺跡 郡元団地L-11・12区 - 鹿児島大学稲盛会館建 設に伴う埋蔵文化財発 掘調査報告書-』
93-4	P-4区	教育学部教育実践研究指導センター 建設工事	近世 古墳時代 弥生時代後期	溝状遺構・水田遺構 溝状遺構・掘立柱建物跡・ピット群 土器群	年報11
93-5	H-11区	地域共同研究センター建設工事	弥生時代	河川跡・木杭列	年報13
93-6	M～T-7～12 区	運動場照明設置工事	古墳時代 古代	住居跡・土墳墓	年報15
95-1	K・L-5・6区	中央図書館建築工事(3次)	古墳時代 弥生時代	溝状遺構 遺物包含層	年報19 報告書3
95-4	Q-4・5区	幼稚園舎建設工事	古墳時代	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	報告書4
95-5	H-9区	情報処理センター増築工事		河川跡・水田跡	報告書2
96-1	K-5区	防火水槽取設工事	古墳時代	竪穴建物跡群	
97-1	J-10・11区	工学部校舎建設工事	弥生時代 縄文時代中期	水田跡 土器・石器・挟状耳飾り転用垂飾品	報告書11
99-1	J・K-4区	文系総合研究棟建設工事	近世・中世 古墳時代	畑跡 竪穴建物跡群・土器集中遺構、土器・ 須恵器・鉄斧・玉類	
2000-1	I・J-4区	共同溝埋設工事	古墳時代	竪穴建物跡群、土器・須恵器	
2001-1	M-4・5区	サークル棟建設工事	弥生時代 古墳時代	中期溝状遺構、ピット群 遺物	年報17
2001-2	J-7・8区	理学部改修工事	古墳時代 弥生時代	竪穴建物跡群、溝跡 竪穴建物跡	
2002-1	J・K-9・10区	理工系総合研究棟建設工事	弥生時代	水田跡など	報告書14
2002-2	H-12・13区	VBL棟建設工事	近世～弥生時代	河川跡、木杭列など	
2003-1	R-9・10区	教育学部附属中学校体育館改修工事	古墳時代	遺構 遺物	
2005-1	R-5・6・7区	教育学部附属小学校校舎改修工事	近代や中世 幕末前後 中世～弥生時代 中期	溝 銃弾 遺物	

Tab. 3 鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査（3）

調査コード	地区	事業名	主な時代	主な遺構・遺物	掲載文献
2005-3	Q-10 区	教育学部附属中学校保存住居跡埋め戻工事	古墳時代	竪穴建物跡	報告書 3
2005-4	D-7・8 区	農学部 5 号館改修工事	近世～弥生時代	遺物包含層	報告書 5
2006-2	D・E-5 区	農学部 1 号館改修工事	近世	高等農林建物跡 水田跡	報告書 5
2006-3	R・S-4・5 区	教育学部附属小学校改修工事（2 次）	近代 古墳時代～弥生時代	畑跡 遺物包含層	
2006-4	C-5・6 区	農学部 2 号館改修工事	近世 弥生時代～近世	水田跡 河川跡	報告書 5
2007-2	I・J-5・6 区	共通教育棟 2 号館改修工事	近代～弥生時代	水田跡，水路，竪穴建物跡群	年報 32
2007-4	C-6 区	南九州地区軽種馬医療体制整備事業	近代 中世以前	水田跡 川跡	報告書 5
2009-1	Q・R-8・9 区	教育学部附属中学校増築・改修工事	古墳時代	竪穴建物跡・ピット群，土器	報告書 9
2009-2	J-5 区	共通教育棟樹木移植工事	古墳時代	住居跡	
2011-1	S・T-7～9 区	教育学部附属中学校グランド改修その他工事	古墳時代 古代	土器 土師器等	報告書 9
2012-1	H・I-3～5 区	大学会館他解体等工事（学生支援センター）	古墳時代 縄文時代	水田跡（小畔・大畔・水路・足跡）・竪穴建物跡群，土器・須恵器・磨製石鏃， 焼土跡，土器	
2012-2	Q-10 区	教育学部附属中学校倉庫設置工事	古墳時代	土器	報告書 9
2013-1	C-4 区	産業動物飼育実習棟建設工事	江戸時代	水田跡・建物跡・河川跡・護岸用施設， 陶磁器・桶	
2013-2	I-9 区	電気・電子工学科棟改修工事に伴う発掘調査			本書 2 章
2014-1	O・P-6・7 区	教育学部学習プラザ建設工事	古墳時代～古代	溝状遺構，土師器・土器・須恵器	
2014-2	F-6 区	保健管理センター増築工事	江戸時代	水田跡	本書 3 章
2018-1	I・J-3・4 区	稲盛記念会館建設工事	古墳時代	竪穴建物跡群・掘立柱建物跡，土器・ 須恵器・石庖丁・磨製石鏃・玉類	
2018-2	R～T-7～9 区	附属中学校ブロック塀補強工事	中世・古代・古墳時代	ピット	本書 4 章
2019-2	I-4 区	稲盛記念館配管工事	古墳時代	竪穴建物跡・成川式土器	

掲載文献：「年報」＝『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』

「報告書」＝『鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書』

『鹿児島大学埋蔵文化財センター調査報告書』

第2章 郡元団地 I-9 区電気電子工学科棟改修工事に伴う発掘調査

1. 調査に至る経緯

鹿児島大学では、郡元団地の工学部電気電子工学科棟において校舎増築・改修工事が予定された。同地点の北側には、弥生時代～近世の水田跡が確認され（学術情報基盤センター（83-1・87-2・95-5））、東側には弥生時代～古墳時代の河川跡（釘田第8地点（76-1））、南側には古墳時代の集落跡（理学部3号館増築地（85-1）、理学部1号館中庭（2001-2））が確認されている（Fig. 3）。そのため、埋蔵文化財調査センターにおいても、河川跡、水田跡、集落跡の重なる地点として注意している。このことから、今回の改修工事に先立ち、埋蔵文化財の調査を行なう必要が生じた。そこで、平成25（2013）年8月21日、調査地点において大学埋蔵文化財調査センター、施設部、国際文化財㈱と協議しながら、調査地点を確認した（PL. 1・2）。

2. 調査体制と期間

発掘調査は、以下の体制と期間で実施された。

調査コード	2013-2
所在地	鹿児島市郡元 1-21-40
調査起因	工学部電気電子工学科棟改修その他工事
発掘期間	平成25（2013）年10月1日～10月25日
調査面積	約55㎡
調査体制	
発掘主体者	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長 教授 新田栄治
発掘指導員	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 助教 新里貴之
管理技師	国際文化財株式会社 浦壁 晃
調査員	国際文化財株式会社 長尾 聡子
作業員	11名
遺跡の現状	校舎隣接地帯

3. 調査の経過

今回の調査地点は2か所で、工学部電気電子工学科棟に南接する。西側小トレンチを1トレンチ（3.6㎡）、東側を2トレンチ（51.5㎡）として呼称した（Fig.4）。

1トレンチは、10月1日より調査を開始した。3×1.2mのトレンチであるが、深さ40～60cmで南北壁面側から配管が検出され、バケットが入らなくなり、重機での表土除去は断念した。その下位を人力で掘削していたところ、地表下1.1mで水が湧き出し調査不可能となったので、写真撮影、測量を行い、翌2日、トレンチを埋め戻して調査を終了した。これは後に、水道管の漏水によるものと判明した。

2トレンチは10月2日より調査を開始した。3.5×15m弱のトレンチであるが、調査区内は23本の配管が走っており、ガスの漏気、屋外受水槽の漏水などにより、調査が中断されることが多かった。これらの配管については、工事中も使用するものであるため、切り廻しは不可であるとのことであった。そのため、重機による表土掘削はほぼ不可能となり、表土層から人力掘削を余儀なくされた。7・8日は台風24号襲来のため調査を中止し、9日は復旧作業に従事した。

2トレンチは工事深度の関係上、調査深度は1.5mまでとされており、調査の結果は当初の予想通り、河川跡のなかを掘削したことになる。遺構などは確認されなかった。3・4層下部で古墳時代のものと思われる土器片が主体的に出土した。近世以降の遺物は2・3層および攪乱層より一定量出土した。各層で写真撮影、測量を行い、10月11日に調査を終了した。残りの期間は、遺物の整理作業に当て、25日全ての作業を終了した。

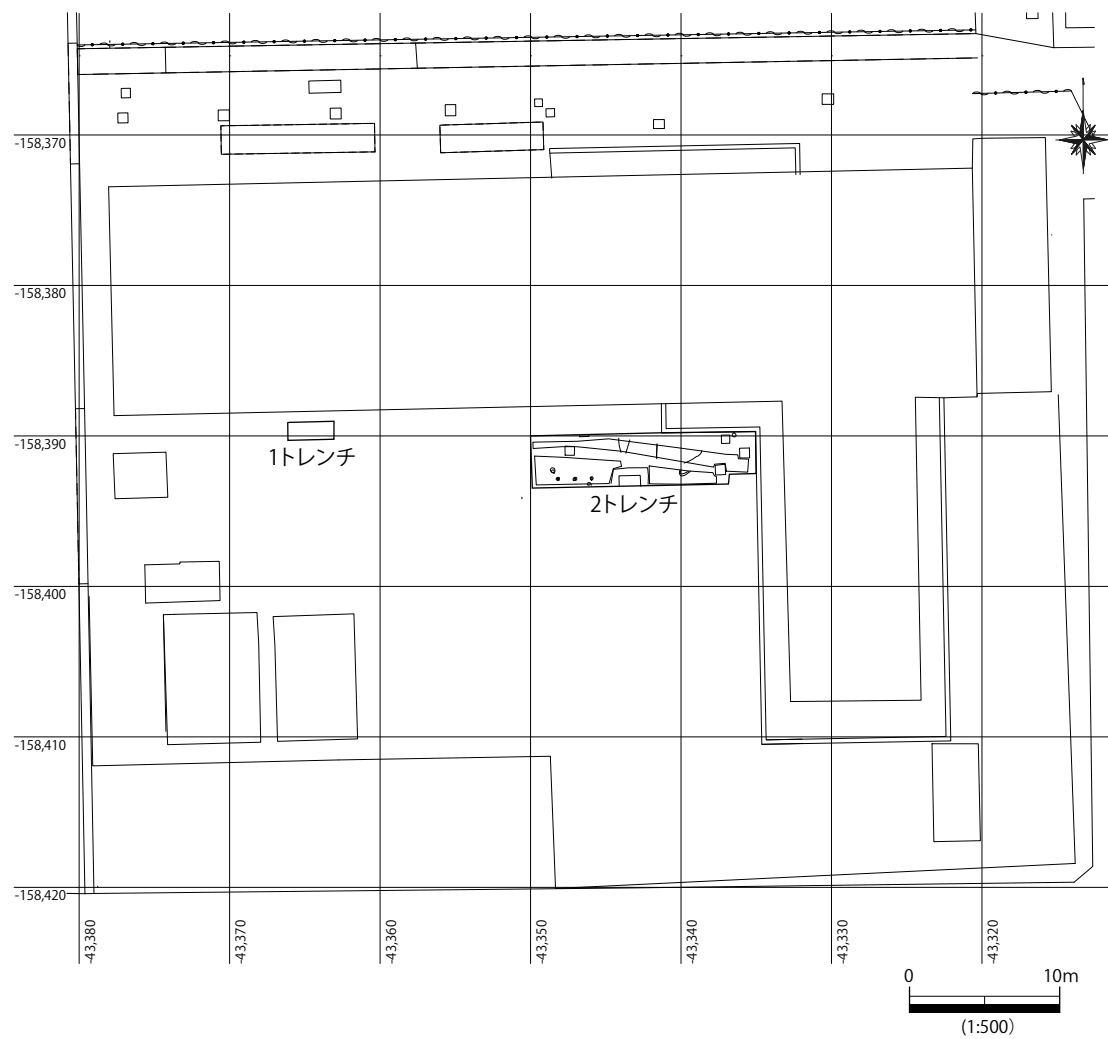


Fig. 4 調査区の位置 S= 1/ 500



PL. 1 調査前状況 (南より)



PL. 2 調査前状況 (西より)

4. 調査トレンチと基本土層

調査トレンチは、校舎建築や配管・マンホールなどの設置など、後世の大規模な攪乱によって表土から包含層にかけての土層が確認できる場所は限定されていた。2 トレンチでは南壁と西壁の一部が該当箇所である。1 トレンチでは漏水による冠水のため、土層が調査深度（GL-1.5m）まで確認できなかった（Fig.5・6, PL.3・4）。

2 トレンチは、掘削深度 1.5m まで河川堆積物であったが、調査区底面の土層については、西側で 4 層が検出され、東側で 3 層が検出されている。したがって、旧河川の堆積は、東方面の河口付近にむかって緩やかに傾斜するものと考えられた。

基本土層として、大別して 4 枚の層が確認された（Fig.8・9, PL.8～11）。1 層の攪乱層、2 層の水田層（?）、3・4 層の河川埋土の砂層である。2 層では近世の遺物が、3・4 層では摩滅した古墳時代の土器が出土した。

1 層：鹿児島大学時代の造成土層。それ以前と考えられる水田層もブロック状に混じる。遺物数が多い。

2 層：近世の水田層。2 層に細分される。遺物数は少ない。

a 層：黄褐色 10YR5/6 シルト質細砂。しまり悪い。

b 層：灰黄褐色 10YR4/2 砂質シルト。ややしまり悪い。調査区の南壁中央部のみでみられる。

3 層：灰白色 10YR7/1 細砂ベースに、極暗褐色 7.5YR2/3 マンガンが斑状に入る。遺物数は少ない。

4 層：にぶい黄褐色 10YR4/3 粗砂ベースに、黒褐色 10YR2/3 礫、0.5～2cm 大のパミスが多量に含まれる。遺物が最も多く、その大半が摩滅している。

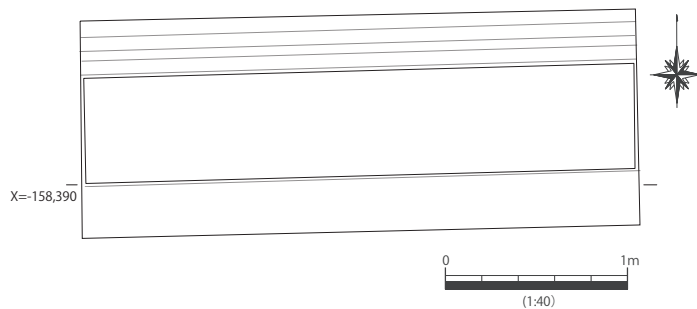


Fig. 5 1 トレンチ上面 S=1/40

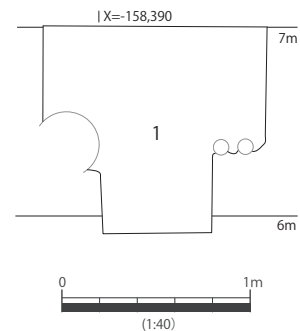


Fig. 6 1 トレンチ西壁 S=1/40



PL. 3 1 トレンチ上面 (南より)



PL. 4 1 トレンチ西壁

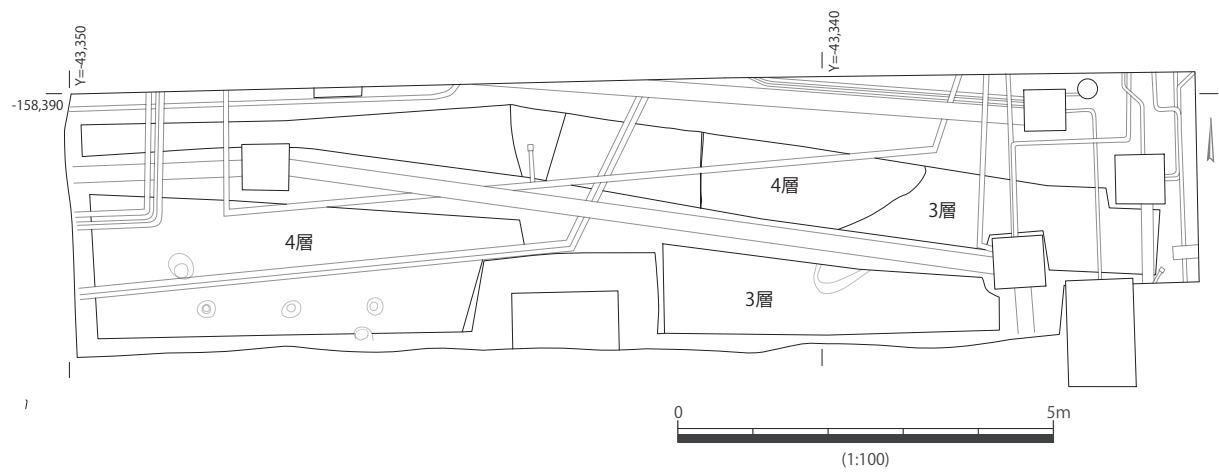


Fig.7 2 トレンチ上面 S=1/100



PL. 5 2 トレンチ完掘 (東より)



PL. 6 2 トレンチ完掘東半部 (北より)



PL. 7 2 トレンチ完掘西半部 (北より)

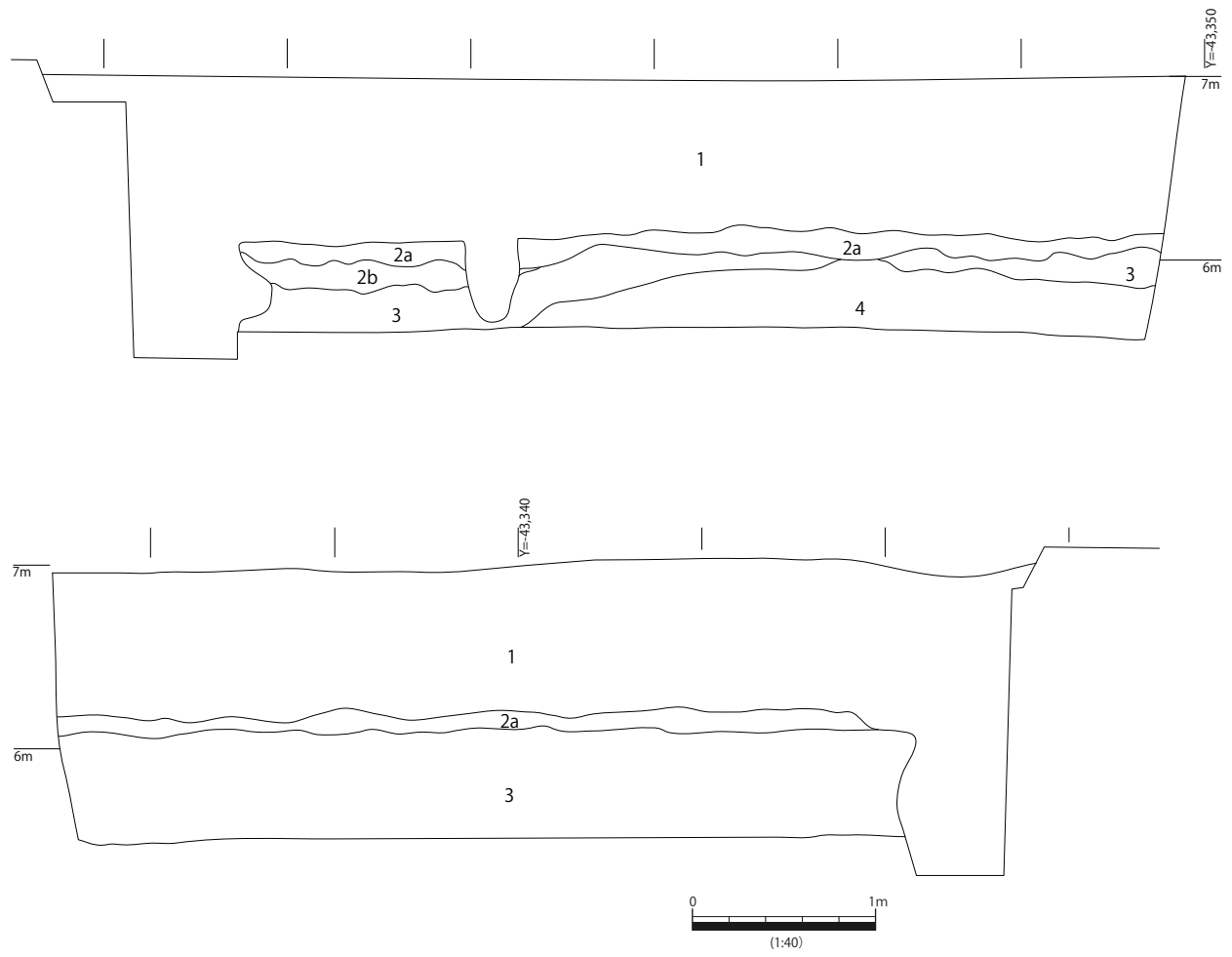


Fig. 8 2 トレンチ南壁 S=1/40

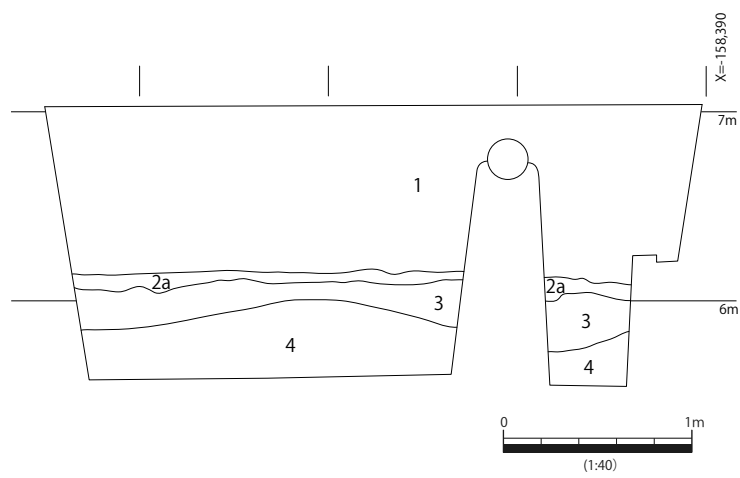


Fig. 9 2 トレンチ西壁 S=1/40



PL. 8 南壁東半部



PL. 9 南壁西半部



PL. 10 西壁南半部



PL. 11 西壁北半部

5. 出土遺物 (Fig.10, PL.12)

1 トレンチからは遺物は出土せず、2 トレンチより 75 点の遺物が出土した (Tab.4)。遺物は縄文時代～現代の遺物であるが、土器は全て著しく摩滅している。

1・2 層は陶磁器類が出土するため、近世～現代の層として捉えることができる。1 点、火打石が得られたがかなり小さい。

3・4 層では陶磁器が見られなくなり、摩滅した土器がほとんどである。1 点のみ不純物の多い黒曜石の破片が得られている。破片の多さから判断して弥生時代～古墳時代の河川堆積層であり、これに縄文時代遺物も若干混じるのであろう。

縄文土器は無文小破片のみで時期、型式ともに不明である。弥生～古墳時代土器は、成川式土器も見られるが、小破片で摩滅が著しく、明確にし得ない。

Tab.4 2013-2 出土遺物

	縄文土器		弥生 古墳時代土器	黒曜石	近世										近代磁器	現代磁器	火打石	計
					薩摩焼							肥前磁器	不明陶器	不明陶器				
					苗代川			加治木始良系	龍門司系	薩摩磁器								
鉢	擂鉢	土瓶	灯火具	油壺	碗	染付皿	染付碗	壺	器種不明	皿	碗							
1層		9		1		1	1	1	1	2		2	3	1	4		26	
2層		1			1	1					1	2	2		1	1	10	
3層		1															1	
4層	3	34	1														38	
計	3	45	1	1	1	2	1	1	1	2	1	4	5	1	5	1	75	

近世の遺物は薩摩焼や肥前磁器が得られている。近代は型紙刷りの皿が得られた。

以下、主要な遺物について紹介する (Fig.10, PL.12, Tab.5～7)。

1～7は1層出土遺物である。

1は成川式土器甕の口縁部であり、口唇部は外側を抑え舌状を呈する。摩滅が著しいが、内面に横斜位の刷毛目を確認できる。弥生時代終末期～古墳時代初頭の中津野式土器の可能性もある。

2は薩摩焼苗代川系の陶器鉢である。口縁部断面がL字状を呈する。内外面に横位の刷毛目が著しい。19世紀以降の製品と考えられる。3は薩摩焼加治木・始良系の灯火具である。胴部は内外面に著しくロクロ成形痕が残る。緑色系の釉調であるが、口唇部は平坦に釉が掻き取られる。底面は糸切りによる痕跡が著しい。受け皿の部分がほとんど細かい敲打で割られており、意図的に打ち欠いた可能性もある。18世紀の製品である。4は陶器壺の底部と思われる。内面はロクロ成形痕が著しく凹凸を形成している。外面は底部立ち上がり近くまで透明釉がかけられる。系統や年代などは不明である。

5・6は1層最下部からの出土遺物である。

5は肥前磁器のいわゆるタコ唐草文を内面に有する染付輪花皿である。外面は全体像が不明だが、唐草文が展開していたと思われる。19世紀代の製品である。6は薩摩焼龍門司系の陶器油壺で、残りは悪い。外面に白化粧を施す。底部は浅い高台状になっており、内面にはロクロ成形の凹凸が著しい。18世紀後半以降の製品である。

7・8は2層出土遺物である。7は薩摩焼苗代川系陶器播鉢である。播目は粗く18世紀以降の製品と考えられる。8はチャート製の火打石である。非常に小さいが、下部以外の稜のほとんどに著しい潰れが見られる。

3層出土遺物は9のみである。9は土器壺の外反する口縁部である。口唇部は平坦におさえる。摩滅が著しく器面調整は確認できない。

10～14は4層出土である。

10は細い突帯を横位に配する土器甕胴部である。調整は摩滅のために不明であるが、内面に縦位の指頭痕が残っている。11は成川式土器の壺と思われる。細い刻目突帯文を巡らす。刻みは右上がりの斜位であり、刻みのなかに布目のような圧痕が残っている。12は成川式土器の甕脚部の破片である。13は成川式土器の小壺と思われる資料の肩部である。薄手に仕上げられており、口縁部内面に弱い稜を形成する。

14は摩滅の著しい無文胴部であるが、表面に浅く貝殻条痕が残る。縄文土器と考えられる。

6. まとめ

本調査地点は、表土を著しく攪乱され、かつ地表下150cmまでと工事深度が浅かったため、遺構は確認されず、遺物も少なかったことから、遺跡の詳細な履歴を把握することは困難であった。

しかしながら、3・4層に弥生時代～古墳時代の河川堆積物が良好に残存していることが確かめられたことから、工事深度によっては釘田第8地点のように、木杭や木製品も出土する可能性がある。今後も工事に際しては、工事深度に応じた慎重な対応が必要であろう。

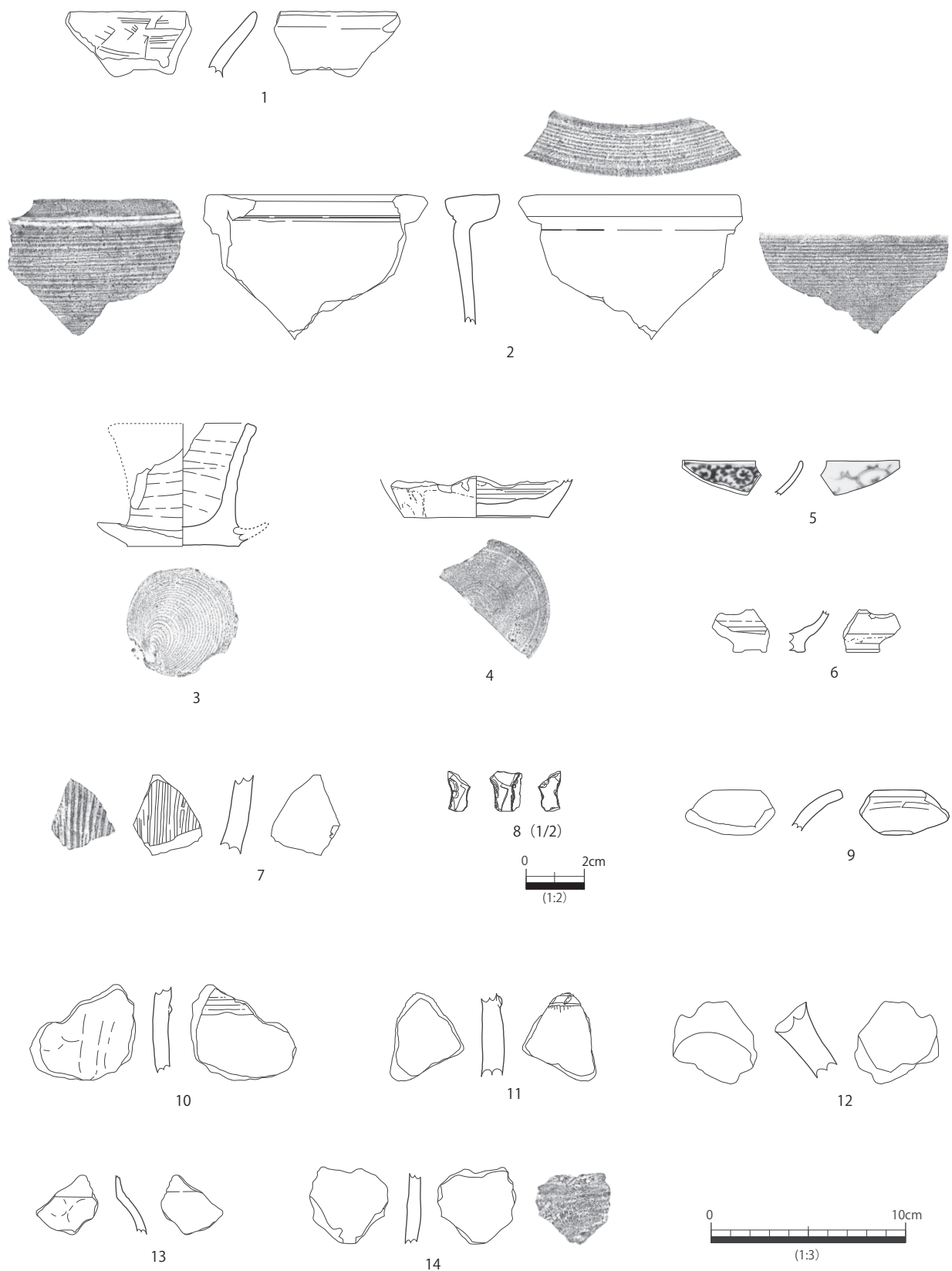


Fig.10 出土遺物 S=1/3



PL.12 出土遺物

Tab. 5 土器観察表

No.	地区	層	型式等	器種	部位	文様	調整(表)	調整(裏)	混和材	色調	備考
1	2Tr	1	弥生～古墳時代 土器	甕	口			ハケメ(ー)(へ)	白・黒色粒(少), 石英	表・裏: 褐7.5YR4/4 器肉: 黒7.5YR2/1	摩滅.
9	2Tr	3	弥生～古墳時代 土器	壺	口				赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	表・裏・器肉: にぶい黄褐 10YR5/4	摩滅.
10	2Tr	4上	弥生～古墳時代 土器	甕	胴	突帯		指頭圧痕()	赤・白・黒色粒(少), 石英, 長 石, 礫(少)	表・裏・器肉: にぶい橙5YR7/4	摩滅.
11	2Tr	4	弥生～古墳時代 土器	壺	口	突帯 (刻目: 布痕)	ヘラナデ() →ナデ		白・黒色粒, 石英, 長石	表: 暗赤灰10R3/1 裏: 褐10YR4/4 器肉: 黒褐10YR3/2	摩滅.
12	2Tr	4	成川式土器	甕	脚				赤・白・黒色粒, 微砂粒, 石英, 礫(少)	表: 橙5YR6/8 裏: にぶい黄褐10YR4/3 器肉: 赤褐5YR4/6	摩滅.
13	2Tr	4上	弥生～古墳時代 土器	小壺	肩			ナデ(ー)	赤・白・黒色粒, 微砂粒	外・内橙5YR6/6 器肉: 浅黄橙8/6	摩滅.
14	2Tr	4	縄文土器		胴		貝殻条痕(ー)		黒色粒, 微砂粒, 石英	表: 黒褐10YR2/2 裏・器肉: 暗褐7.5YR3/4	摩滅.

Tab. 6 陶磁器観察表

No.	地区	層	種別	器種	部位	色調(釉)	色調(素地)	備考
2	2Tr	1	陶器	鉢	口	黒褐7.5YR 3/1	褐灰7.5YR5/1	苗代川. 19C以降～近代.
3	2Tr	1	陶器	灯火具	完形	にぶい黄褐10YR 4/3	にぶい赤褐2.5YR5/4	加治木始良系. 18C. 底径5.7cm.
4	2Tr	1	陶器	壺	底	透明	灰黄2.5Y6/2	底径(7.4cm).
5	2Tr	1下	染付	皿	口	暗青灰5B 3/11に近い	灰白N8/	肥前. タコ唐草文. 19C.
6	2Tr	1下	陶器	油壺	底	灰白2.5Y 8/2	暗赤褐5YR3/3	龍門司系. 18C後半～. 白化粧土.
7	2Tr	2	陶器	播鉢	胴	黒褐5YR 2/1	暗赤褐5YR3/2	苗代川. 18C以降.

Tab. 7 石器観察

No.	地区	層	種別	器種	サイズ (cm)			重量 (g)	石材	備考
8	2Tr	2	石器	火打石	最大長	最大幅	最大厚	93	チャート	下端以外の稜は全て潰れる.
					1.3	1.2	0.6			

第3章 郡元団地 F-6 区保健管理センター増築工事に伴う発掘調査

1. 調査に至る経緯

鹿児島大学では、郡元団地内において保健管理センター北側の増築改修工事が予定された。

工事地点は、鹿児島大学構内遺跡郡元団地北東部に位置し、過去の調査では縄文時代中期～近世にいたる複数の包含層が確認されている。本調査地点北側では弥生時代の竪穴建物跡と近世水田跡（2006-2_農学部1号館）、東側では近世の土取り穴（89-3_大学院連合農学研究科棟）、南側では植物園から学習交流プラザ（2014-1）にかけて旧河川跡が検出されている。本地点では土層の残存状況が不明であったため、本調査に先立ち2014年1月前半にボーリングにより7mの深度までの土層確認を行ったが、実施場所が1.5mの深さまで高压電線敷設により攪乱を受けおり、プライマリーな土層の様相が判明しなかった。そのため急遽、2014年3月25～28日に試掘調査を行い、再度確認を行うこととなった¹⁾。その結果、北側に隣接する2006-2（農学部1号館）の調査地点と類似し、近世の水田層および弥生・古墳時代の包含層が存在していることから、本地点においても発掘調査を行うこととなった。

2. 調査体制と期間

発掘調査の体制と調査期間等は以下の通りである。

調査コード 2014-2

所在地 鹿児島市郡元一丁目21番24号

調査期間 平成26（2014）年5月22日～7月2日

調査面積 136㎡

調査体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
新田栄治

調査指導員 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
特任助教 寒川朋枝

調査員 国際文化財株式会社 長林大

作業員 国際文化財株式会社 23名



1 掘削開始前（北西から）



2 表土・2層掘削後（西から）

PL. 13 調査開始時の状況

3. 調査の経過

調査は平成 26 年 5 月 22 日より、重機による表土掘削を行った。その後、人力により攪乱部の掘削を行い、6 月 2 日より包含層の掘削を行った。調査区は便宜的に、南西隅の機械点 K1 (X=-158255.254, Y=-43197.878) より 5 m 間隔で区分し、西→東方向に 1～4 区、南→北を a・b 区とし、遺物取上等の際には a-1 区、b-1 区、…と表記することとした。旧保健管理センター建物に近い南側と、道路に面する北側は現代のカクランを多く受けていた。包含層は一層ごとに掘り下げ全景の写真撮影、遺構検出作業を行い、遺構が検出された場合は掘削・写真撮影のほかを行った。7 層上面まで掘り下げた後、調査区内一か所で深堀トレンチを設定して下層確認を行った。遺構検出面は全部で 6 面あった。

平成 26 年 5 月 22～26 日	重機による表土剥ぎ
平成 26 年 5 月 27～30 日	人力による攪乱掘削、2・3a 層上面検出
平成 26 年 6 月 2～10 日	3 層掘削 (5 月 30 日～6 月 2 日:3a 層掘削, 6 月 3・4 日:3b 層掘削, 6 月 5・6 日:3c 層掘削, 6 月 9 日:3d 層掘削, 6 月 10 日:3e 層掘削)
平成 26 年 6 月 11～16 日	4 層掘削 (6 月 11・12 日:4a 層掘削, 6 月 13・16 日:4b 層掘削, 6 月 16 日:4c 層掘削)
平成 26 年 6 月 17～25 日	5 層掘削 (6 月 17～23 日:5a 層掘削, 6 月 24 日:5b 層掘削, 6 月 25 日:5c・d 層掘削)
平成 26 年 6 月 26～30 日	6 層掘削
平成 26 年 7 月 1 日	7 層上面遺構完掘
平成 26 年 7 月 2 日	下層確認トレンチ調査

4. 基本土層 (Fig. 12・13, PL. 14)

本調査区の基本土層としては、1 層～11 層まで設定した。1 層は現代の盛土もしくはカクラン土、2～5 層は近代・近世の耕作土に該当し、6 層は弥生～古墳時代と想定される。5 層は近世の水田層と考えられるが、その水田造成により 6 層もしくは 7 層まで削平され、6 層である先史時代の層は調査区北側に部分的に残存する状況である。以下に基本層所を示す。

1 層：表土・攪乱。

2 層：灰黄褐色 10YR5/2・にぶい黄褐色 5/3 細砂シルト層。

2 層は部分的に堆積していたが、出土遺物もないため時期が不明である。近代の可能性もある。

3 層は黄褐色砂質砂質シルトを基調とし、3a～3f 層まで 6 つに細分した。

3a 層：にぶい黄橙色 10YR7/2 シルト層。

3b 層：灰黄褐色 10YR6/2 細砂シルト層。

3c 層：灰白色 10YR8/2 細砂シルト層。白色のパミスが混ざる。上面に畝間溝を検出した。

3d 層：明黄褐色 10YR6/6 細砂層。鉄分とパミスを少量含む。上面に畝間溝を検出した。

3e 層：灰黄褐色 10YR5/2 粘質シルト層。堆積は薄く数 cm 程度であり、部分的に認められる。

3f 層：灰白色 10YR8/1 細砂層。4a 層土ブロックを含む。調査区内で部分的に認められる。

4 層は灰黄褐色シルトを基調とし、4a・4b 層の二つに細分した。

4a 層：灰黄褐色 10YR5/2 砂質シルト層。マンガンが浸透する。上面にて足跡、耕作痕を検出した。

4b 層：灰黄褐色 10YR5/2 粘質シルト層。下層には白色の細砂が混ざる。マンガンが浸透する。上面で 5 層土で形成された疑似畦畔の上面が露出した。

5 層は灰色シルトを基調とし、5a～5d 層まで 4 つに細分した。

5a 層：褐灰色 10YR5/1 シルト層。部分的に、青灰色 10BG を呈する。マンガンが浸透する。上面には、疑似畦

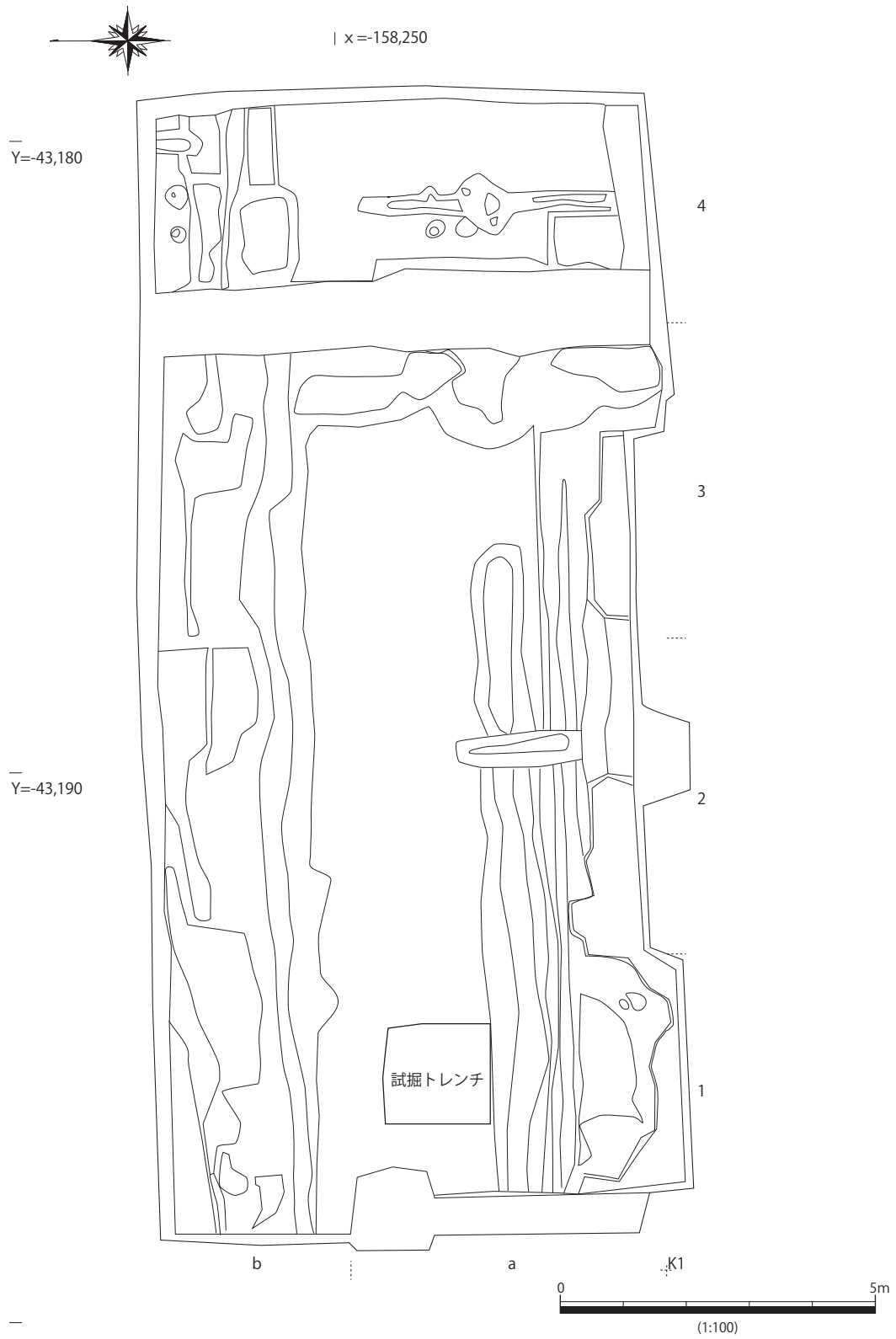


Fig. 11 表土除去後平面図 S=1/100

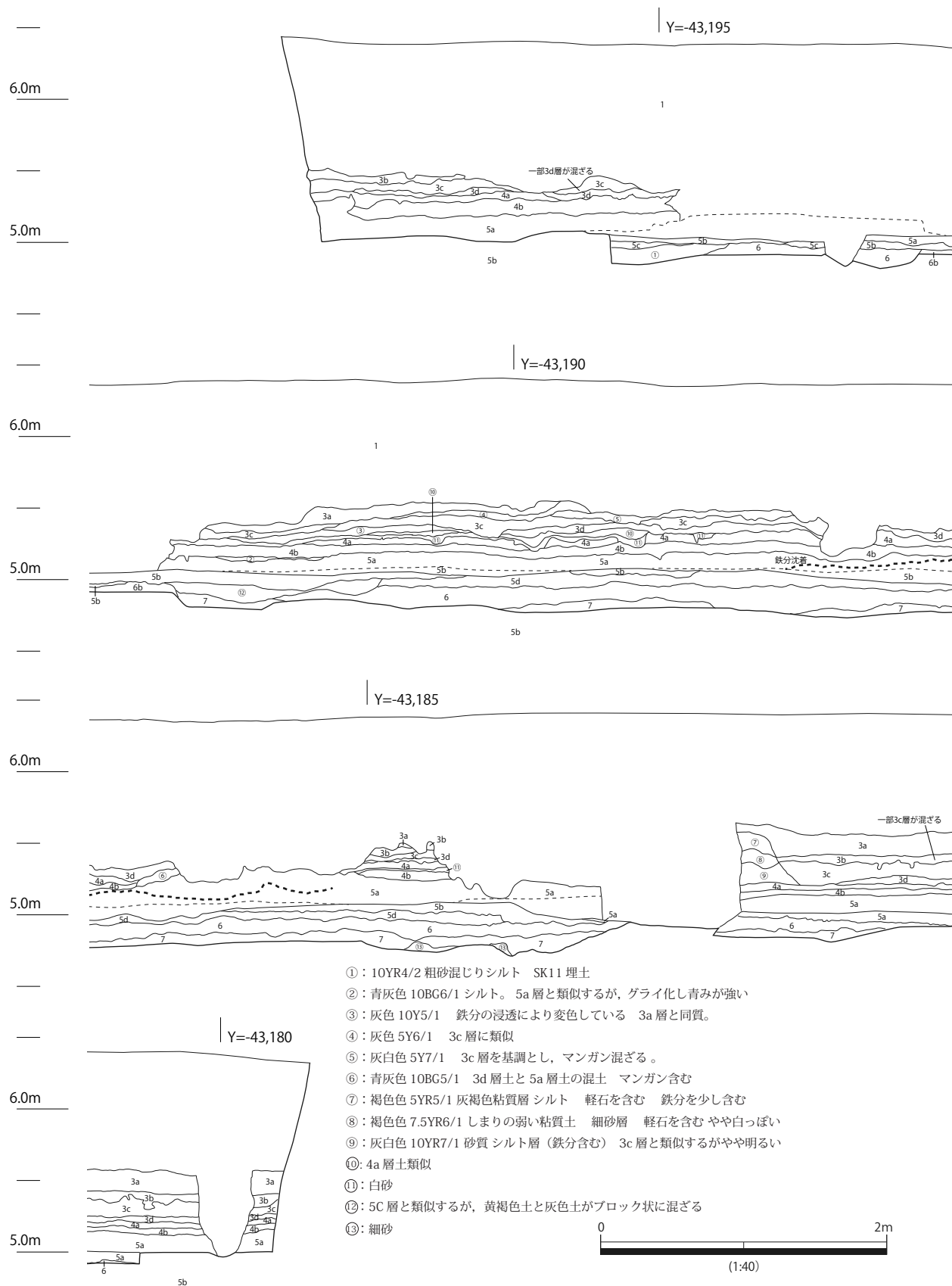


Fig. 12 北壁土層断面図 S=1/40

畔や足・手跡、耕作痕などの遺構が検出された。下層に遺物が比較的多く出土した。

5b 層：褐灰色 10YR5/1 シルトを基調とし、粗砂が混じる。白色パミスが含まれる。

5c 層：灰黄褐色 10YR5/2 粗砂に明黄褐色 10YR6/6 粗砂(6 層類似土)が混ざり、硬くしまる。白色パミスを含むが、下部に軽石が多く含まれる。

5d 層：にぶい黄橙色 10YR6/4 粗砂層。粗砂と白色パミスが含まれ、硬くしまる。

5c 層と 5d 層はほぼ同じレベルに堆積しており、5c 層は調査区西側、5d 層は東側に認められる。これらの上面では溝状遺構や土塋など遺構が検出されている。

6 層：黒褐色 10YR3/2 粗砂層。パミスを含む。調査区北側にまだらに残存しており、南側には堆積していない。6 層上面で土塋、溝状遺構 1 条、ピットなど遺構が検出された。

7 層は黄褐色粗砂を基調とし、7a～7d 層まで 4 つに細分した。

7a 層：明黄褐色 2.5YR6/8 粗砂層。

7b 層：にぶい黄橙 10YR7/4 粗砂層。

7c 層：明黄褐 10YR6/6 粗砂層。

7d 層：にぶい黄橙 10YR7/4 粗砂層。

8 層は、黒褐色シルトを基調とし、8a・8b 層二つに細

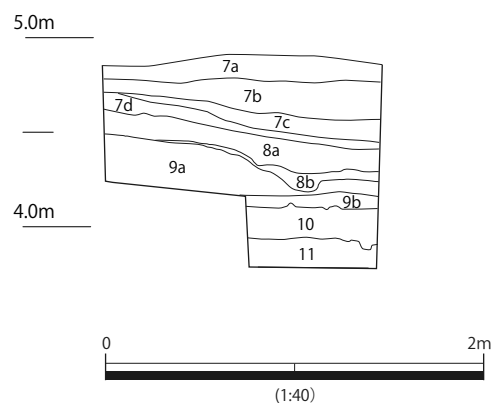


Fig. 13 下層確認トレンチ南壁土層断面図 S=1/40



1 北壁土層



2 南壁土層



3 下層確認トレンチ南壁

PL. 14 土層の状況

分した。

8a 層：黒褐 10YR3/1 シルト層。粘質で鉄分を含む。

8b 層：褐灰 10YR5/1 シルト層。粘質で鉄分を含む。

9 層は、明褐灰色細砂を基調とし、9a・9b 層の二つに細分した。

9a 層：明褐灰 7.5YR7/2 細砂～粗砂層。

9b 層：黄橙 10YR8/6 シルト層。粘質である。

10 層：黒色層 10YR2/1 シルト層。粘質で、泥炭化している。

11 層：灰白 10YR8/1 シルト層。軽石を含む。

5. 遺構

(1) 3c 層上面 (Fig. 14・15, PL. 15)

3c 層上面で遺構を検出した。a・b-1～3 区において、南西―北東方向に走る 16 条の溝状遺構を検出した。密集している a・b-3 区では各溝が 30cm 間隔で平行に位置している。溝の幅は約 20cm、深さは 2～4 cm と浅い。上部は掘削されたものと推定される。平行でおおよそ等間隔である事から、畝間溝であると推定される。

(2) 3d 層上面 (Fig. 16・17, PL. 16)

3d 層上面で、20 条の溝状遺構を検出した。3c 層上面検出遺構と同じく、いずれも南西 - 北東方向に平行に走る。溝の幅は約 20cm、深さは 2～4 cm と浅い。上部は掘削されたものと推定される。重なっているものもあるものの、約 70～150cm の間隔で 3c 層に比べるとまばらだが、規模も 3c 層上面検出畝間溝と類似する事から、同様な遺構であると推定される。

(3) 4 層上面 (Fig. 18・19, PL. 17・18)

4a 層上面は、3d～3f 層土が埋土となる浅い凹凸が多く認められ、足跡や耕作痕の可能性が考えられる。また b-1 区に密集して、南北方向に帯状の窪みが 9 条認められた。幅 7～20cm、深さ 5cm 以下と浅い。いずれも平行で短辺が細く尖り、浅い形状から、犁跡の可能性がある。埋土は、3d 層土と白細砂の混土である。

4b 層上面では、5 層土で作られた擬似畦畔上面が 4 条露出しているのが確認された (AZ1～4)。それぞれの擬似畦畔で区画された水田面に 4b 層土が堆積している。a・b-4 区では 4b 層上面に多数の小ピットが検出され、そのうち比較的大型の 7 個のみ測量を行った (Ps1～7)。これらは直径 15cm 前後、深さは 5 cm 以下と浅く、埋土は 4a 層土に白い細砂が混ざる。

(4) 5a 層上面 (Fig. 20・21, PL. 19)

5a 層上面では、擬似畦畔を 4 条検出した (AZ1～4)。AZ1・3・4 は平行に位置するが、東西方向よりやや南東側に、傾く。AZ2 は南北方向よりやや北東方向に走る。3c・3d 層上面で検出された畝間溝の方向よりやや北寄りである。擬似畦畔の上面は 4b 層上面より露出していたが、畦畔の断面は台形状で、下が広い。上面の幅は 20～26cm、下面は 30～40cm、高さは 10～25cm を測る。擬似畦畔の断面を見ると、上部は 4a 層の堆積によって覆われており、その際削平されている可能性が高い。畦畔断面の土層観察では、5a 層土と同質であり、盛土というよりは 5 層土を削り出すことによって形成されたように見える。

これらの畦畔に区切られた区画内はほぼ水平で、水田面として RF1～4 と呼称した。各面は検出レベルが異なり、RF3 が 5.15～5.1m、RF 1 は 5.1m 前後、RF2・RF4 が 5.05cm 前後と RF3 から東方、南方に階段状に傾斜している。水路や水口は確認できなかったが、本調査区より北側より給水しているものと推定される。

5a 層上面には、細長く浅い窪地や手跡・足跡状の浅い窪地が確認された。細長い窪地は、擬似畦畔の方向と平行で、鋤跡の可能性が高いと考えられる。

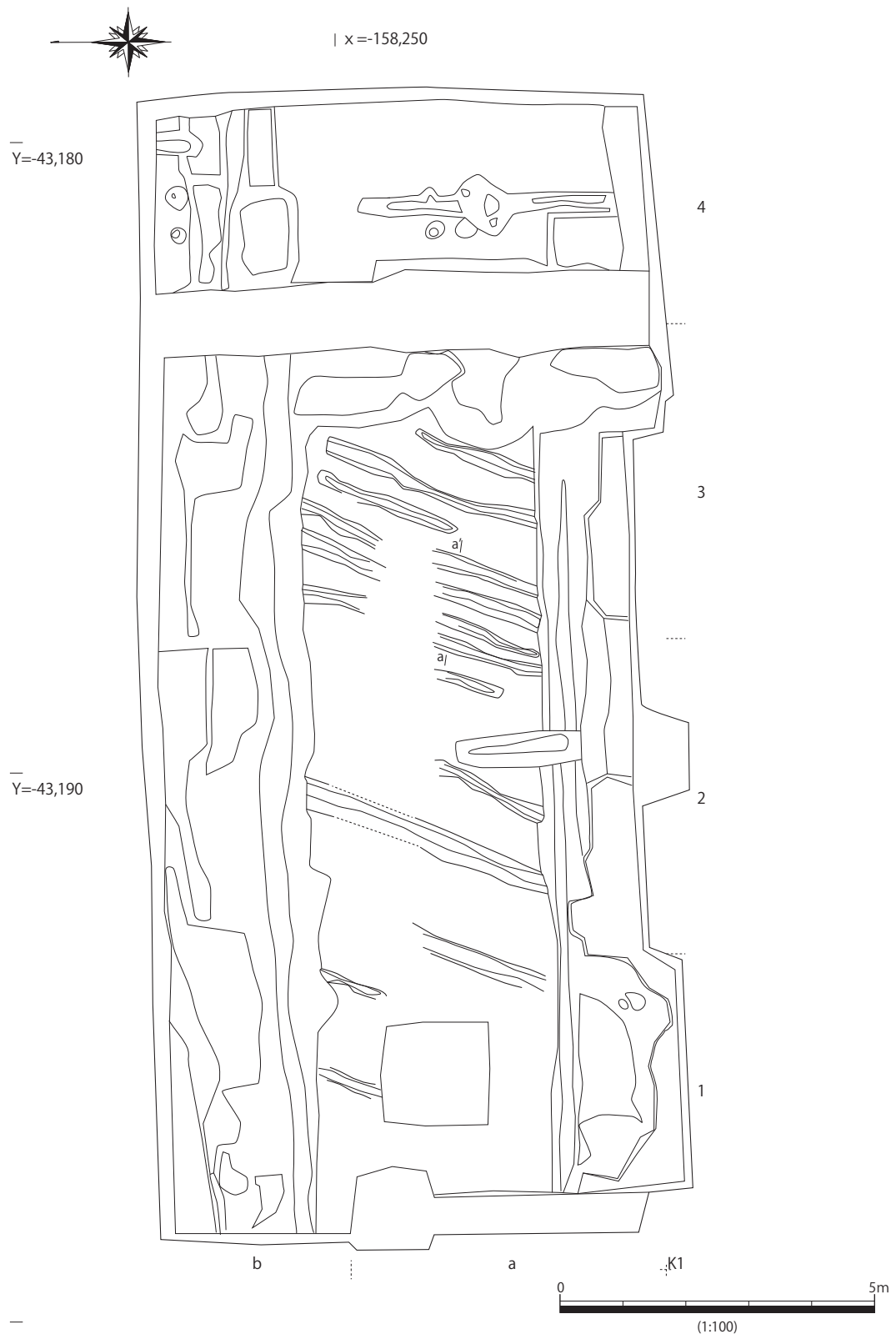


Fig. 14 3c 層上面検出遺構平面図 S=1/100

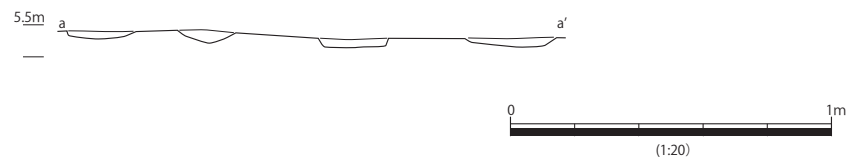


Fig. 15 3c 層上面検出遺構断面図 S=1/20



1 3c 層上面検出状況（東から）



2 3c 層上面検出状況，北東部（西から）



3 3c 層上面検出畝間溝検出状況（南から）



4 畝間溝埋土断面状況（南から）



5 3c 層上面畝間溝完掘状況（北西から）

PL. 15 3c 層上面検出状況

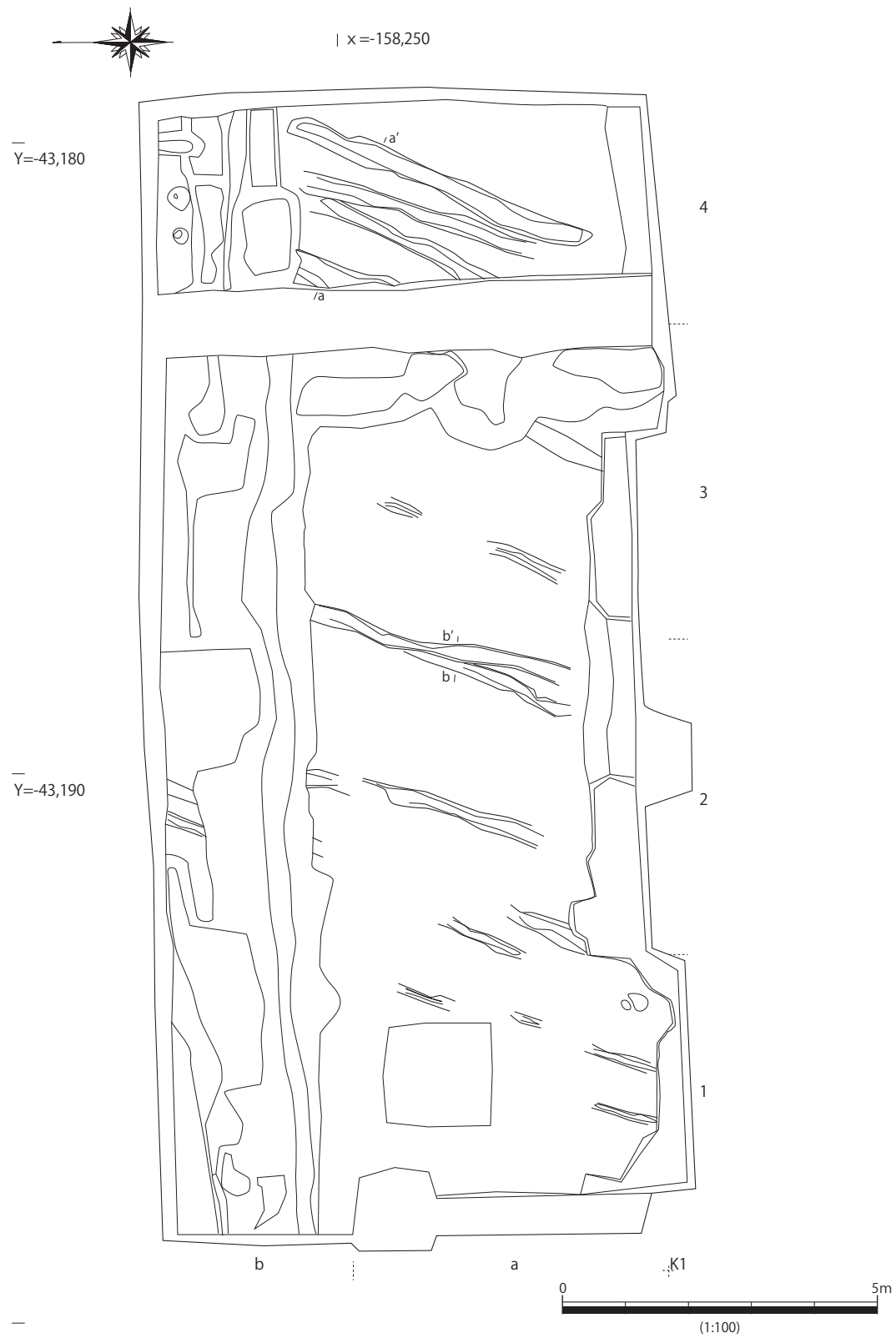


Fig. 16 3d 層上面遺構平面図 S=1/100

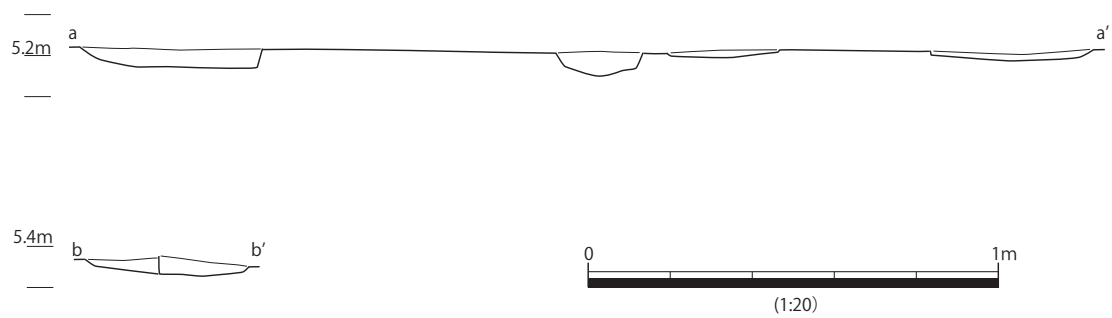


Fig. 17 3d 層上面検出遺構断面 S=1/20



1 3d 層上面検出（東から）



3 3d 層上面検出畝間溝 b-b'（東から）



2 3d 層上面検出畝間溝完掘状況，南西部（北東から）



4 3d 層上面検出畝間溝完掘状況，東部分（北東から）

PL. 16 3d 層上面遺構検出状況

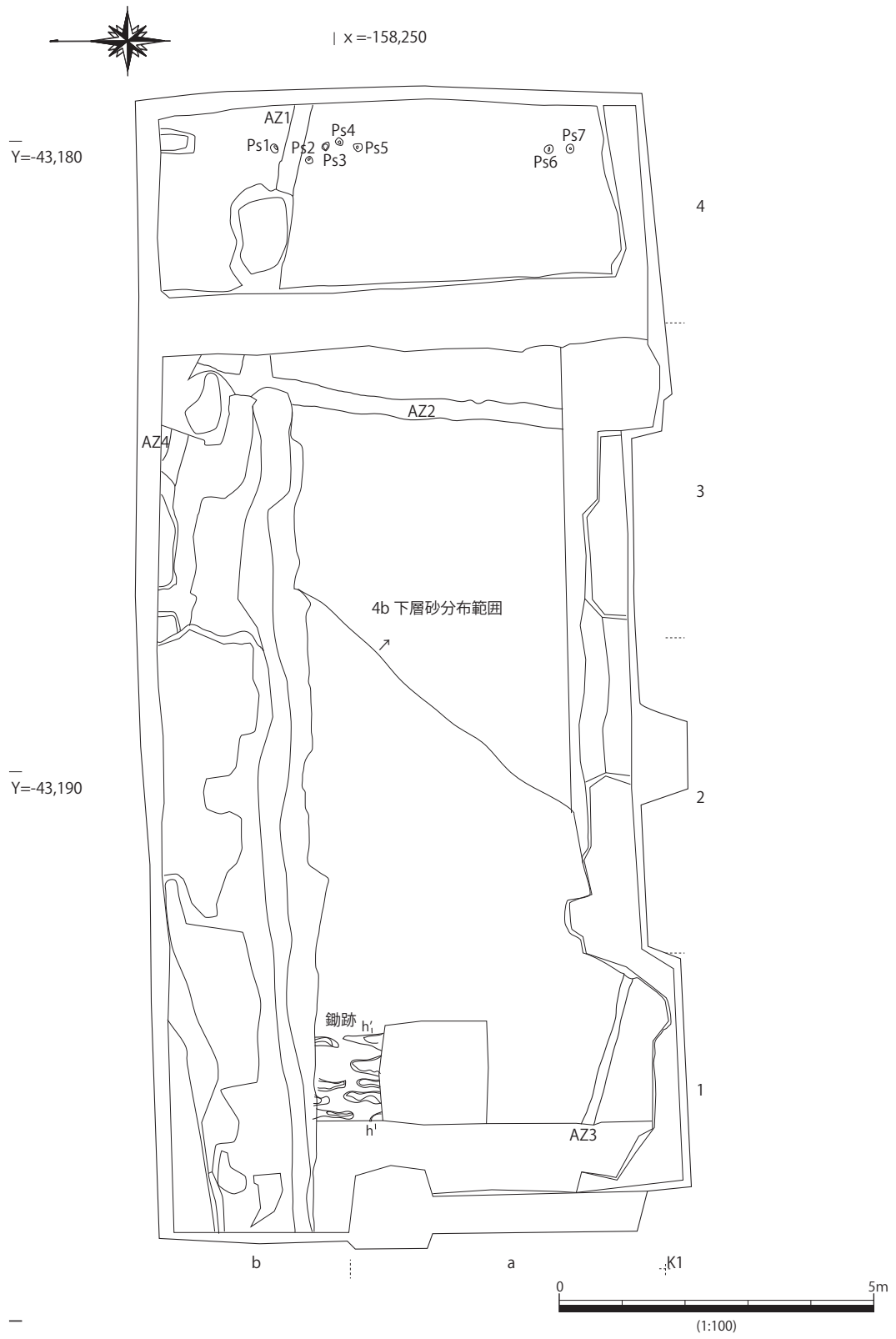


Fig. 18 4層上面検出遺構平面図 S=1/100

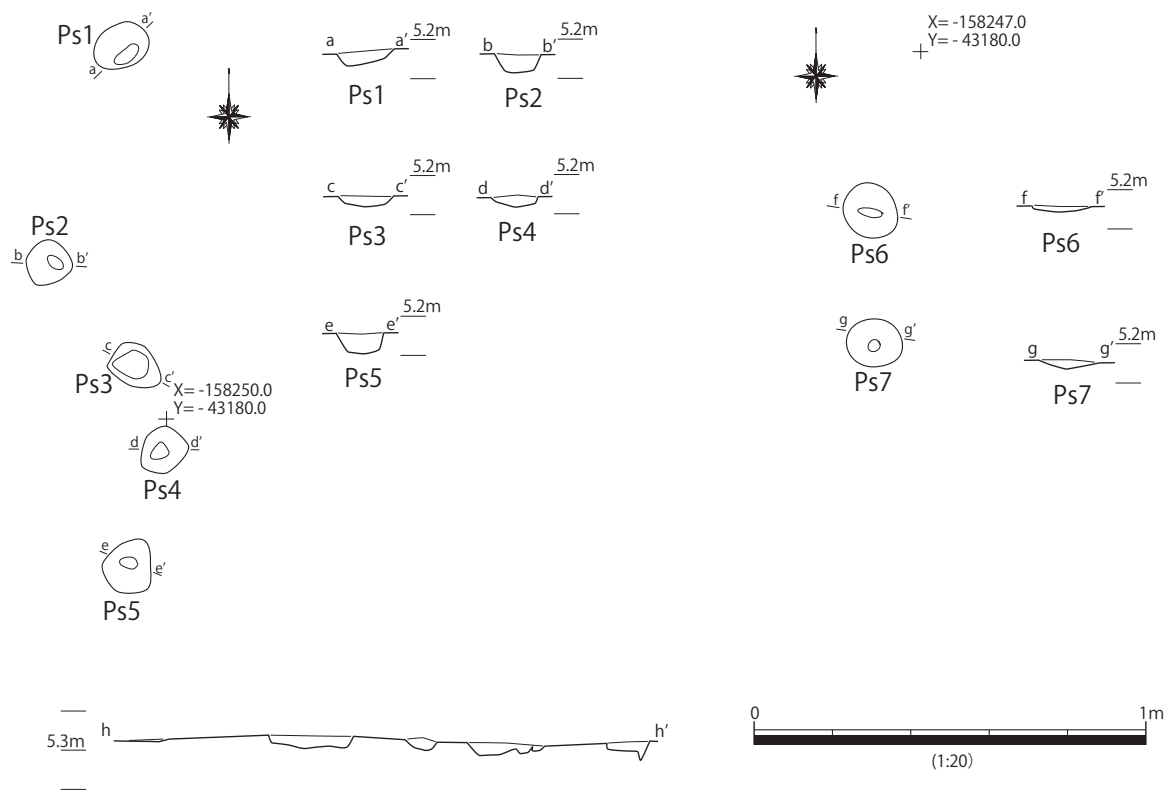


Fig. 19 4層上面検出遺構平面図 (Ps1 ~ 7)・断面図 S=1/20

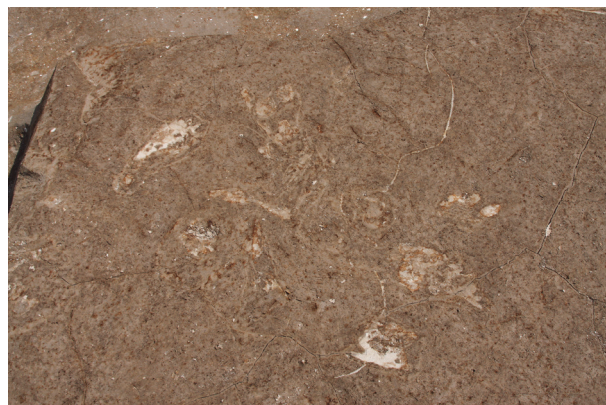


1 4層上面検出状況 (東から)

PL. 17 4層上面遺構検出状況 (1)



2 4層上面検出足跡?



3 4層上面検出足跡



1 4層上面耕作痕検出状況（北から）



2 3d層上面検出畝間溝 b-b'（東から）



3 4層上面耕作痕完掘（南から）



4 4層上面検出状況，東部（北から）



5 Ps2埋土（南から）



6 Ps3埋土（南から）



7 4層上面検出 Ps 1～5 完掘状況（南から）

PL. 18 4層上面遺構検出状況（2）

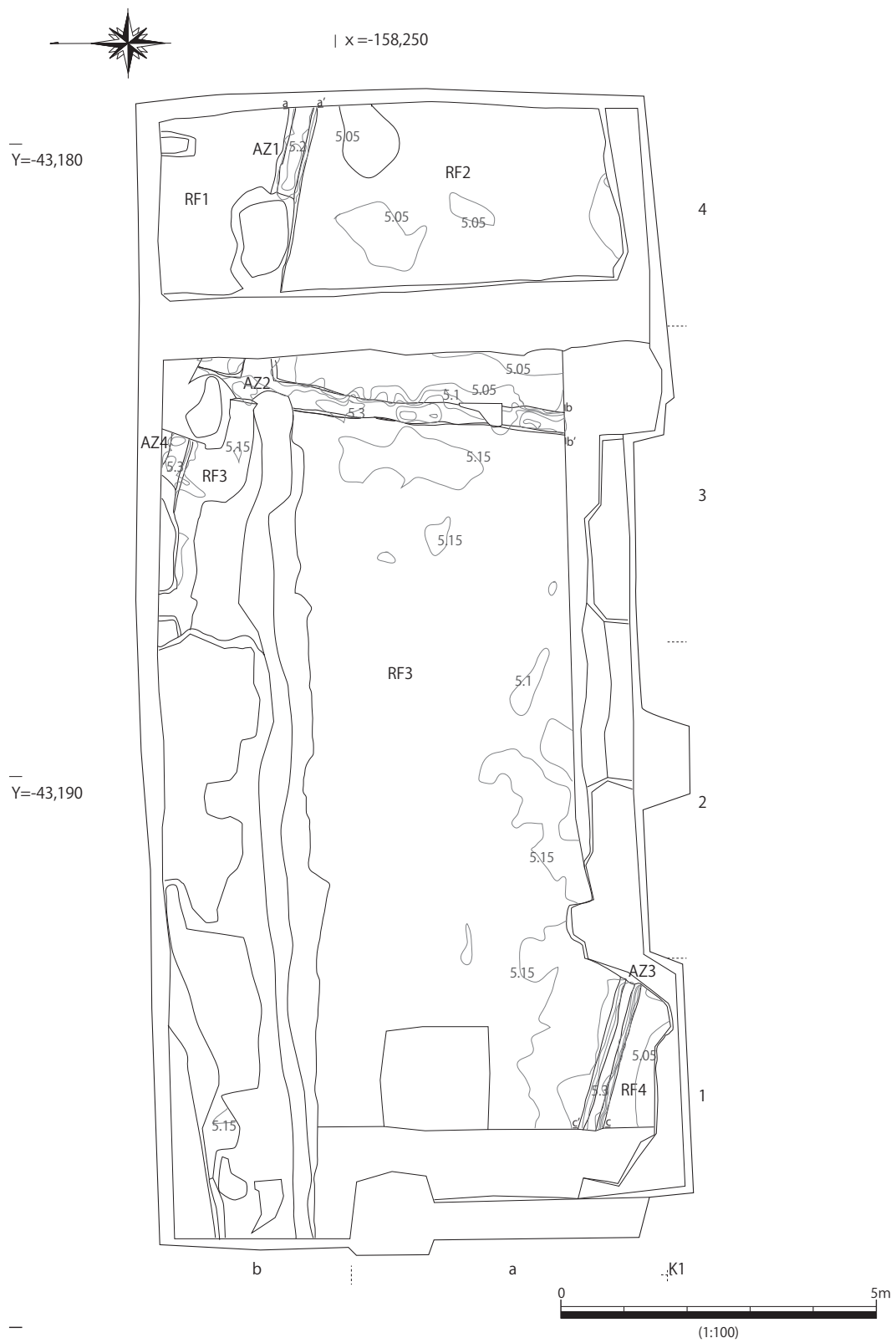


Fig. 20 5a層上面検出遺構平面図 S = 1/100

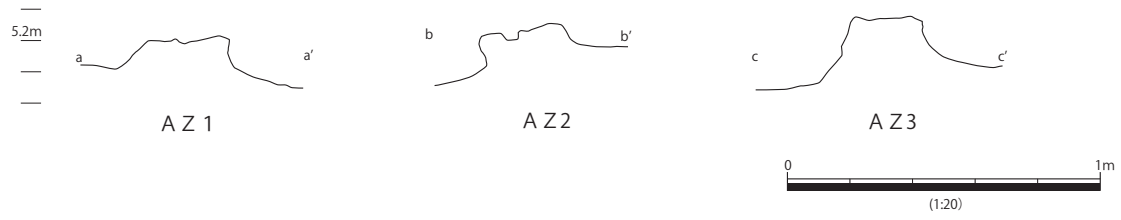


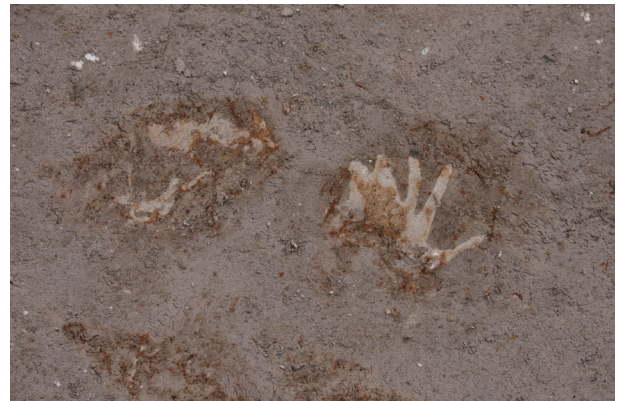
Fig. 21 5a層上面検出擬似畦畔断面図 S = 1/20



1 5a層上面遺構検出状況（東から）



2 5a層上面水田面検出状況，南西部（北東から）



3 5a層上面検出手跡



4 擬似畦畔層位断面（左 AZ1 中 AZ2 左 AZ3）

PL. 19 5a層上面遺構検出状況

(5) 5c・5d 層上面 (Fig. 22・23, PL. 20)

5c 層と 5d 層はほぼ同じレベルに堆積しており、5c 層は調査区西側、5d 層は東側に認められる (Fig. 22 の点線が境界)。5c・d 上面層では、溝状遺構 11 条と土坑 2 基が検出された。

SK1・2

SK1・2 は a-3 区に位置する。重なっており、SK1 が SK2 を切る。SK1 は平面形が隅丸方形を呈し、長径 120cm、短径 90cm、深さ 18cm を測る。SK2 は平面形が楕円状で、長径 90cm、短径 70cm、深さ 17cm を測る。埋土は、5 層土が基調となっている。

SK3

SK3 は b-1 区に位置する。平面形は楕円形で、直径 60cm、短径 45cm である。埋土は 5 層土を基調とする。

SD1

a-1・2 区に位置する。東壁より東北東方向へ伸びる。SD7 と平行し、SD4～6、SD8～10、SD11 とほぼ直交方向である。幅 45cm、深さ 6cm を測り、浅い。埋土は 5a 層土が基調となっている。

SD2

a・b-3 区に位置する。南側は南北方向に走るが、途中で東側に緩やかに湾曲する。幅 30cm、深さ 7cm を測り、東端は浅くなって消失する。SK1・2 の外側を廻るように位置しているが、関係性は不明である。埋土は 5 層土を基調としている。

SD3

a-4 区に位置する。幅 60cm、深さ 30cm で、東壁際からやや南に湾曲しながら 2.6m 西へ伸びる。埋土は 4 つに分かれるが、埋土状況から④土 (Fig. 23) 堆積後に、掘り返しを行っている と推定される。

SD3 では成川式、土師器、不詳陶器がそれぞれ 1 点出土している。

SD4～6

a・b-3 区に位置する。いずれも幅 15cm 前後、深さ 3cm と浅く、形状が類似する。約 20cm の等間隔で平行しており、北北東 - 南南西方向に走る。SD4・5 と SD2 に切られている。また、SD4 は SD 1 に切られている。埋土は、他の遺構と同様、5 層土を基調とする。

SD4 では白薩摩が 1 点出土している。

SD 7

a-1 区に位置する。幅 19cm、深さ 5cm で浅い。南壁より東北東方向へ伸びるが、西側先端は細くなって消滅する。

SD8～10

a・b-2 区に位置する。幅 20～25cm、深さ 2～6cm と浅い。両端が細長い形状を呈し、多少先端が重なる事から、鋤跡など耕作痕である可能性が高い。SD 4～6・11 と平行である。

SD11

a・b-1・2 区に位置する。北側壁より南南東方向へ伸びる。幅 31cm、深さ 7cm を測る。南側は次第に浅くなり、消失する。SD4～6、SD8～10 と平行である。

(6) 6 層上面 (Fig. 24・25, PL. 21・22)

5 層の堆積要因となった江戸時代の水田造営の際に調査区南東部ほど掘削を受けたと推定され、先史時代の堆積物である 6 層は調査区北側にのみ残存している。また、6 層土を埋土とする遺構も北側に残りが良い。粗砂層である 7 層上面で土坑 10 基、溝状遺構 1 条、ピット 5 基を検出した。土坑のほとんどは浅く、窪地状を呈する。

SK4・5

a・b-1 区の試掘トレンチ外側の北側・南側にそれぞれ位置する。平面形はどちらも円形状で、残存している長さは SK5 は 360cm、SK4 は 250cm ほどであるが、深さ 13cm と浅い。埋土は 6 層土に類似し、窪地の可能性もある。

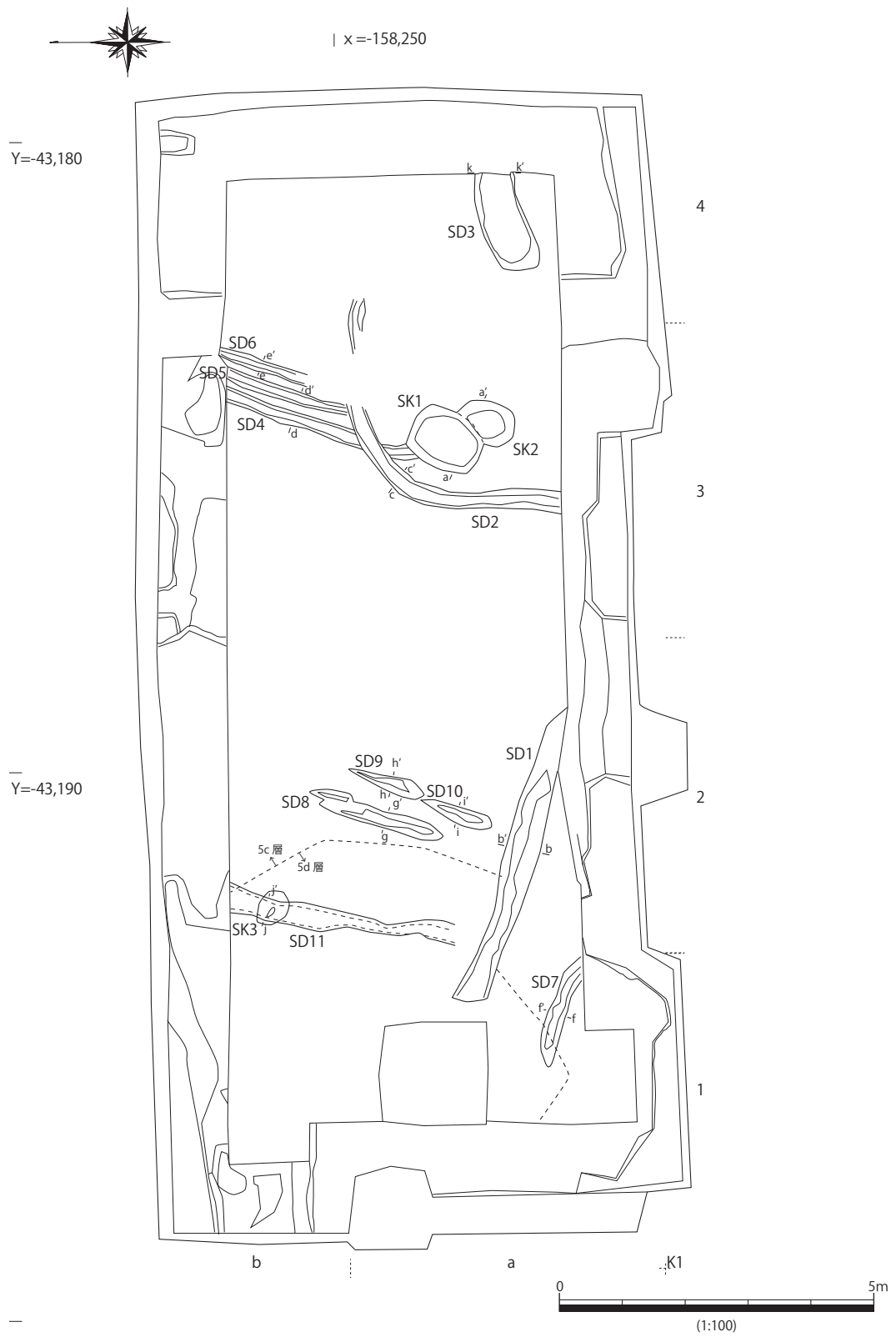
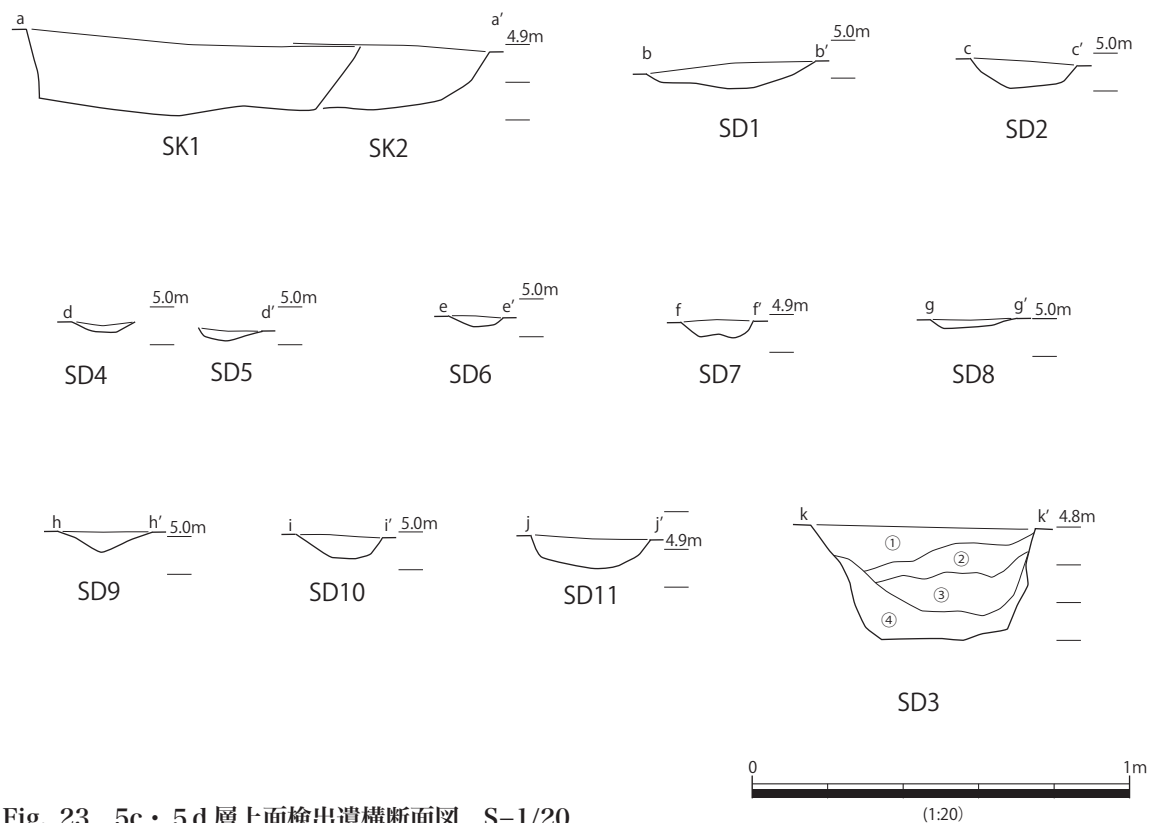


Fig. 22 5c・5d層上面検出遺構平面図 S = 1/100



1 5c 層上面遺構検出状況



2 SD3 埋土断面



3 SD1 埋土断面



4 SD2 埋土断面



5 SK1・2 埋土断面

PL. 20 5c・5d 層上面遺構検出状況

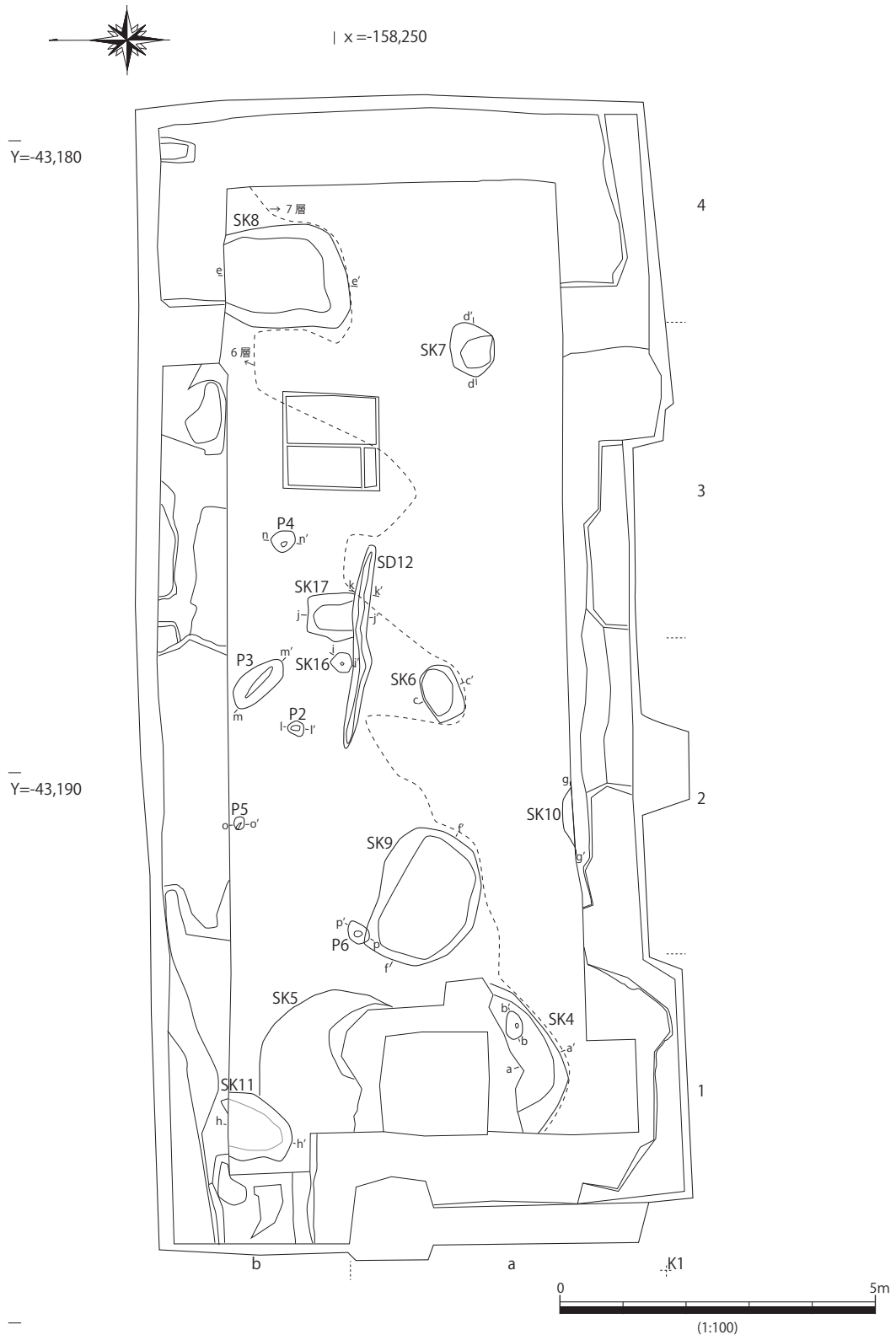


Fig. 24 6層上面遺構検出状況 S= 1/100

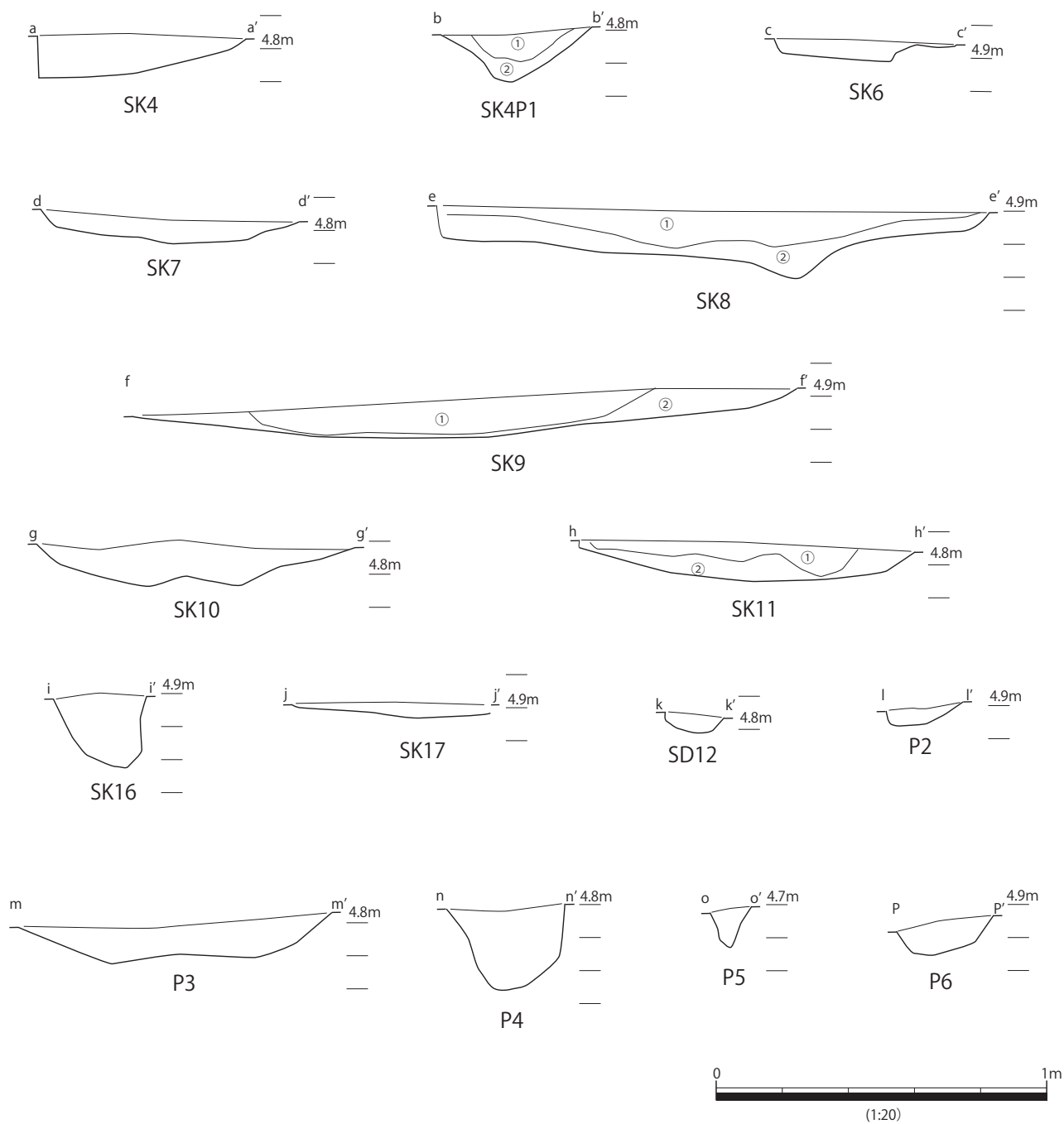


Fig. 25 6層上面検出遺構断面図 S= 1/20



1 6層上面遺構検出状況（東から）



2 SK11 埋土断面



3 SK11 完掘



4 SK4 埋土半裁状況



5 SK5 埋土断面



6 SK6 完掘



7 SJ16 完掘

PL. 21 6層上面検出遺構（1）



1 6層上面検出遺構完掘状況（東から）



2 SK17 埋土断面



3 P2 完掘



4 SD12 完掘



5 P3 完掘



6 P4 完掘



7 P5 完掘

PL. 22 6層上面遺構検出状況（2）

SK4内にピットが1基検出された(SK4P1)。SK4P1は直径25cm、深さ14cmで埋土は6a層土に類似する。

SK 6

a-2区に位置する。長径80cm、短径60cmの平面形は隅丸方形で、深さは6cmを測る。埋土は6層土を基調とする。

SK7

a-3・4区に位置する。平面形が楕円形で長さ70cm、深さ7cmを測る。埋土は6層土を基調とする。

SK8

a-b-4区に位置する。北側は北壁外に広がっている。平面形は長方形状を呈し、残存部で長辺180cm、短辺160cm、深さ20cmを測る。埋土は6層土を基調とする。

SK9

a-b-1・2区に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長径200cm、短径160cm、深さ11cmである。埋土は6層土をきちよし、2つに細分できる。

SK10

a-2区に位置する。遺構のほとんどは南壁より外側に広がっており、一部が調査区内で確認できたものである。平面形は円形を呈すると推定される。埋土は、6層土を基調とする。

SK11

b-1区に位置する。北側は北壁より外側に広がる。平面は楕円形を呈し、残存部で長径100cm、短径100cm、深さ12cmを測る。埋土は6層土を基調とし、2つに分かれる。

SK16

a-2区に位置する。直径27cm、深22cmを測り、埋土は6層土を基調とする。

SK17

a-b-2・3区に位置する。平面形が長方形だが、南側はSD12に切られている。長辺は残存部で80cm、深さ5cmである。埋土は6層土を基調とする。

SD12

a-2・3区に位置する。幅17cmの溝状を呈し、東西方向に伸びる。深さ5cmで浅い。両先端は細く消失する。SK17を切っている。

P2～6

埋土はいずれも6層土を基調とするが、規模や深さにばらつきがあり、並びも認められない。

6. 出土遺物

(1) 1層出土遺物 (Fig. 26, PL. 23)

1層からは古墳時代の成川式土器、中世～近世の土師器、中世の竜泉窯系青磁、明末～清初期の青花、近世の薩摩焼、薩摩磁器、肥前磁器、備前焼、キセルなどが出土し、近代の型紙刷磁器、土管、現代磁器、ガラス製品などが出土している。以下、6点を図化した。

15は薩摩焼苗代川系の鉢である。片口を持つと思われる薄手の小型品である。17世紀の製品である。口縁部上面は釉が掛からない。16は土鍋である。口縁部上面を若干くぼませ、無釉とする。外面の釉調や素地は薩摩焼に類似する。19世紀の製品である。17は薩摩磁器の湯飲み碗である。胴部に花文らしき文様が残し、腰部と高台付け根部分に圈線が巡る。19世紀中頃の製品である。底径3.2cm程度である。18は肥前染付の端反碗である。口縁部外面上端に二条の圈線が巡り、内面には雷文が巡る。近世の製品と思われる。19は近世備前焼の稜花陶器皿で型造り製品である。赤褐色の胎土で口唇部に透明釉が掛かる。幕末～明治時代の製品である。

20は白色ガラス瓶である。底面外輪より小さな突起がある。口径3.5cm、底径2.4cm。重さ52.44gを測る。

(2) 2層出土遺物 (Fig. 26, PL. 23)

2層は土層がほとんど残存しておらず、遺物は1点しか出土していない。

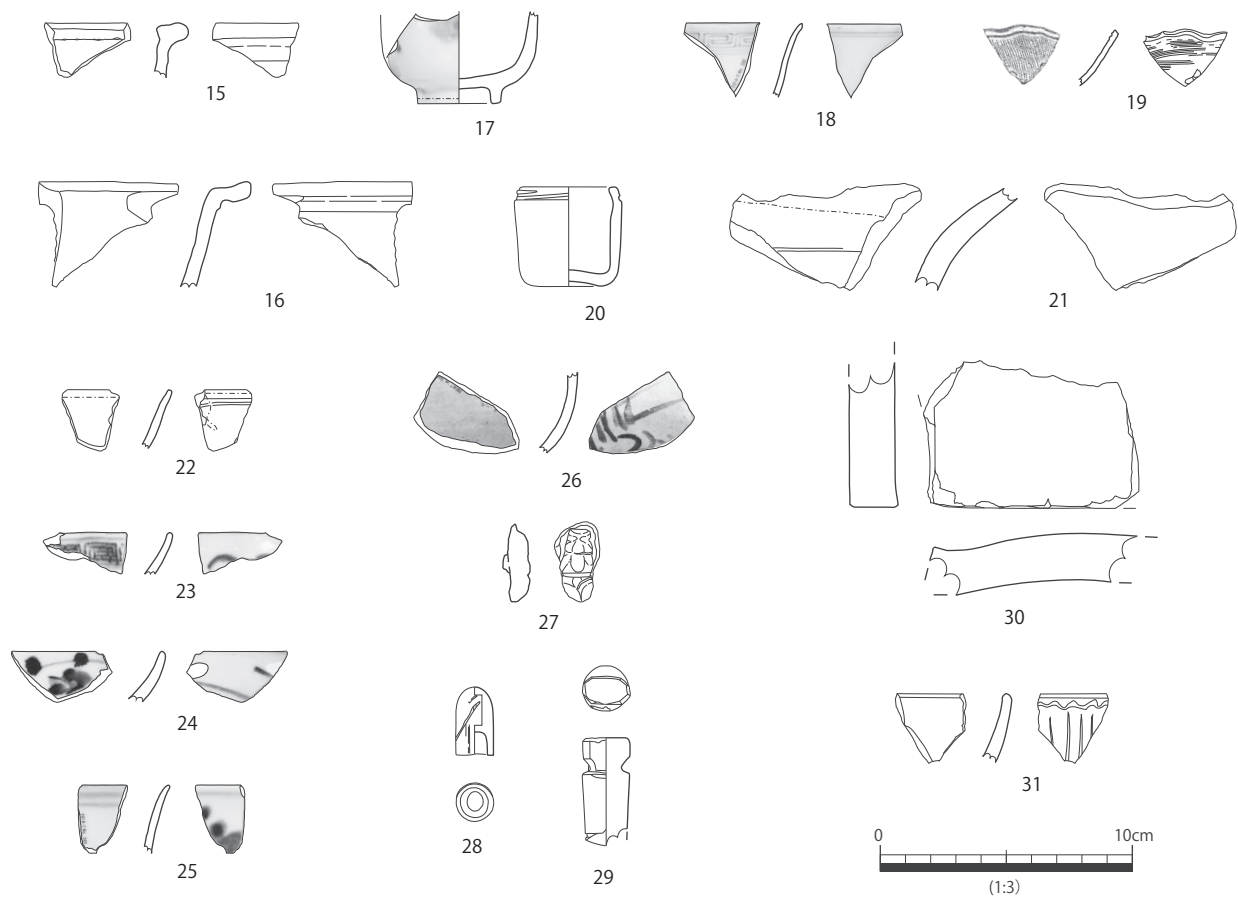


Fig. 26 1 ~ 4a 層出土遺物 S=1/3

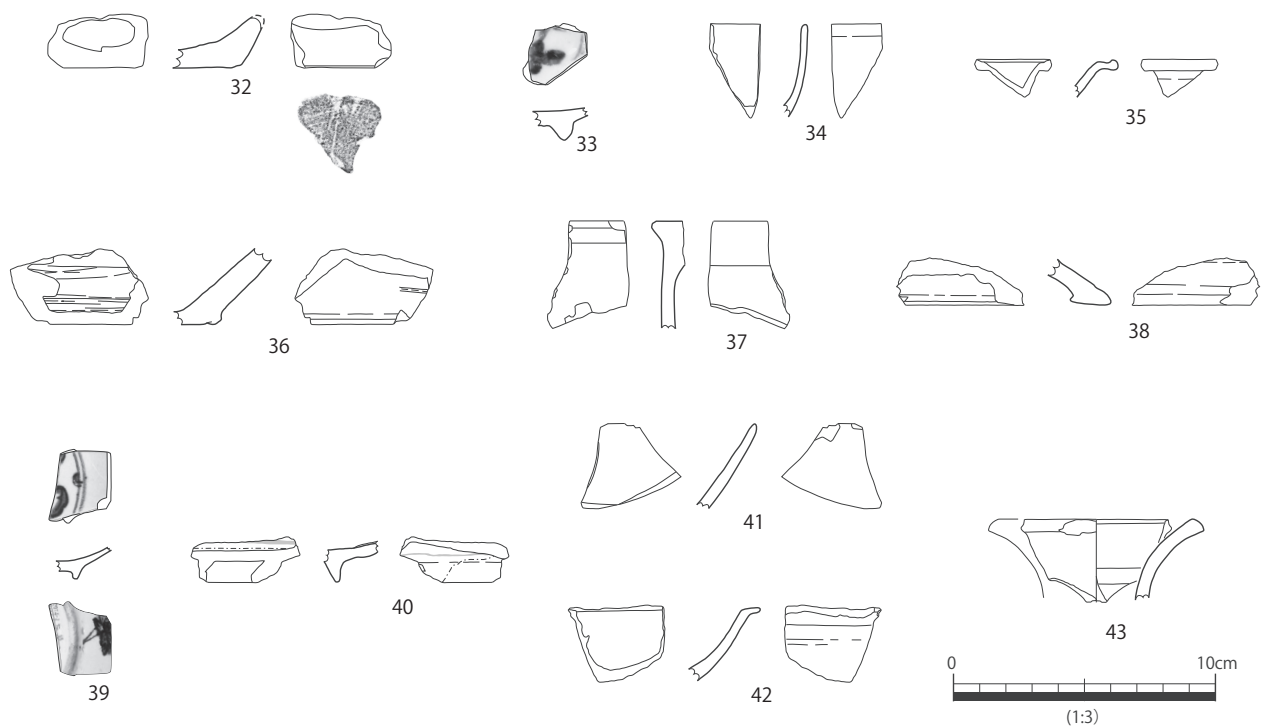


Fig. 27 5a 層出土遺物 S=1/3



PL. 23 1～4a層出土遺物



PL. 24 5a層出土遺物

21 は白薩摩の瓶である。透明釉が掛かり、細かい貫入が見られる。内面口縁部以下は無釉となる。

(3) 3a 層出土遺物 (Fig. 26, PL. 23)

3a 層からは古墳時代の成川式土器、中世～近世の土師器、中世の白磁、漳州窯系青花、近世では薩摩焼、白薩摩、薩摩磁器、肥前磁器、京設楽系陶器、近代の型紙刷磁器、現代磁器などが出土し、ほかにも土製品、ガラス製品、動物骨などが出土している。うち、8 点を図化した。

22 は白磁口禿碗で、口縁端部の釉が掻き取られる。13 世紀後半～14 世紀半ばの製品である。23 は肥前染付の輪花皿である。外面には草花文、内面には雷文が巡る。近世のものである。24 は肥前染付皿である。内外面に草花文が描かれる。近世である。25 は薩摩磁器の端反碗である。外面は口縁部直下に圈線が巡り、その下に花文が描かれる。口縁部内面は二条の圈線が巡る。19 世紀の製品である。26 は京信楽系陶器の碗である。外面に鉄絵で草花文(?)が描かれる。軽量の製品である。

27 は型押しでつくられた泥めんこと考えられる。モチーフは不明である。裏面は一部が剥離した痕跡が残る。

28 はスナイドル銃の弾丸であると思われる。長さ 2.5cm、径 1.6cm、重さ 37.34g を測る。

29 は緑色ガラス薬品瓶の共栓である。

(4) 3b 層出土遺物

3b 層は出土遺物が少なく、京信楽系陶器 1 点のみであったが、小破片のため図化しなかった。

(5) 3c 層出土遺物 (Fig. 26, PL. 23)

3c 層も遺物は少なく、薩摩焼、不詳陶器、瓦などである。ここでは 1 点を図化した。

30 は棧瓦の一部である。時期は不明。

(6) 4a 層出土遺物 (Fig. 26, PL. 23)

4a 層も遺物はほとんどなく、青磁 1 点のみであった。

31 は竜泉窯系青磁碗であり、線刻連弁文が施される。15c 世紀後半～16 世紀前半の製品である。

(7) 4b 層出土遺物

4b 層も遺物はほとんど出土していない。小さな海産二枚貝が出土したが、本来の層帰属のものか不明である。

(8) 5a 層出土遺物 (Fig. 27, PL. 24)

5a 層では成川式土器、須恵器、土師器、竜泉窯系青磁、備前焼、漳州窯系青花、薩摩焼。肥前磁器、砥石、キセル、現代磁器、瓦などが出土している。ここでは 12 点を図化した。

32 は土師器の浅皿である。

33 は明末～清初の青花碗である。見込みに圈線と花文の一部、高台付け根部分に圈線が巡る。16 世紀後半～17 世紀前半のものである。34 は薩摩焼初期龍門司系山元窯の碗である。薄手で褐色の釉薬が掛けられる。17 世紀後半～18 世紀前半の製品である。35 は肥前陶器の溝口皿で、口縁端部が受け口状になっている。17 世紀前半の製品である。

36 は備前の鉢の底部と思われる。中世のものである。37 は備前插鉢の口縁部と思われるが、口縁部外面を失っている。近世か。38 は土鍋の蓋と思われるもので、厚手で重量がある。釉調・素地は薩摩焼に類似する。39 は明末～清初の青花皿である。見込みに二条の圈線が巡り、中に文様があるもののモチーフは不明である。外面の文様も焼成不良のため掠れている。

40 は漳州窯系青花である。見込みに二条の接した圈線が確認できるほか、釉薬が掻き取られる。外面は高台前面に釉薬が掛かりきらず、腰部に圈線が一条確認できる。41 は不詳の陶器碗であり、薄く直口縁である。透明釉

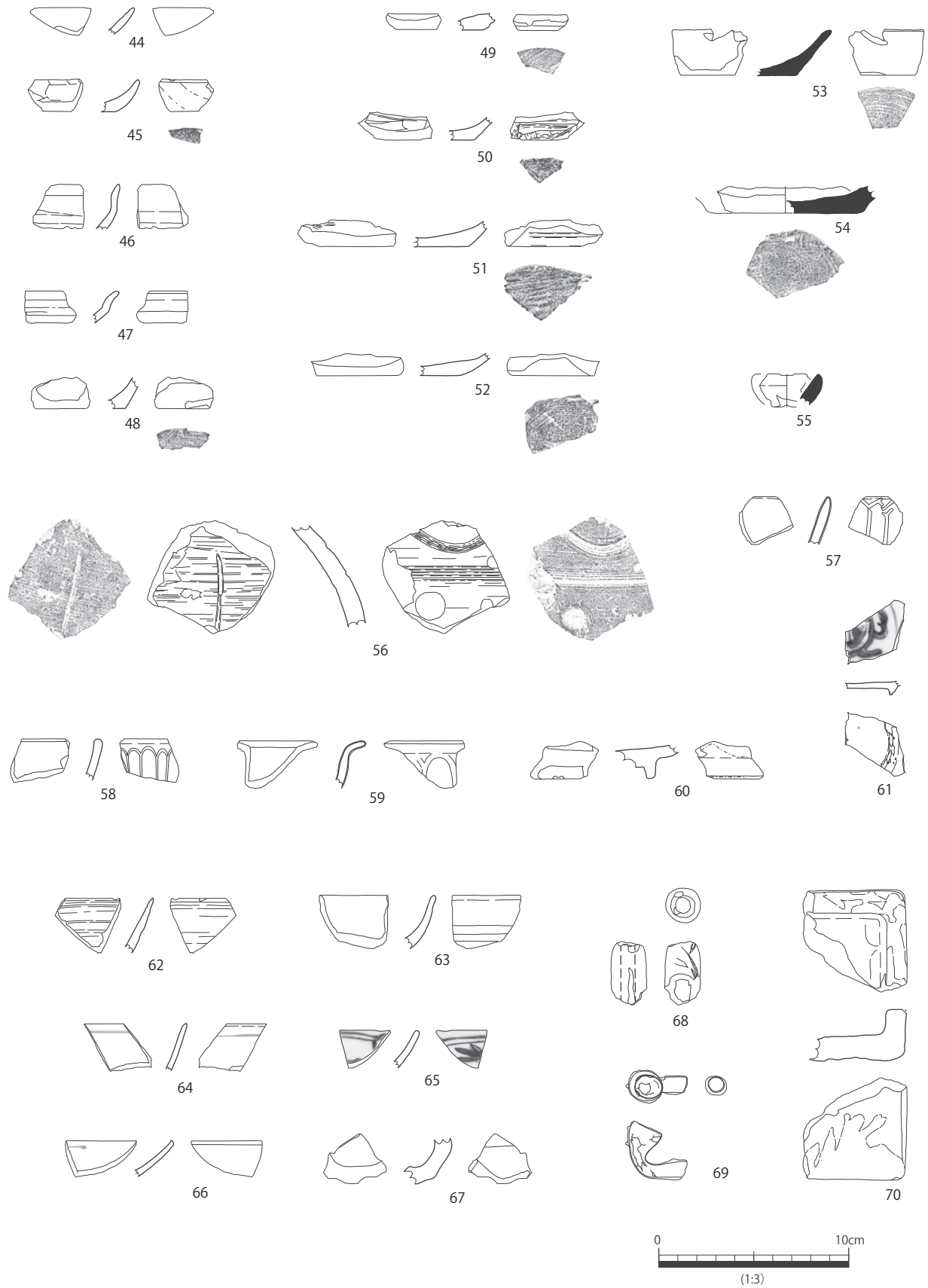
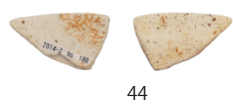


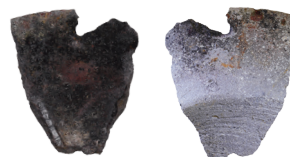
Fig. 28 5b層出土遺物 S=1/3



44



49



53



45



50



54



46



51



47



52



55



48



59



56



57



60



58



61



62



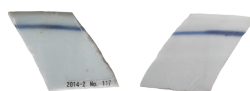
63



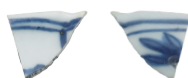
68



70



64



65



69



66



67

PL. 25 5b 層出土遺物

が掛けられる。42 も不詳磁器であり、端反碗である。比較的薄手でやや緑がかった釉薬が施される。43 は不詳の素焼きの陶器で、灰黒色で堅く締まる。口径は 6.2cm として復元した。

(9) 5b 層出土遺物 (Fig. 28, PL. 25)

本遺跡で最も遺物量の多い層である。

成川式、土師器、須恵器、備前焼、龍泉窯系青磁、漳州窯系青花、明末～清初青花、薩摩焼、肥前陶器・磁器、白薩摩、薩摩磁器、琉球系陶器、土錘、土製品、ふいごの羽口、砥石、動物骨、キセルのほか、現代磁器も含まれている。ここでは 27 点を図化した。

44～52 は土師器である。小破片が多く詳細が不明であるが、45 は皿であろう。46・47 は口縁部外面をくぼませる端反にする特徴を持つ。45・48～52 は糸切底である。中世以降の土師器であろう。

53～55 は須恵器である。53・54 は坏であるが、両方ともに糸切底である。2 点ともに内面が焼けているため、燈明皿として利用した可能性もある。55 は手づくね状の製品であり、全形は不明である。同一個体と思われる胴部片がもう 1 点ある。

56 は備前焼陶器壺である。櫛状の工具で巡らせた沈線文と波状文が確認できる。15 世紀代か。57～60 は竜泉窯系青磁である。57・58 は線刻蓮弁文碗で 15 世紀後半～16 世紀前半の製品である。59 は蓮弁文の口折れ皿である。14 世紀半ば～15 世紀初めの製品である。60 は碗の高台と思われる。61 は明末～清初青花皿である。薄手であり、見込みは一条の圈線内に玉取り獅子文(?)らしき文様が描かれる。16 世紀後半～17 世紀前半のものである。62 は不詳陶器の碗であり、口唇部に向かって厚さを減ずる。内外面に鉛釉が掛かる。63 は不詳陶器皿であり、透明釉が掛けられる。

64 は肥前染付碗である。内外面ともに口縁端部に圈線が一条巡っている。近世である。65 は肥前の染付皿である。口唇部は一部を抉って輪花状にしている。外面には花文があるが、内面の図柄は不明。近世である。66 は薩摩磁器の皿である。内面に文様の一部が残るが図柄は不明である。19 世紀の製品である。

67 はふいごの羽口と思われる製品であるが、皿状の曲面を持っている。かなり高温で被熱し、内外面ともに発泡痕がある。これのほかに同一個体と思われるものも出土している。

68 は破損した土錘である。残存部の胴径 1.9cm、孔径 0.8cm を測る。

69 は煙管の雁首である。火皿径 1.4cm、小口径 0.7cm である。土が厚く付着し、内部にも詰まっているため、詳細な観察ができないものの、外面の形態から推すと、17 世紀後半～18 世紀初頭の製品だと推定される。

70 は形状不明の土製品である。低温で焼成された厚手の製品である。硯の墨池状や箱状に作られていると考えられる。ほかにも同一個体と思われるものが 2 点ある。

(10) 5c 層出土遺物

確実に 5c 層に含まれるものは少なく、5c～5d 上面にかけて出土したものは、成川式、土師器、不詳陶器があるが、小破片のため全て図化できない。

(11) 5d 層出土遺物 (Fig. 29, PL. 26)

5d 層からまた遺物は少なくなり、土師器、不詳磁器、土錘が確認できる。うち、2 点を図化した。

71 は土師器皿である。口縁部外面をくぼませる特徴をもつ。

72 は土錘である。長さ 3.7cm。胴最大径 1.7cm、孔径 0.6cm、重さ 9.22g を計る。

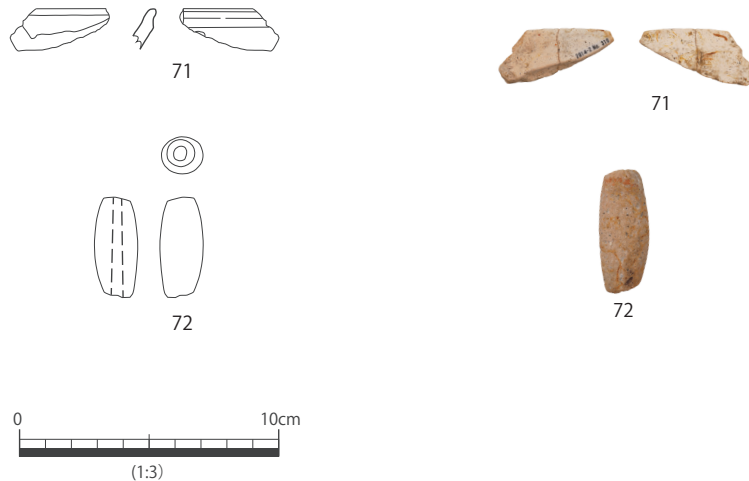


Fig. 29 5d 層出土遺物 S=1/3

PL. 26 5d 層出土遺物

7. まとめ

本調査の成果としては、3c 層上面、3d 層上面、4 層上面、5a 層上面、5c・5d 層上面の 5 面の近代・近世の遺構面と 6 層上面の 1 面の先史時代遺構面を確認した。3c～5c・5d 層上面は耕作に由来するものと推定され、4 層上面と 5a 層上面、5c・5d 層上面は水田面である。周辺と同様、近世の農地改変のため削平ののち土が入れられて水田として数度にわたり使用されていたことが確認された。また、弥生～古墳時代の包含層に該当する層は、これら近世の耕作や水田造営による削平のためあまり残存していなかったが、遺構の性格は不明瞭ながらも土坑などの遺構が検出された。本地点の調査により、弥生時代の活動の痕跡や、近世における土地改革や利用の様相を示す事例が追加されたといえる。

註

- 1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 2015 「III 2013-4 郡元団地 F-6 区（保健管理センター増築用地）試掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』29 14-18 頁

Tab. 8 遺構一覧

遺構名	種類	地区	検出面	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土
SK1	土坑	a-3	5c・5d層上面	88	18	褐灰色7.5YR4/1砂質シルト、鉄分少し浸透、バミスを含む。
SK2	土坑	a-3	5c・5d層上面	52	17	褐灰色7.5YR4/1砂質シルト、バミスを含む。
SK3	土坑	b-1	5c・5d層上面	60・45		灰黄褐色10YR4/2シルト、バミスを含む。
SK4	土坑	a-1	6層上面	250+ α	13	灰褐色7.5YR4/2粗砂。バミスを含む。下部は、バミスが多い。
SK4P1	土坑	a-1	6層上面	25	14	①灰黄褐色10YR4/2粗砂、バミスを含む。②にぶい黄褐色10YR7/2細砂。
SK5	土坑	ab-1	6層上面	360+ α	13	灰黄褐色10YR5/2～にぶい黄褐色10YR5/4粗砂を基調とする。
SK6	土坑	a-2	6層上面	54	6	6層ブロックと黒褐色7.5YR3/2粗砂、バミスを含む。
SK7	土坑	a-3	7層上面	79	7	にぶい褐色7.5YR5/3粗砂、バミスを含む。
SK8	土坑	b-4	6層上面	180	20	①灰褐色7.5YR4/2粗砂、バミスを含む。②6層土（灰白色10YR8/2細砂）を含む。
SK9	土坑	a-1・2	6層上面	200	11	①黒褐色10YR3/2粗砂、バミスを少量含む。下部は6層土が混ざる。②灰黄褐色10YR6/2粗砂、ミスを含む。
SK10	土坑	a-2	6層上面	96	13	6層土を基調とする
SK11	土坑	b-1	6層上面	100	12	①灰黄褐色10YR4/2粗砂混じりシルト、バミスを含む。②灰黄褐色10YR4/2シルトと灰黄褐色10YR5/2シルトの混土。
SK16	土坑	a-2	6層上面	27	22	黒褐色10YR3/2粗砂、バミスを含む。
SK17	土坑	ab-2・3	6層上面	80	5	黒褐色7.5YR3/2粗砂、バミスを含む。
SD1	溝状遺構	a-2	5c・5d層上面	45	6	褐灰色10YR5/1シルト、粗砂とバミスを少し含む。
SD2	溝状遺構	a-3・4	5c・5d層上面	30	7	①褐灰色7.5YR4/1褐灰色砂質シルト、鉄分少し浸透、バミスを含む。②①と黄色粗砂層の混土
SD3	溝状遺構	a-4	5c・5d層上面	60	30	①5a層土を基調とするがバミスを多く含む。②5b層土を基調とし、黄色粗砂土が混ざる。③5b層土と黄色粗砂土と6層土の混土。④5b層土と6層土の混土。
SD4	溝状遺構	b-3	5c・5d層上面	16	3	褐灰色7.5YR4/1褐灰色砂質シルト、鉄分少し浸透、バミスを含む。
SD5	溝状遺構	b-3	5c・5d層上面	17	2	褐灰色7.5YR4/1褐灰色砂質シルト、鉄分少し浸透、バミスを含む。
SD6	溝状遺構	b-3	5c・5d層上面	14	2	褐灰色7.5YR4/1褐灰色砂質シルト、鉄分少し浸透、バミスを含む。
SD7	溝状遺構	a1	5c・5d層上面	19	5	褐灰色10YR5/1シルト、粗砂とバミスを少し含む。
SD8	溝状遺構	b2	5c・5d層上面	20	2	褐灰色10YR5/1シルト、粗砂とバミスを少し含む。
SD9	溝状遺構	b2	5c・5d層上面	25	5	褐灰色10YR5/1シルト、粗砂とバミスを少し含む。
SD10	溝状遺構	b2	5c・5d層上面	22	6	褐灰色10YR5/1シルト、粗砂とバミスを少し含む
SD11	溝状遺構	ab-2	5c・5d層上面	31	7	灰黄褐色10YR5/2シルト、バミス・粗砂を含む。にぶい褐色7.5YR6/4シルトをまばらに含む。
SD12	溝状遺構	ab-2・3	6層上面	17	5	褐灰色10YR4/1粗砂、バミスを多く含む。
P2	ピット	ab-2	6層上面	23	5	褐灰色10YR4/1シルト・10YR7/2細砂ブロックで混ざる
P3	ピット	b-2	6層上面	94	11	黒褐色10YR3/2粗砂、バミスを少量含む。下部は6層土が混ざる。
P4	ピット	b-3	6層上面	36	24	黒褐色10YR2/2粗砂・バミスを含む。
P5	ピット	b-2	6層上面	12	12	黒褐色10YR3/2・灰黄褐色10YR5/2シルト～細砂
P6	ピット	a-2	6層上面	29	10	灰黄褐色10YR4/2粗砂、バミスを含む。
Ps1	小ピット	b-4	4b層上面	15	3	10YR8/2細砂と10YR7/2シルト質砂の混土
Ps2	小ピット	b-4	4b層上面	10	5	10YR8/2浅黄橙色細砂
Ps3	小ピット	a-4	4b層上面	14	3	10YR8/2浅黄橙色細砂と10YR7/2細砂の混土
Ps4	小ピット	a-4	4b層上面	11	3	灰黄褐色10YR6/2灰黄褐色と10YR8/2の細砂
Ps5	小ピット	a-4	4b層上面	12	5	にぶい黄褐色10YR7/2細砂
Ps6	小ピット	a-4	4b層上面	15	1	にぶい黄褐色10YR7/2細砂
Ps7	小ピット	a-4	4b層上面	15	2	にぶい黄褐色10YR7/3細砂
AZ1	擬似畦畔	b-4	5層上面	26・40	15	5a層土
AZ2	擬似畦畔	ab-3	5層上面	26・30	15～20	5a層土
AZ3	擬似畦畔	a-1	5層上面	30・30	15～20	5a層土
AZ4	擬似畦畔	b-3	5層上面	20・40	15	5a層土
RF1	水田面	b-4	5層上面	2m+ α ・4.3m+ α	-	-
RF2	水田面	ab-3・4	5層上面	5m+ α ・4.6m+ α	-	-
RF3	水田面	ab-1～3	5層上面	6.2m+ α ・1.1m+ α	-	-
RF4	水田面	a-1	5層上面	0.9m+ α ・2.4m+ α	-	-
畝間溝	畝間溝	ab-1～3	3c層上面	20	2～4	黄褐色2.5Y5/3シルト、バミスを少し含む
畝間溝	畝間溝	ab-1～4	3d層上面	20～44	2～6	灰黄褐色10YR5/2に褐色7.5YR4/6シルト質砂、鉄分が浸透
耕作痕	鋤跡	b-1	4層上面	7～20	1～5	窪み内部は3e層土、それを包むように3f層土が堆積。3c層堆積後に押し下げられたと推定される。

Tab. 9 層別遺物出土数_陶磁器

時代	古墳か古代	中世							近世												近代	現代	不明			
種別	須恵器	備前	竜泉窯系青磁	白磁	漳州窯系青花	明末・清初青花	薩摩焼					備前	肥前 陶器	京信楽系	琉球系	白薩摩	さつま磁器	肥前 染付	不明磁器	土管	型紙刷	現代	不明陶器	不明磁器	瓦	計
							苗代川	苗代川？	加治木始良系（山元窯）	加治木始良系	龍門司															
1		2			1	6	1				1	1			3	2	6	1	3		18	7	2		54	
3a			1	1		12				2			1		2	2	5	1		1	4	8		1	41	
3b						1							1								1				3	
3c						2			1													1	1		5	
3d上																							1		1	
4a上		1																							1	
5																						1			1	
5a上																						1			1	
5a		2			2	2		1	1			1					2				2	5		1	19	
5a畔																						1			1	
5a下	1	2	1		2	1	1	1								2	2					6	1		20	
5b上			1		1	2	2			1		1		1	1		2				2	7	2		23	
5b	5		6		3	1	8				1			1	2	1	7	1			2	12	6		56	
5b下					1	1								1	1							1			5	
SD3																						1			1	
SD4															1										1	
5c-d																						1			1	
5d下																		1							1	
SK1																						1			1	
不明															1						1				2	
計	6	2	13	1	7	8	35	2	1	2	3	2	3	2	3	11	7	24	4	3	1	30	53	11	4	238

Tab. 10 層別遺物出土数_土器その他

時代	古墳			中世 近世	近世																近代	計		
						種別・器種	成川			土師器	キセル	土錘	土製品	不明土製品	ふいこの羽口	石器		黒曜石	石	ガラス製品			貝	骨
	甕	壺	器種不明													砥石								
不明				1																			1	
1	2		2	3				2								1					1		11	
3a	1		1	1				2	2							2		2				1	11	
4b上																	1						1	
5a				1	4	1						1		1									8	
5a下		1	1	1	3																		5	
5b直上					1																		1	
5b上	1			13	17		1					1		1					1				35	
5b	1			74	48	1			1	1			1					1					128	
5b下				2	1																		3	
SD3	1			1	2																		4	
5c・d				3	2																		5	
5d					2		1																3	
計	6	1	98	85	2	2	4	3	1	2	1	2	3	1	3	1	3	1	1	1	1		216	

Tab. 11 陶磁器観察表

No.	地区	層	種別	器種	部位	色調(釉)	色調(素地)	備考
15		1	陶器	鉢	口	黒褐2.5Y3/1	灰N5/	薩摩焼苗代川系(片口)17C.
16	A4	1	陶器	土鍋	口	黒褐10Y R3/1	赤黒2.5Y R2/1	19c
17		1	染付	湯呑碗	底	緑灰5G5/1	灰白N8/	薩摩磁器. 19C中頃. 底径: 3.2cm
18		1	染付	碗	口	青	灰白2.5Y8/1	肥前端反り碗.
19		1	陶器		口	にぶい赤褐2.5YR4/4	暗赤褐2.5Y R3/6	近世備前. 口唇部に透明釉. 型づくり.
21	A1	2	陶器	瓶	胴	灰白2.5Y8/1	灰黄2.5Y7/2	白薩摩.
22	A4	3a	白磁	碗	口	灰白N8/	灰白2.5Y8/1	口禿碗. 13C後～14C半ば.
23		3a	染付	皿	口	青	灰白N8/	肥前. 近世
24	A4	3a	染付	皿	口	暗緑灰5G4/1、緑黒5G1.7/1	灰白N8/	肥前. 近世
25		3a	染付	碗	口	青	灰白N8/	薩摩磁器端反り碗. 19c
26	A1	3a	陶器	碗	胴	オリーブ黒5Y3/1	灰白2.5Y8/2	京信楽系.
30	B4	3c	栈瓦				表: 灰N5/ 裏: 灰6/ 器肉: 灰白5Y7/1	
31	B1	4a上	青磁	碗	口	オリーブ灰10Y6/2	灰白5Y8/2	竜泉窯系. 15C後半～16C前半.
33	B2	5a	青花	碗	底	明緑灰10G Y7/1, 青	灰白N8/	明末～清初. 16C後半～17C前半.
34	B1	5a下	陶器	碗	口	黒褐10Y R3/2	灰白2.5Y7/1	初期龍門司(加治木始良系 山元窯) 17C後半～18C前半.
35	B2	5a	陶器	皿	口	灰7.5Y6/1	灰N7/	肥前陶器. 溝口皿. 17C前半.
36	A1	5a下	陶器	鉢	底		表: にぶい橙7.5Y R7/4 裏: にぶい橙5Y R6/4 器肉: 灰N4/ 浅黄橙8/4	備前. 中世. 糸切底.
37	B2	5a下	陶器	播鉢	口	暗褐10Y R3/3, 灰白2.5Y8/1	灰白10Y R7/1、明赤褐5Y R5/6	備前.
38	B2	5a下	陶器	土鍋?	蓋	オリーブ黒5Y2/2	暗赤灰7.5R3/1	薩摩焼? 苗代川? 19C.
39	B2	5a下	青花	皿	底	青	灰白N8/	明末～清初.
40	A3	5a下	青花	碗	底	明緑灰10G Y7/1, 青	朝黄2.5Y7/3	漳州窯系.
41	A1	5a下	陶器		口	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
42	A3	5a下	磁器	碗	口	明オリーブ灰2.5G Y7/1	灰白N7/	端反り碗.
43	A3	5a下	陶器	瓶	口		灰N4/	口径6.2cm.
53	B2	5b	須恵器	坏	完形		表・裏・器肉: 灰N6/	器高: 2.4cm. 二次焼成を受ける. 糸切底.
54	B2	5b	須恵器	坏	底		表: 灰N6/ 裏: 灰白2.5Y7/1 器肉: 灰5Y5/1	内面: 二次焼成を受ける. 底径7.9cm. 糸切底.
55	A・B-1・2	5b	須恵器	小壺?	口		表・裏: 黄灰2.5Y6/1 器肉: 灰白2.5Y7/1	口径: 3.4cm.
56	A2	5b	陶器	壺	胴		灰褐5Y R4/2, 黒褐10Y R3/2	備前. 15C代.
57	A1	5b	青磁	碗	口	オリーブ灰5G Y6/1	灰白N7/	竜泉窯系. 15C後半～16C前半.
58	B3	5b上	青磁	碗	口	暗オリーブ灰2.5G Y4/1	灰N6/	竜泉窯系. 15C後半～16C前半.
59	B2	5b	青磁	皿	口	オリーブ灰5G Y6/1	灰N7/	竜泉窯系. 口折皿. 14C半ば～15C初め.
60	A2	5b	磁器	碗	底	明オリーブ灰2.5G Y7/1	灰白N8/	竜泉窯系.
61	A2	5b上	青花	皿	底	青	灰白N8/	明末～清初. 16C後半～17C前半.
62	B2	5b上	陶器		口	褐10Y R4/4	灰黄2.5Y6/2	
63	A4	5b	陶器	皿	口	浅黄2.5Y7/3	灰黄2.5Y7/2	肥前.
64	A2	5b	染付	碗	口	青	灰白N8/	肥前. 近世
65	B2	5b上	染付	皿	口	青	灰白N8/	肥前. 近世
66	B2	5b	染付	皿	口	青	灰白N8/	薩摩磁器. 19C.

Tab. 12 土器等遺物観察表

No.	地区	層	種別	器種	部位	調整(表)	調整(裏)	混和材	色調	備考
20		1	ガラス製品	化粧瓶	完形				白不透明	口径:3.5cm, 器高:3.95cm, 底径:2.4cm, 重さ:52.54g.
27		3a	土製品	泥めんこ					表:明赤褐5YR5/6 裏:明赤褐2.5YR5/6	
28	B4	3a	銃弾	スナイドル弾	完形				灰白5Y7/1	長さ:2.5cm, 径:1.6cm, 重さ:37.34g.
29		3a	ガラス製品	薬品瓶	共栓				青緑透明	重さ:20.56g.
32	A4	5a	土師器	皿	底		ナデ(ー)	赤・黒色粒, 微砂粒	表:にぶい橙7.5YR7/3 裏:にぶい橙5YR7/4 器肉:灰白10YR8/2	器高約2cm. 糸切底. 鉄分付着.
44	B2	5b	土師器	不明	口	ナデ(ー)	ナデ(ー)	黒色粒	表・裏・器肉:灰白2.5Y8/2	
45	B1	5b	土師器	不明	底	ヘラナデ(\\)	ナデ(ー)	黒色粒, 石英	表・裏:淡黄2.5Y8/3 器肉:淡橙2.5YR7/3	糸切底.
46	A3	5b	土師器	不明	口		ナデ(ー)	白・黒色粒	表・裏:にぶい橙2.5YR6/6 肉:にぶい橙2.5YR6/4	
47	A・B -1・2	5b	土師器	不明	口		ナデ(ー)	赤色粒(少)	表・裏・器肉: にぶい黄橙10YR7/2	
48	A1	5b	土師器	不明	底				表:にぶい橙7.5YR7/3 裏・器肉:にぶい褐7.5YR6/3	底径6.2cm. 糸切底.
49	A2	5b	土師器	不明	底		ナデ(ー)	赤・白色粒	表:橙2.5YR6/6 裏・器肉:にぶい橙5YR6/4	糸切底.
50	A1	5b	土師器	不明	底	ヘラナデ(ー)→ナデ(ー)(\\)	ナデ(ー)	黒色粒(少), 微砂粒	表・裏・器肉: にぶい黄橙10YR7/3	糸切底.
51	B2	5b	土師器	不明	底	ヘラナデ(ー)→ナデ(ー)	ヘラナデ(\\)→ナデ(ー)	黒色粒, 微砂粒	表:灰白10YR8/2 裏・器肉:にぶい黄橙10YR7/2	糸切底.
52	A1	5b	土師器	不明	底			黒色粒, 微砂粒	表・器肉:灰白10YR8/2 裏:にぶい黄橙10YR7/2	糸切底.
67	B2	5b	ふいごの羽口		底				表:にぶい赤褐7.5R4/3 裏:灰赤7.5R5/2 器肉:灰白2.5Y7/1	一部被熱し, ガラス化している.
68	B2	5b上	土製品	土鍾					表・裏・器肉: 灰白10YR8/1 橙2.5YR6/6	長さ:3.3cm, 最大径:1.9cm, 孔径:0.8cm.
69	B1	5b	金属製品	煙管	雁首					火皿径:1.4cm 差込口径:0.7cm. 17c後半～18c初頭
70	A1	5b	土製品	不明					表・裏:褐灰7.5YR4/1 器肉:褐灰7.5YR4/1 にぶい橙7.5YR7/3	
71	3B	5d	土師器	不明	口	ナデ(ー)	ナデ(ー)	赤・黒色粒, 微砂粒	表:灰白10YR8/2 裏・器肉:浅黄橙10YR8/3	
72	A3	5d	土製品	土鍾	完形				表・裏・器肉: にぶい黄橙10YR6/4	長さ:3.7cm, 最大径:1.7cm, 孔径0.6cm., 重さ:9.22g.

第4章 郡元団地 R～T-7～9 区教育学部附属中学校ブロック塀補強工事に伴う発掘調査

1. 調査に至る経過

本学教育学部附属中学校において、市電通りとの境界であるグラウンドの西側コンクリートブロックを補強する工事の計画があがり、補強のための支柱基礎部分 25 か所について地表下 1 m を掘削することになった。本地点は鹿児島大学構内遺跡郡元団地南西端部に位置し、周辺隣接地では、古墳時代や古代を中心とする遺物包含層と遺構が確認されている（調査コード 93-6, 2005-3, 2011-1）。また、これら調査で確認された遺物包含層や遺構検出レベルも工事掘削深度より浅いことから、本工事が埋蔵文化財へ影響を与えると予想された。

掘削工事に先立ち、2019 年 1 月 24 日に本工事地点の一部について立会調査を実施したところ、地表下 30cm から黒褐色土（古墳時代～古代遺物包含層）と、その時期のピットと考えられる落ち込みを検出した。工事範囲内に遺構が存在していると推定されたため、発掘調査を行うこととなった。

2. 調査体制と期間

発掘調査は、以下の期間と体制で実施した。

調査コード	2018-2
所在地	鹿児島市郡元 1 丁目 21-24
調査起因	教育学部附属中学校フェンス設置工事
発掘期間	平成 31（2019）年 2 月 12 日～2 月 22 日
調査面積	100 m ²
調査体制	
調査主体者	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長 中村直子
調査担当	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 特任助教 寒川朋枝
作業員	赤尾和洋・川俣友秀・桐木平雅代・蔵本公一朗・蔵本祥嗣・芝田恵子・下田まき子

3. 調査の経過

掘削工事は、フェンス補強のための 25 か所の支柱基礎部分で、各掘削部分は一辺が 1～1.5m の範囲であった。これをトレンチとし、南側から 1 トレンチ、2 トレンチ、・・・と呼称した。

工事行程の都合上、南側 1 トレンチから調査を行ったが、各トレンチとも最初は重機で表土掘削を行ったのち、プライマリーな包含層以下は人力による掘削を行った。各層上面で遺構有無の確認を行い、遺構が検出された面で随時、測量・写真撮影を行った。

支柱の深さは 1 m の予定であったため、調査も地表下 1 m までか、もしくは基盤層（砂礫層）である 6 層が露出した時点で調査を終了した。ただし、3 トレンチと 9 トレンチについては、下層確認のため 1 m 以上の深さまで調査を行った。

各トレンチとも、最後に完掘状況の写真撮影と測量を行い、調査を終了した。



PL. 27 調査開始時の状況

平成 31 年 2 月 12 日／重機による表土剥ぎ（1～7 トレンチ）、3 層上面検出作業

平成 31 年 2 月 13 日／重機による表土剥ぎ（8～14 トレンチ）、4 層上面遺構検出（1～7・9 トレンチ）、3 層上面検出（11・12 トレンチ）、5 層遺構調査（13・

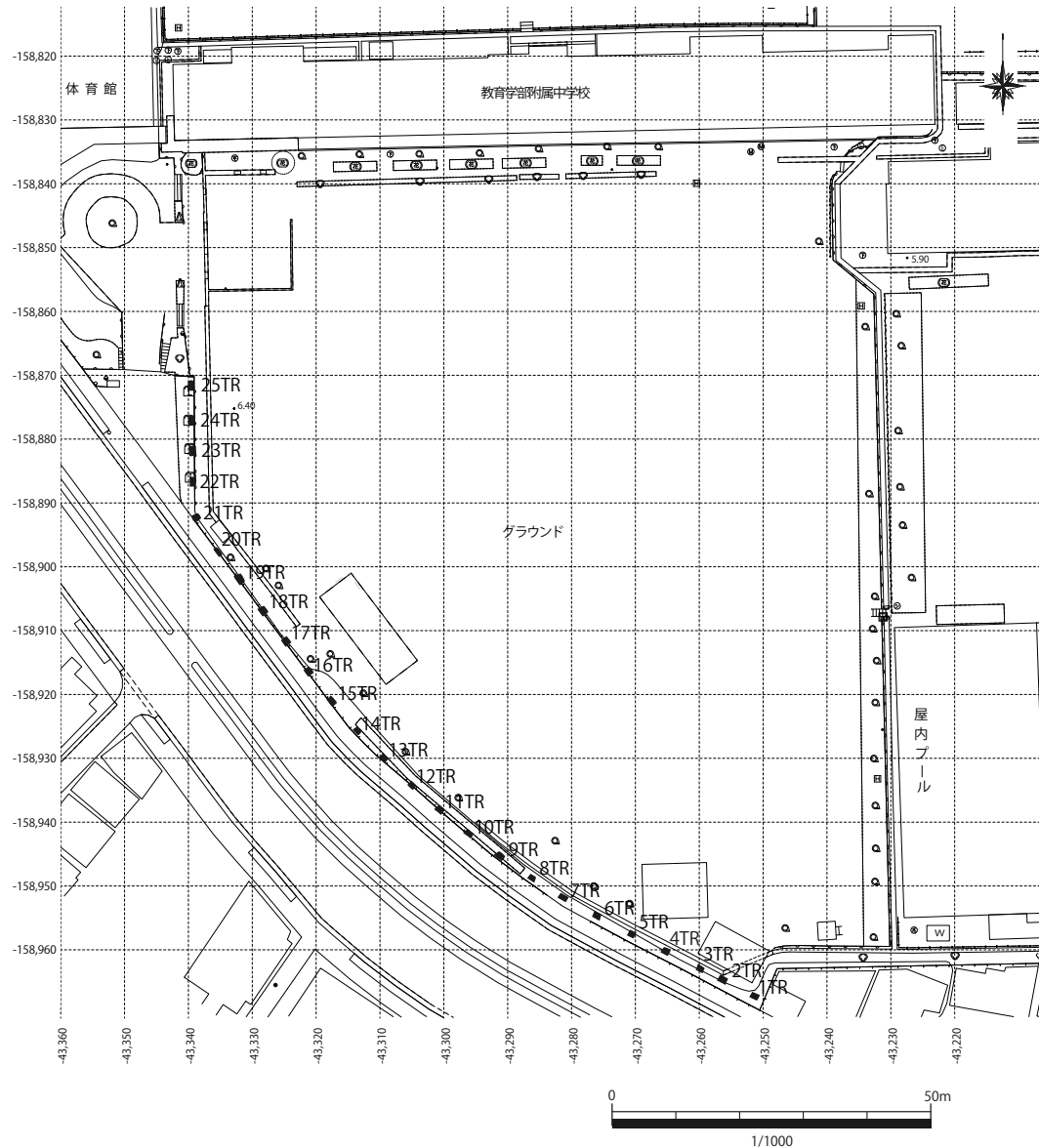


Fig. 30 各トレンチの位置 S=1/1000

14 トレンチ), 10 トレンチ 完掘

平成 31 年 2 月 14 日 / 4 層遺構調査 (1～4・8・9 トレンチ), 4 層掘削, 5～7 トレンチ 完掘

平成 31 年 2 月 15 日 / 重機による表土剥ぎ (15～19 トレンチ), 4 層遺構調査 (12 トレンチ), 6 層遺構調査 (13 トレンチ), 8 トレンチ 完掘

平成 31 年 2 月 18 日 / 重機による表土剥ぎ (20～22 トレンチ), 5・6 層遺構調査 (11～15 トレンチ), 14・15 トレンチ完掘

平成 31 年 2 月 20 日 / 3・9 トレンチ 下層確認のための深堀, 5 層調査 (16～21 トレンチ), 15・20 トレンチ 完掘

平成 31 年 2 月 21 日 / 5・6 層調査 (16～25 トレンチ), 16～19・21～23 トレンチ 完掘

平成 31 年 2 月 22 日 / 6 層遺構調査 (24・25 トレンチ), 道具片付け作業

4. 基本土層 (Fig. 31～33, PL. 28)

本調査区で確認した層は, 表土から基盤層となる黄褐色砂層まで 6 層に分けた。1～3 層までは現代の表土もし

くは盛土である。3・4層は11トレンチより北側には認められない。4層はさらに分層されるが、トレンチにより分層の様相は異なる。遺構としては鋤痕と思われる耕作痕が認められ、4層土がグライ化していることから、水田もしくは畠としての利用が考えられる。また、部分的に粗砂・細砂も混じる。この層までは陶磁器類が含まれる。

古代・古墳時代の遺物包含層にあたる5層は地点によって堆積厚が異なるが、基本的に10～20cmを超えることはない。11トレンチのみ、やや堆積層が厚くなっており、遺構内埋土の可能性も考えられる。また、北側24・25トレンチ検出の5層上面は硬くしまっており、パミスの混入も殆どみられない。24・25トレンチ検出の黒色土は、4層と6層に挟まれており、層位的には5層土と同じだが、他トレンチの5層黒褐色とは時期が異なる可能性がある。便宜的に5c層としたが、5a・5b層より古い時期の層位というわけではない。5層下方の5b層は基盤層である6層の粗砂が混ざるような状況で斬移層と思われる。また、5層もトレンチにより若干様相は異なる。11トレンチより北側では5・6層の検出面が高い。微高地状を呈すると推定される。

以下に基本層序を示す。

1層：表土・攪乱

2層：にぶい黄褐～黄橙色 10YR5/3～6/4 砂層。盛土か。

3層：黒褐色 10YR3/2 シルト層。細砂および黄色パミスが混ざる。盛土か。

4層：褐灰～灰黄褐色シルト層を基調とする。細砂および白色パミスが少量混ざる。

4a層：灰黄褐色 10YR6/2 シルト層。細砂と白色パミスが少量混ざる。

4b層：褐灰色 10YR6/1～6/2 シルト層。細砂と白色パミスが少量混ざる。

4c層：灰褐色 7.5YR5/2 シルト層。細砂と黄色パミスが少量混ざる。鉄分が浸透し、硬くしまる。

5層：黒褐色シルトを基調とする。

5a層：暗褐色～褐色 10YR3/3～7.5YR3/4・3/2 シルト層。黄色パミスが少量混ざる。11トレンチ以北で確認。



1 14トレンチ南壁



2 15トレンチ北壁



3 17トレンチ南壁



4 9トレンチ西壁



5 23トレンチ南壁



6 24トレンチ南壁

PL. 28 壁面土層

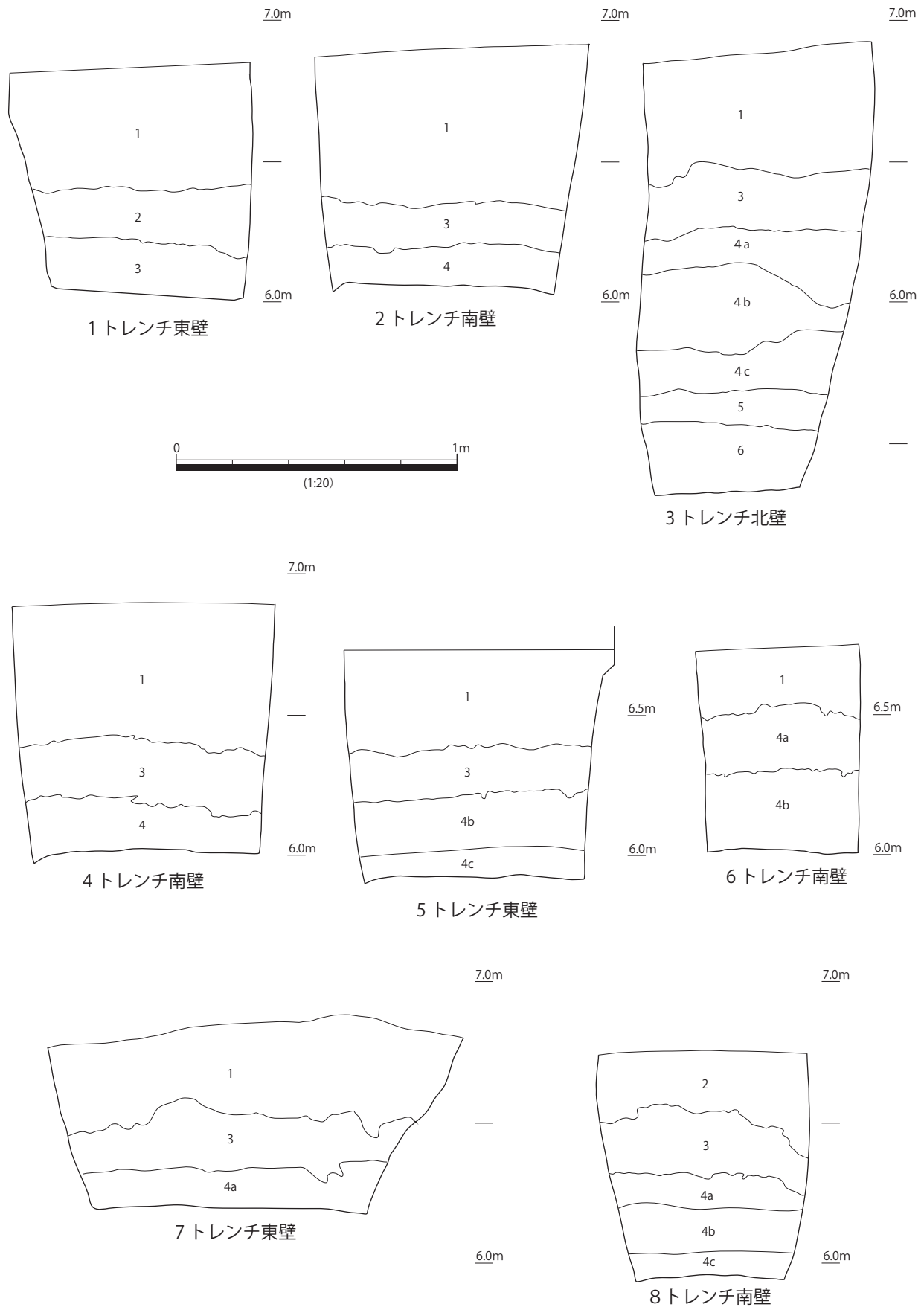


Fig. 31 1～8トレンチの土層断面図 S=1/20

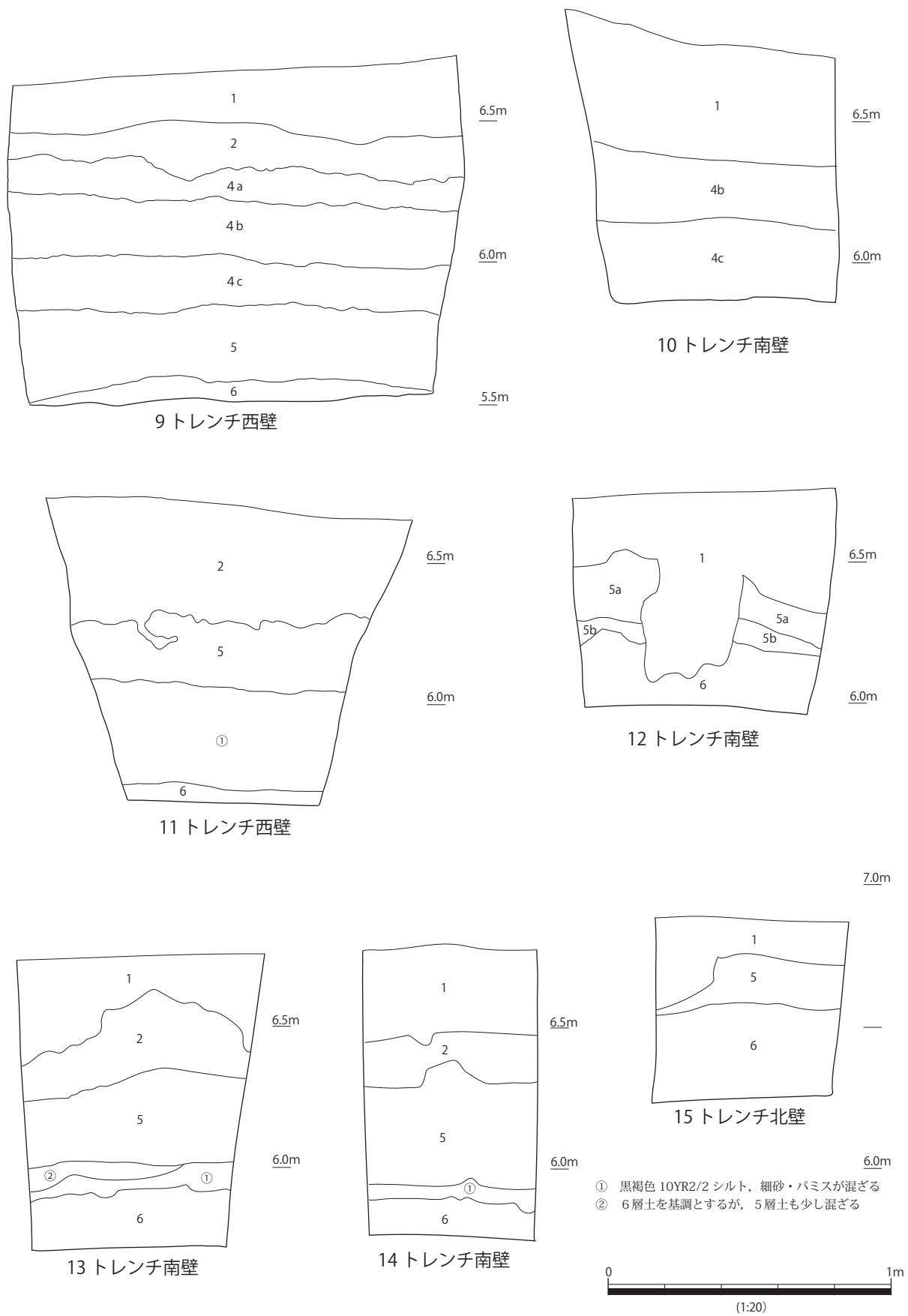


Fig. 32 9 ~ 15 トレンチの土層断面図 S=1/20

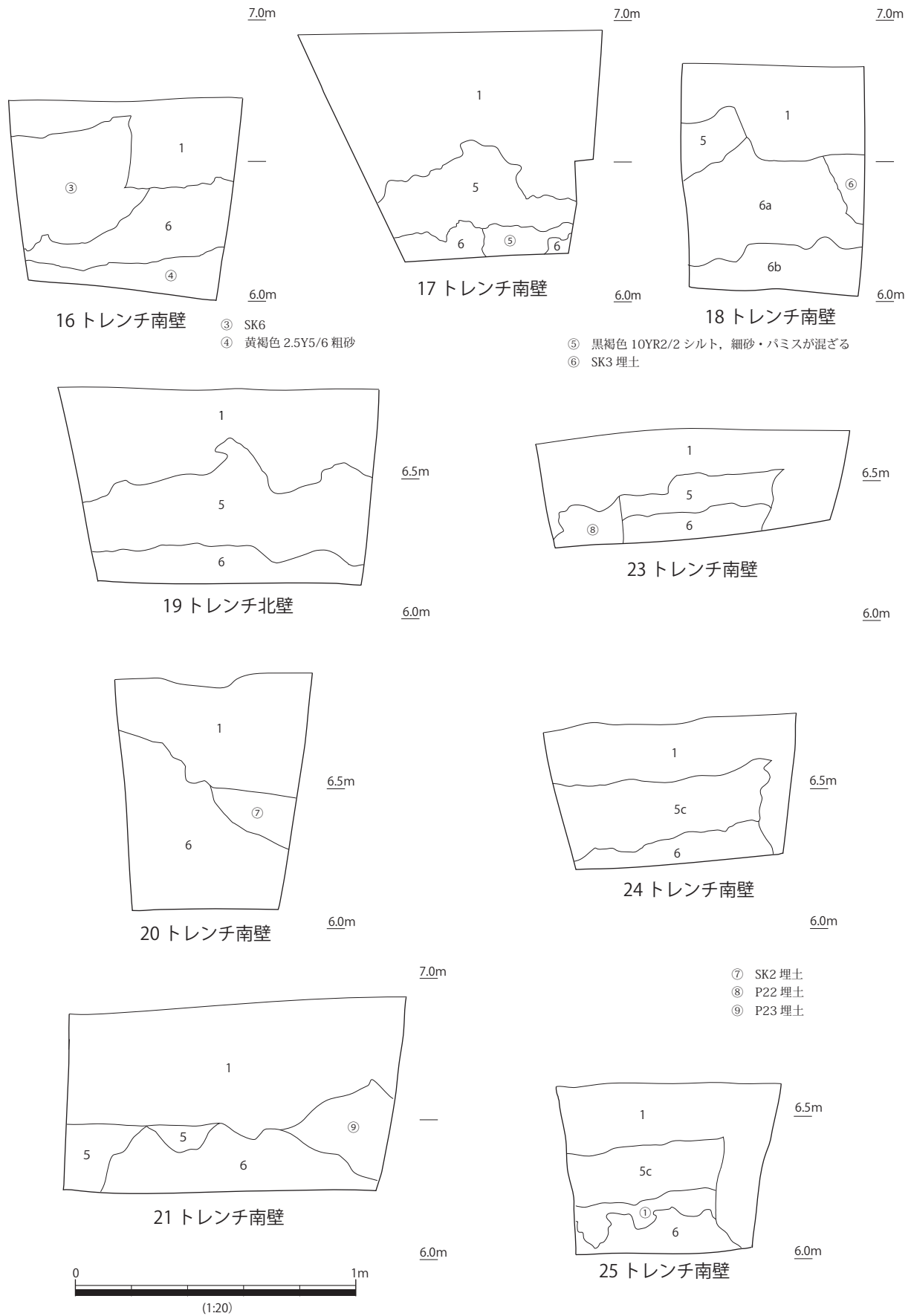


Fig. 33 16～21・23～25 トレンチの土層断面図 S=1/20

5b 層：黒褐色 10YR3/2 シルト層。黄色パミスが混ざる。

5c 層：黒色 (10YR2/1) シルト層。硬くしまり，黄色パミスの混入もない。24・25 トレンチで確認。5a・5b 層より上位の土層である可能性がある。

6 層：明黄褐色 10YR6/6 細砂～粗砂層。軽石・白色パミスを含む。

5. 各トレンチの成果

1 トレンチ (Fig. 34, PL. 29)

1 トレンチでは，1～4 層までを確認したが，遺構は検出しなかった。

遺物は，3 層に弥生時代～古墳時代土器を主体に，薩摩焼，清代青花，土師器，ガラスなどが出土し，4 層でも

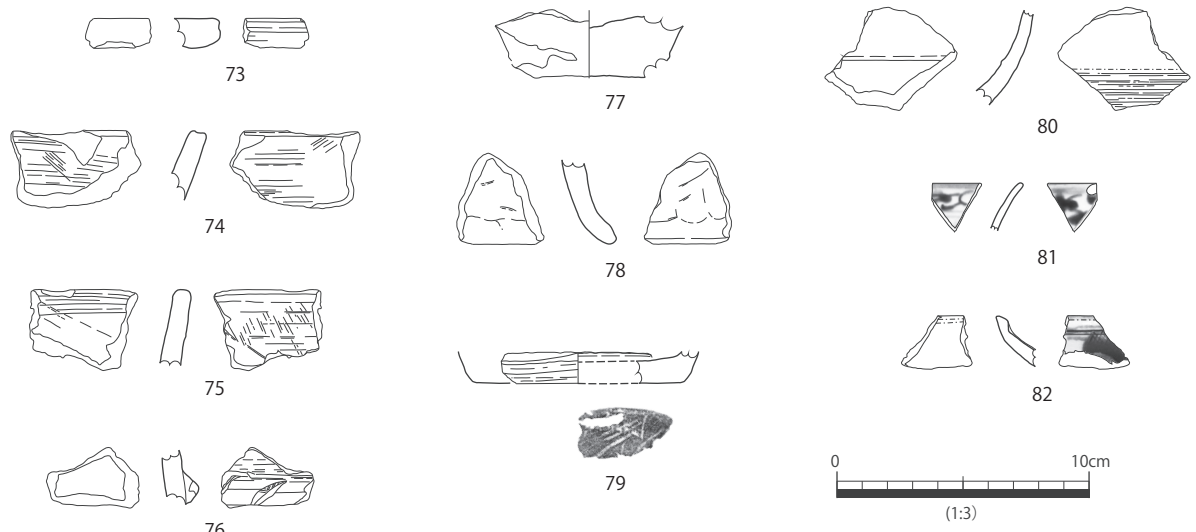
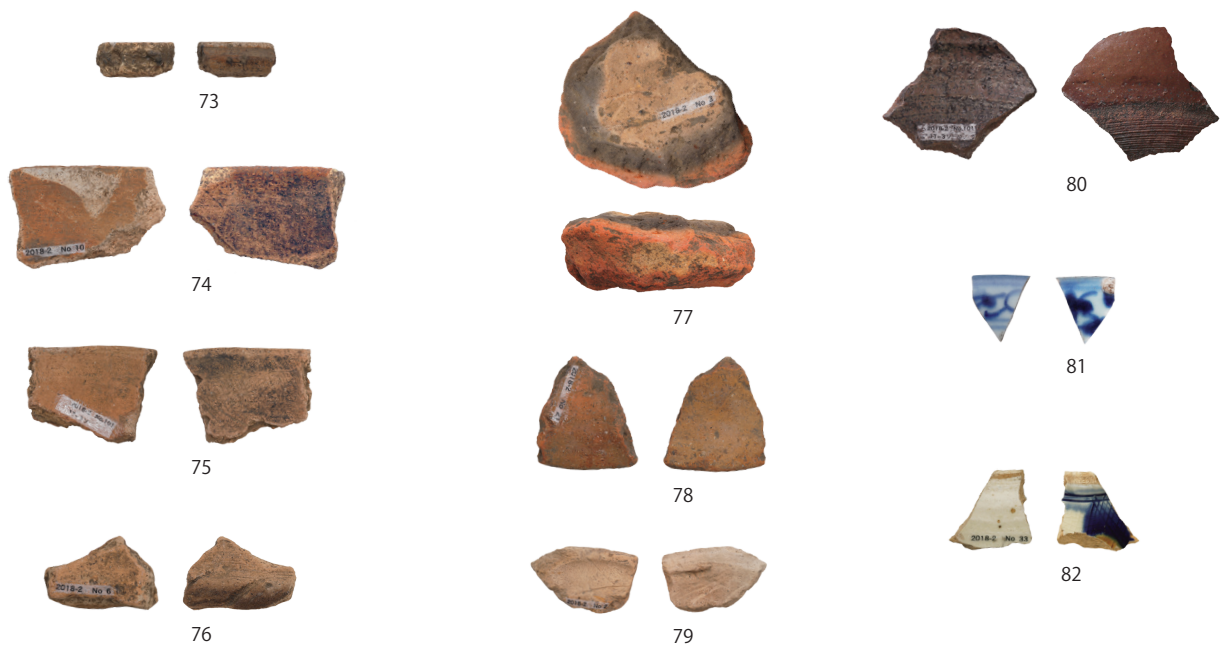


Fig. 34 1 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 29 1 トレンチ出土遺物

弥生時代～古墳時代土器を主体に、琉球陶器が出土している。4層まで近代遺物が出土するため、下層まで攪乱された場所である。3層出土品を9点、4層遺物1点を図化した。

73は入来Ⅱ式土器甕の口縁端部で、弥生時代中期前半新段階のものある。口縁部上面は平坦で厚ぼったく、口唇部をおさえて浅くくぼませる。74・75は古墳時代前半期の成川式土器甕の口縁部である。74は直状にやや開く口縁部であり、口唇部はおさえ凹部を形成する。古墳時代前半期。75は直状でやや開く口縁部であり、口縁部は平坦面を形成する。76は成川式土器の突帯部分である。右上がり斜位の刻みを有するが、刻み内には布目圧痕が残る。77・78は成川式甕の脚台である。77は付け根部である。78は脚台端部である。端部は舌状に成形する。

79は土師器環と考えられる。ヘラ切り底で立ち上がり部が削りによって浅い段を形成する。

80は陶器土瓶の底部付近であり、内面と外面途中まで施釉される。外面釉調は明るい茶褐色で、近代の製品である。

81は清代青花の端反碗である。外面は草花文、内面は圏線内に文様が巡るが、図柄は不明である。18世紀末～19世紀と推定される。

82は琉球陶器上焼の急須である。内外面ともに施釉されるが、口唇部は釉が掻き取られる。近代の製品である。

2トレンチ (Fig. 35, PL. 30)

2トレンチでは、1～4層までを確認したが、遺構は検出しなかった。

遺物は、3層で弥生時代～古墳時代土器を中心に、薩摩磁器、近代磁器、鉄製品などが出土し、4層でも弥生時代～古墳時代土器を中心として、須恵器、肥前磁器などが出土している。4層まで近世の攪乱が及んでいると考えられる。3層遺物を5点、4層遺物を1点図化した。

83は弥生時代中期後半～後期頃の甕の口縁部と考えられる。口唇部をおさえることで、若干凹面が形成されている。84・85は、成川式甕の口縁部である。84の口唇部は舌状であり、外面は丁寧にナデられるが、内面は粗いハケメが消え切っていない。外面胴部は縦位のヘラナデが一部残る。85は口の開く甕の口縁部である。口唇部は舌状である。ともに弥生時代終末期～古墳時代初頭の中津野式土器に近い。86は古墳時代後半期の成川式土器の高坏である。剥落や破損が著しいが、一部に赤色顔料が残っている。

87は近代磁器の湯飲み碗で、底径3.4cmを計る。外面に草花文らしき文様が描かれるが構図は不明である。腰

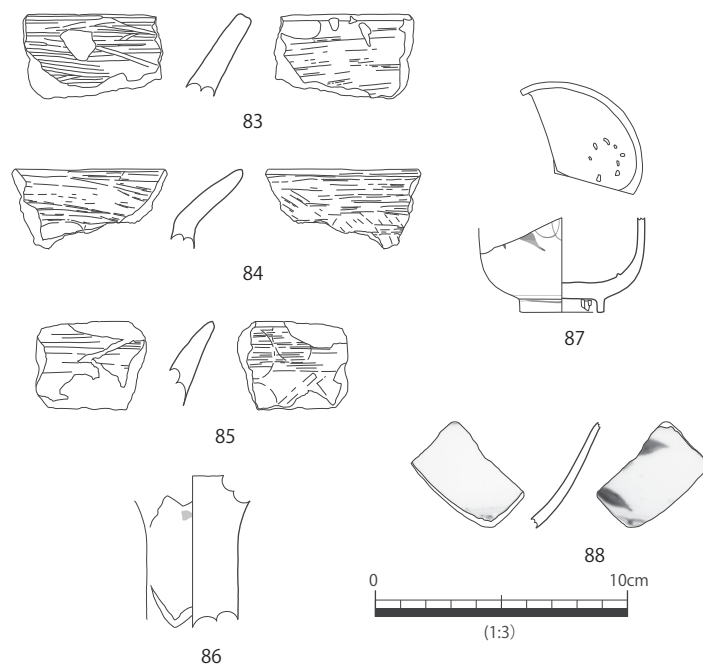
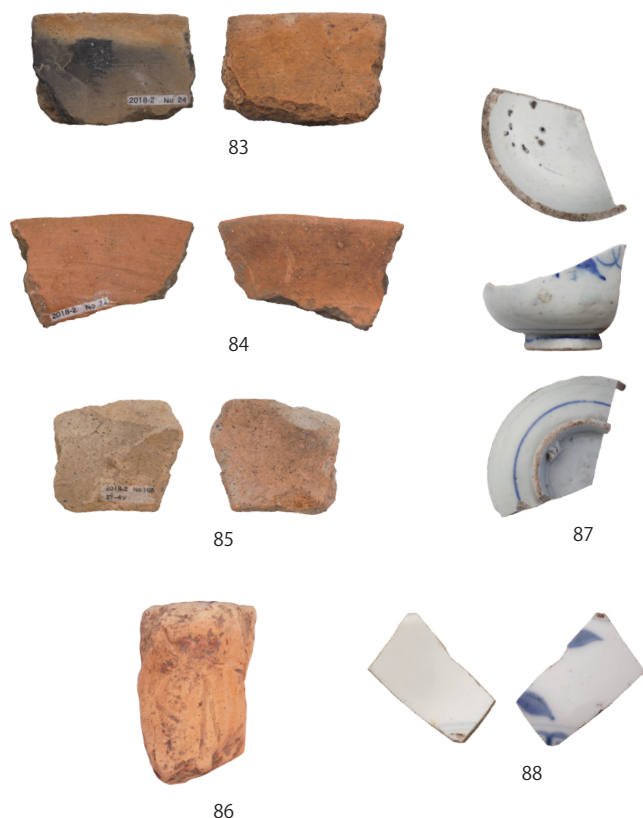


Fig. 35 2トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 30 2 トレンチ出土遺物

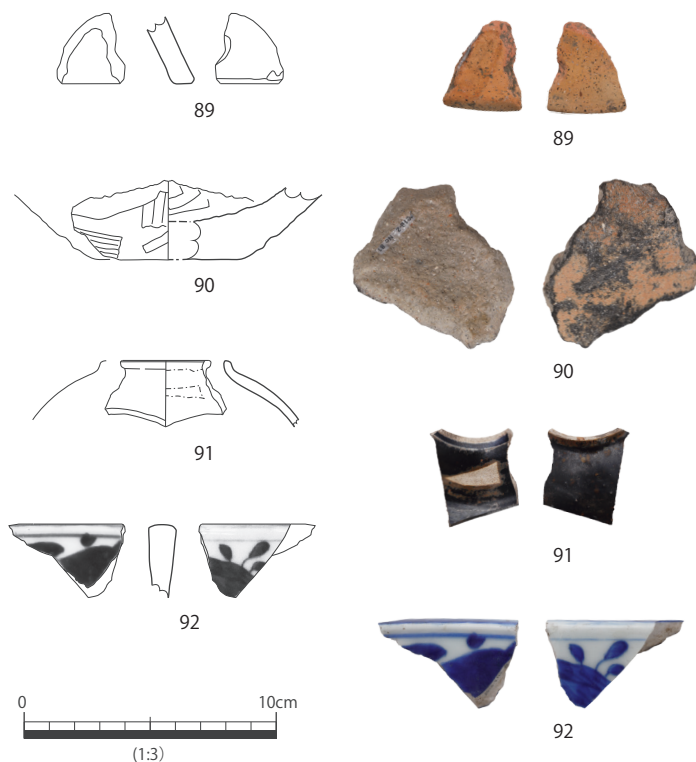


Fig. 36 3 トレンチ出土遺物
S=1/3

部下と高台付け根に圈線が巡る。見込みに砂目跡が残る。88 は近代の染付端反碗で外面には草花文、下部に蓮弁文が巡り、内面見込みに二条の圈線が確認できる。

3 トレンチ (Fig. 36, PL. 31)

3 トレンチでは、下層確認も実施したため、1～6 層までを確認している。遺構は検出しなかった。

遺物は、3 層で弥生時代～古墳時代土器を主体として、薩摩焼、近代磁器、軽石製品などが出土している。4 層においても弥生時代～古墳時代土器を主体に、薩摩焼、薩摩磁器などが出土するため、近世の攪乱が及んだ場所であると判断される。5 層では出土量は少ないものの、弥生時代～古墳時代土器のみが出土した。3 層遺物を 3 点、4 層遺物を 1 点図化した。

89 は成川式土器甕の脚部である。端部は平坦に成形されている。90 は成川式土器壺の底部である。平底で底径 5.6cm を計る。外面は剥落が著しい。

91 は薩摩焼豎野系の土瓶と思われるもので、前面に黒褐釉を施し、口唇部の釉を掻き取る。18 世紀後半以降の製品である。92 は近代磁器の染付鉢で、内外面に草花文を描き、口唇部にはコバルトの上から掻き取るように図柄不明の文様を描く。火鉢片の可能性もある。

4 トレンチ (Fig. 37, PL. 32)

4 トレンチでは、1～4 層までを確認している。遺構は検出しなかった。

遺物は、3 層で弥生時代～古墳時代土器を主体として、須恵器、近代磁器、瓦、砥石などが出土している。4 層では弥生時代～古墳時代土器を主体として、薩摩磁器、現代磁器などが混在するため、最下層まで現代の攪乱が及んでいると判断できる。3 層及び 3 下層遺物のみを 6 点図化した。

93 は成川式土器甕の口縁部で、口のやや開く直状を呈す。口唇部内面側をおさえて平坦面をつくる。94 は成川式土器甕の突帯部で、突帯接合部は明瞭で、突帯側面にも指頭痕が著しい。突帯頂部には幅の狭い刻目が施される。95 は成川式土器高坏の脚部である。端部は丸みを帯び、外面

PL. 31 3 トレンチ出土遺物

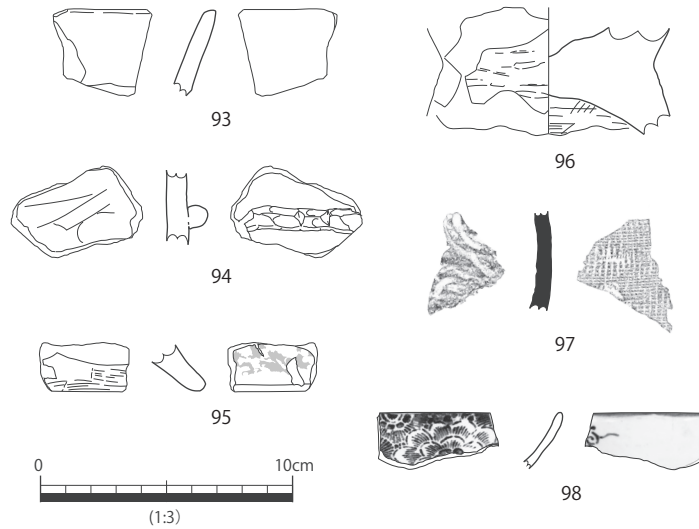
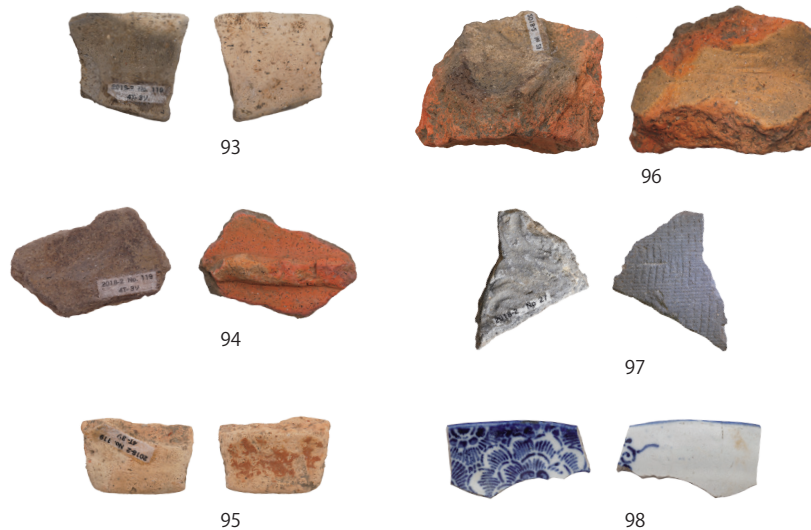


Fig. 37 4 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 32 4 トレンチ出土遺物

は赤色顔料が塗布されている。古墳時代後半期と推定される。96 は成川式土器甕の脚台付け根部分である。外面はナデ消してはあるものの、無数のハケメの始点が観察できる。脚台内も刷毛目が比較的よく残る。

97 は須恵器破片で、外面は横位のカキメの上に縦位の平行線タタキが確認できる。内面は同心円文当て具である。98 は型紙摺りの輪花皿である。内面は椿の花文が描かれ、外面文様の構図は不明である。

5 トレンチ (Fig. 38, PL. 33)

5 トレンチでは、1・3・4 層までを確認し、4 層は 4b・4c 層に上下に分層できた。遺構は検出しなかった。

遺物は、3 層で弥生時代～古墳時代土器を主体として、須恵器、薩摩焼、薩摩磁器、現代磁器が出土する。4 層においても弥生時代～古墳時代土器を主体として、須恵器、薩摩焼が出土する。4 層まで近世の攪乱が及ぶと考えられる。3 層遺物 2 点、4 層遺物 3 点を図化した。

99 は須恵器の厚手の胴部片であり、甕か壺の大型品の可能性がある。外面は格子目文タタキが著しいが、内面は丁寧にナデが施され、当て具痕は不明である。

100 は薩摩焼苗代川系の土瓶の蓋である。外面に褐釉が施される。18 世紀後半以降の製品である。101 は薩摩焼龍門司系甕の口縁部で、口唇部を二条の凹線で装飾し、黒褐釉が施される。口縁部上面は釉が掻き取られる。

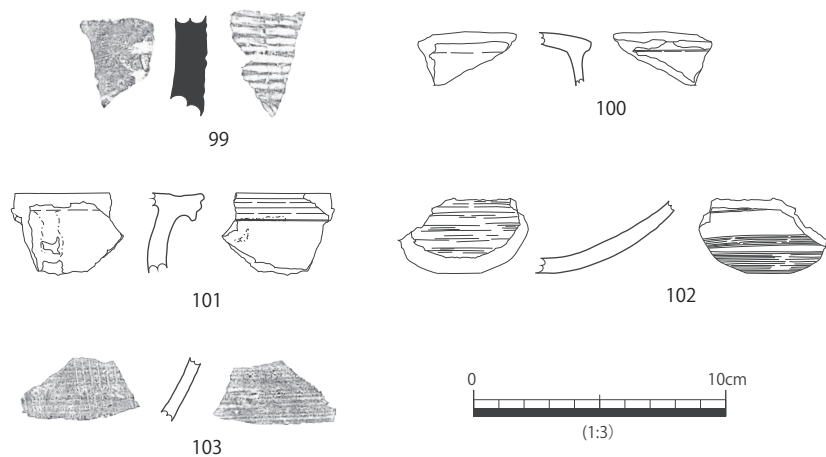


Fig. 38 5 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 33 5 トレンチ出土遺物

18 世紀後半以降の製品である。102 は薩摩焼苗代川系土瓶の底部であり、内面と外面上半部が施釉される。底部にはカキメが残る。18 世紀後半以降の製品である。103 は薩摩焼苗代川系搦鉢の胴部である。内面に細い搦目が残る。内外面ともに褐釉が施される。18 世紀以降の製品である。

6 トレンチ

6 トレンチでは、1～4 層を確認し、4 層は 4a・4b 層に上下に分層できた。

遺物は、3 層で弥生時代～古墳時代土器や薩摩焼が出土し、4 層で弥生時代～古墳時代土器のみが出土しているが、遺物は小破片のみで図化できなかった。

7 トレンチ (Fig. 39, PL. 34)

7 トレンチでは、1～4a 層を確認した。3 層で弥生時代～古墳時代土器が中心に出土し、須恵器、薩摩焼、肥前磁器などが出土し、近世遺物が含まれる。4 層では遺物数は少ないが、弥生時代～古墳時代土器のみが出土している。3 層出土遺物 6 点を図化した。

104 は弥生時代の二重口縁壺の一部ではないかと考えられるものである。外面頸部には左上がりのハケメが残り、屈曲部は横位のナデである。内面はヘラナデをナデ消す。

105 は成川式土器埴の肩部の破片である。屈曲部に細かい刻みが施される。古墳時代前半期の東原式土器の可能

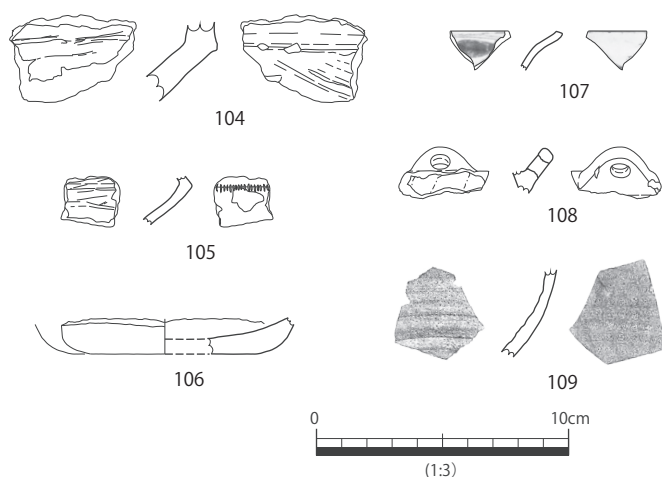
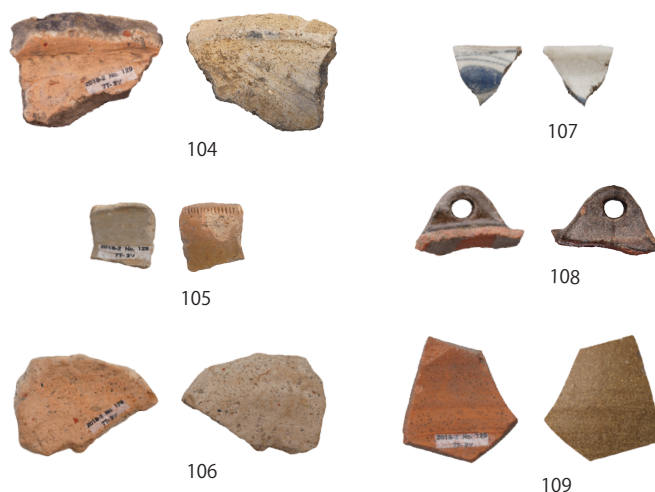


Fig. 39 7 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 34 7 トレンチ出土遺物

性がある。

106 は土師器坏の底部と思われるが、丁寧にナデられ胎土の混入物も粗く多い。底径 7.6cm と復元した。

107 は緩やかに大きく口の開く染付の皿である。内面に文様が施されるが構図は不明である。近世の製品と推定される。

108 は薩摩焼苗代川系土瓶の把手付部の破片である。内外面に褐釉が施される。孔径 0.8cm。18 世紀後半以降の製品である。109 は薩摩焼加治木・始良系碗の破片である。外面に緑褐釉が施される。18 世紀の製品である。

8 トレンチ

8 トレンチでは、2～4 層を確認し、4 層は 4a・4b・4c 層を上下に分層できた。遺構は確認できなかった。

遺物は、3 層において遺物がほとんど出土せず、4 層で弥生時代～古墳時代土器が中心に出土し、薩摩焼、近現代磁器が出土するため、最下層まで現代の攪乱が及ぶと考えられる。図化できる遺物はなかった。

9 トレンチ

遺構 (Fig. 40, PL. 35)

9 トレンチでは、下層確認も実施したため、1～6 層を確認し、4 層は 4a・4b・4c 層上下に分層できた。6 層上面でピットを 5 基検出した (Fig.40-P14～18)。いずれも調査区北側に位置している。P14・15・18 は直径 20

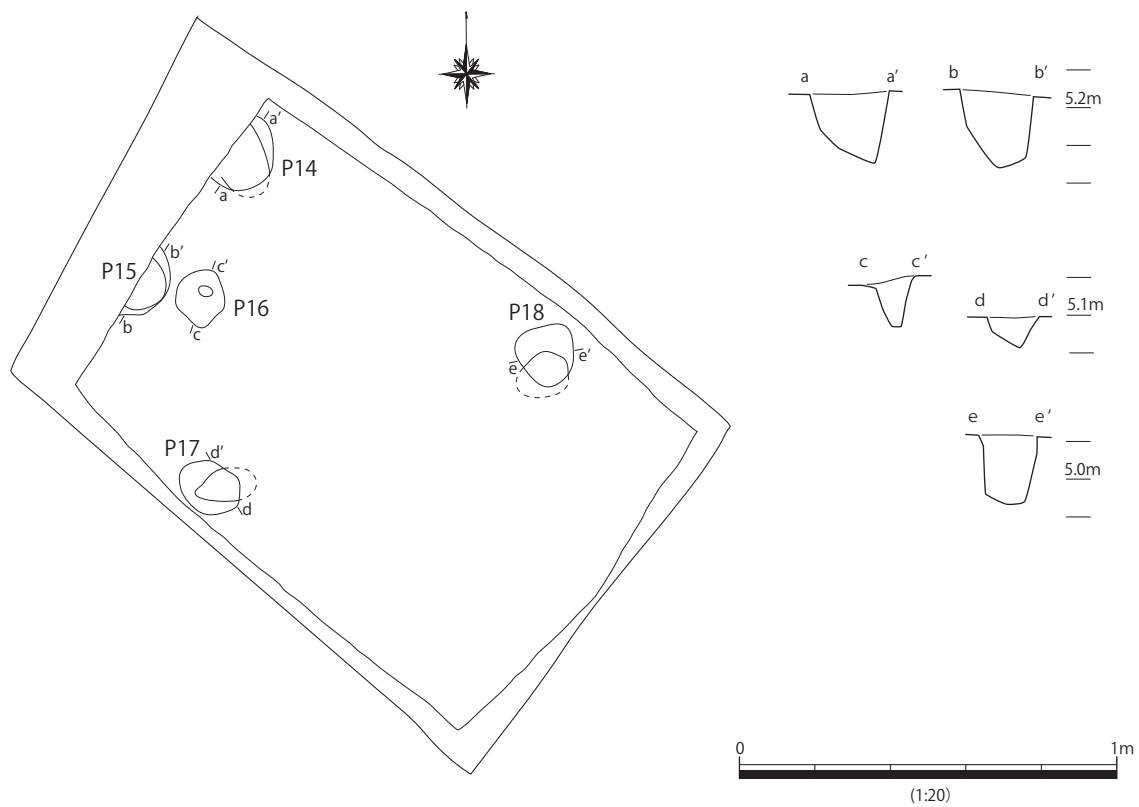


Fig. 40 9 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 6 総上面遺構検出状況 (南東より)



2 P14～16 完掘状況 (南東より)

PL. 35 9 トレンチ遺構検出状況

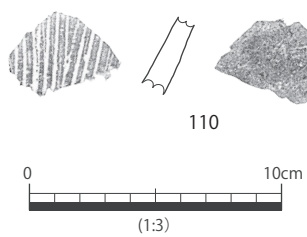
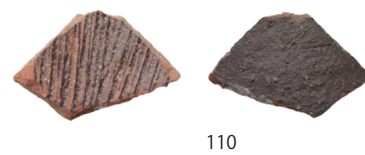


Fig. 41 9 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 36 9 トレンチ出土遺物

cm前後、深さ約 20cmと同規模である。一方、P16・17 は直径 15cm前後、深さ 10cm前後とやや小ぶりで前者より浅い。明確な配置は不明だが、周辺では古代のピット群や古墳時代竪穴建物跡が検出されていることから、これらの遺構に付随する可能性も高い。

遺物 (Fig. 41, PL. 36)

9 トレンチでは、3 層において弥生時代～古墳時代土器を主体として、薩摩焼、ガラスなどが出土し、4 層では弥生時代～古墳時代土器のほか薩摩焼がわずかに出土する。3 層遺物 1 点を図化した。

110 は薩摩焼苗代川系播鉢の胴部で、内外面に黒褐釉が施される。内面の播目は粗く、摩滅によって滑らかになっている。18 世紀の製品と考えられる。

10 トレンチ

10 トレンチは、1～4 層まで確認し、4 層は 4b・4c 層上下に分層できた。遺物は、弥生時代～古墳時代土器がわずかに出土したのみであった。図化できる遺物はなかった。

11 トレンチ

遺構 (Fig. 42, PL. 37)

11 トレンチでは、1・5・6 層を確認した。5 層は厚く堆積しており、下層には 6 層土である粗砂層との混土が堆積している。本書では便宜上①層としたが、厚さ 35cmほどあり、上面下面が水平であることや 6 層との境界がはっきりしていることなどから、竪穴建物の貼床土など遺構の一部である可能性が考えられる。また、6 層上面土坑 1 基とピット 1 基を検出したが、これらの埋土も 5 層土に類似することから、同一遺構の一部である可能性がある。

遺物 (Fig. 43, PL. 38)

11 トレンチでは 5 層に弥生時代～古墳時代にかけての遺物が良好に包蔵されており、軽石製品なども出土している。1 点のみ漳州窯系青花が含まれる。5 層遺物を 12 点、出土層不明遺物を 1 点図化した。

111 は大きく口が開き薄手である。口唇部は丁寧に抑えられ平坦面を形成する。弥生時代後期土器か成川式前半期であると推定される。112～114 は成川式土器甕の口縁部である。弥生時代終末期～古墳時代前半期の中津野式土器もしくは東原式土器の可能性が高い。112 は口の開く成川式土器甕で、口唇部は舌状を呈する。内外面ともに横位のハケメが著しく残る。古墳時代前半期の東原式土器に類似する。113 は大きく口の開く成川式土器甕の口縁部であり、薄手である。口唇部は舌状につくられている。調整は内外面ともに横位にナデられるが整調である。

114 は成川式土器甕の、やや口の開く口縁部である。口唇部はおさえることで平坦面を形成し、やや厚手である。外面調整は整調であるが、内面側は指頭痕が著しい。古墳時代前半期か。115 は成川式土器甕の突帯部であり、三角突帯に右上がり斜位の刻みを施す。116 は成川式土器甕の脚部である。端部は工具によっておさえることで平坦面が明瞭で、外面は付け根部にハケメの始点が著しく残される。117 は厚手の壺の胴部破片で、一条の刻目突帯が巡る。刻みは左上がり斜位である。比較的厚手であるが、内外面ともに丁寧に調整が施されることから、弥生時代の可能性もある。118 も厚手の壺の胴部破片で、一条の大きめの突帯が巡り、右上がり斜位の刻目が施される。外面は丁寧にナデられるが、内面は指頭痕が残っており、成川式土器と考えられる。119 は成川式土器の高坏の坏部である。外面に赤色顔料が塗布され、横位のミガキが施される。内面にも横位のナデが確認できる。形態からは古墳時代後半期の高坏ではないかと考えられる。

120 は成川式土器の埴の口縁破片である。外面に赤色顔料が塗布され、横位のミガキが施される。内面にも横位のナデが確認できる。古墳時代後半期のものである。121 は成川式土器高坏の脚部の破片である。破損が著しい。外面に赤色顔料が塗布される。古墳時代後半期である。122 は成川式土器埴の肩部である。外面は丁寧にナデ調整されるが、内面は指頭痕が著しい。同一個体と思われる破片がもう 1 点ある。

123 は三角柱形に整形された軽石製品である。上端・下端・裏側は破損しているが、機能については不明である。左側平坦面はやや凹面をなす。

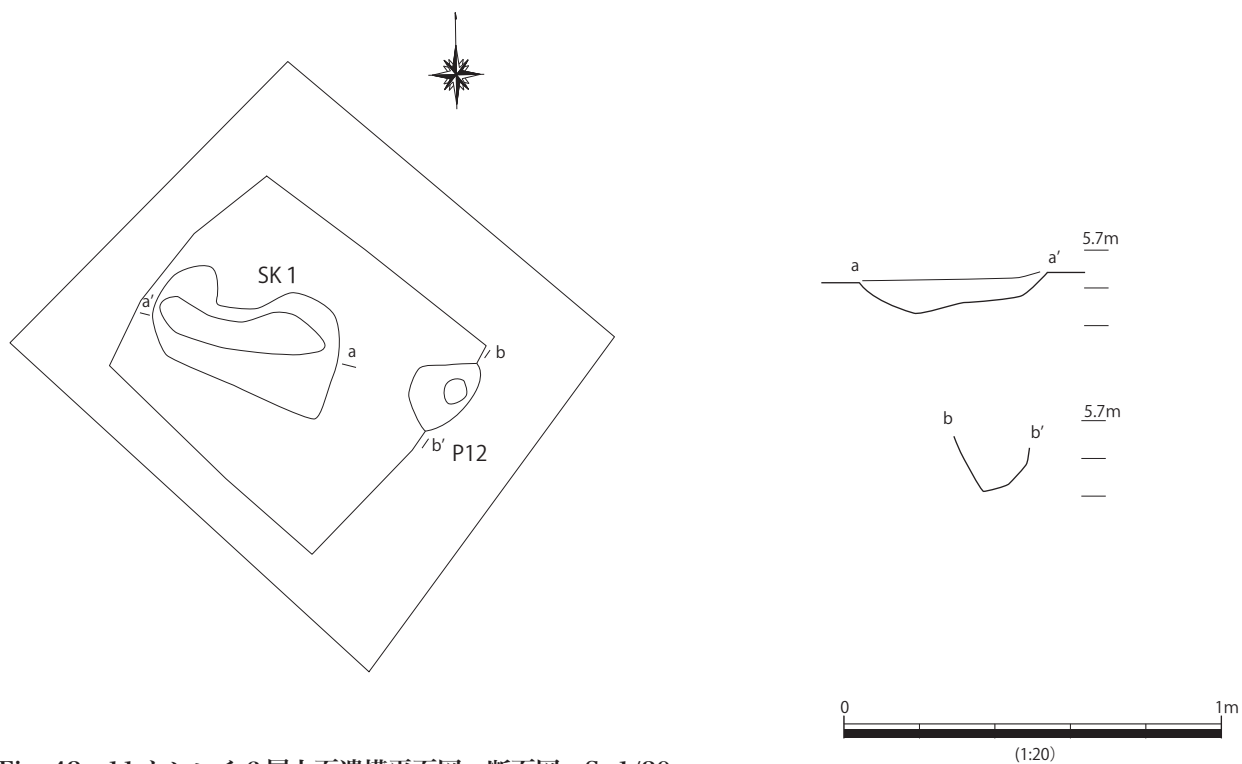


Fig. 42 11 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 11 トレンチ 6 層上面遺構検出



2 11 トレンチ 6 層上面検出遺構完掘状況



3 11 トレンチ北壁
PL. 37 11 トレンチ遺構検出状況

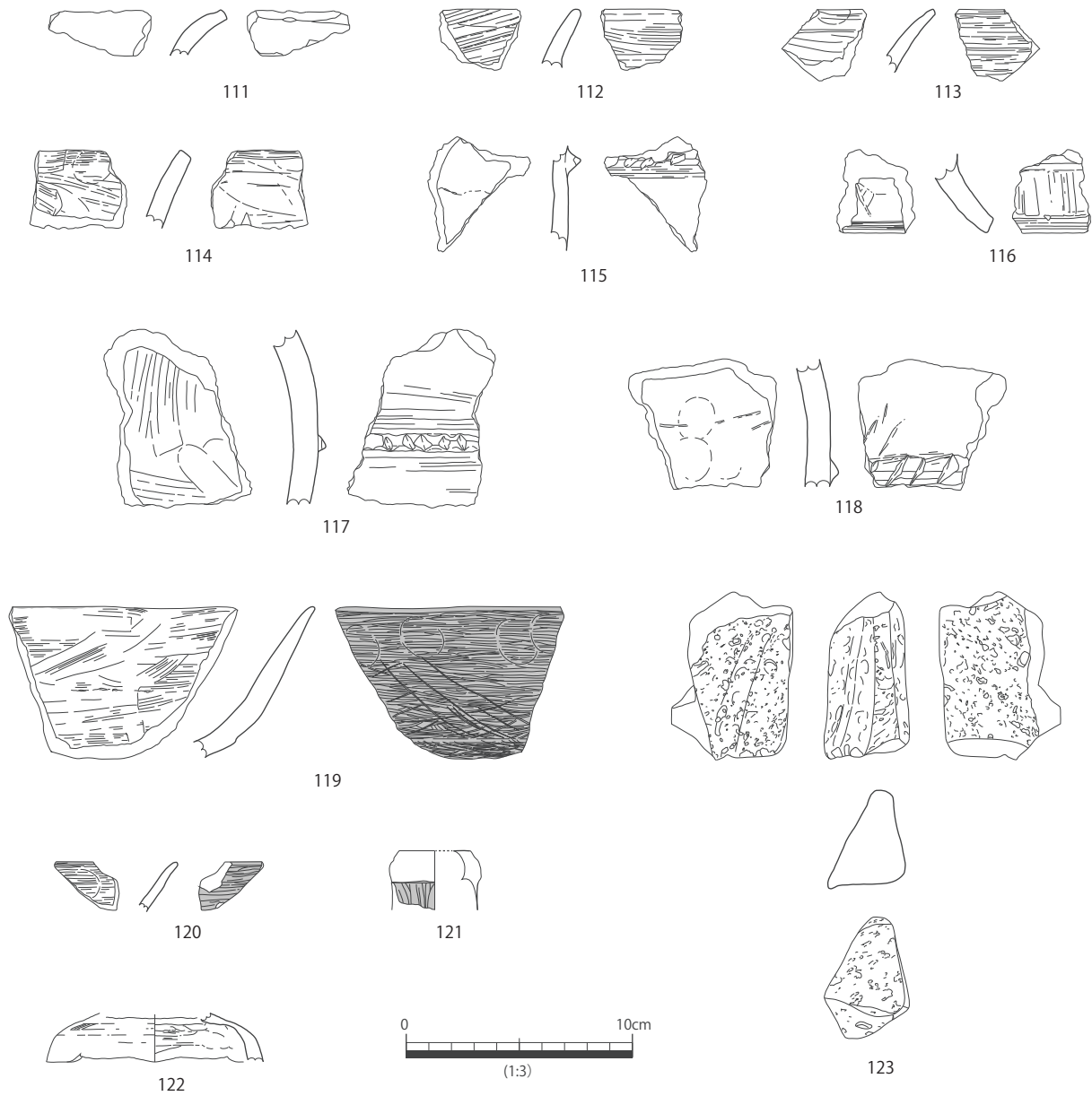


Fig. 43 11 トレンチ出土遺物 S=1/3



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



123



122

PL. 38 11 トレンチ出土遺物

12 トレンチ

遺構 (Fig. 44, PL. 39)

12 トレンチでは、1・5・6 層を確認した。5 層は、5a 層と 5b 層に分層できた。トレンチ内を北から南東方向に攪乱土坑が溝状に横切っているが、その西側にピットを 1 基検出した (P6)。

遺物

6 層上面で検出された P6 より弥生時代～古墳時代土器が出土しているが、図化できる資料はなかった。

13 トレンチ

遺構 (Fig. 45, PL. 40)

13 トレンチでは、1・2・5・6 層を確認した。5 層と 6 層の間には 5 層土と 6 層土が混ざる①層と、6 層土を基調として 5 層土が若干混ざる②層の薄い堆積を確認した。いずれもほぼ水平に堆積していることから、これも 11 トレンチと同様、5 層土中より掘り込まれた竪穴建物跡の貼床土など遺構の一部である可能性もある。トレンチ北側に集中して、6 層上面よりピットを 4 基を検出した (P2～5)。トレンチ隅にあるため全形がわかるものは 2 個のみだが、いずれも直径 25cm 前後になるようだ。このうち P3 は深さ 23cm と比較的深い。他は 5cm 以下の深さである。

遺物

13 トレンチはほとんど攪乱されており、5 層で弥生時代～古墳時代土器が少量出土したのみであった。

14 トレンチ

遺構 (Fig. 46, PL. 41)

14 トレンチでは、1・2・5・6 層を確認した。5 層が厚く、その下に 5 層土に 6 層土である粗砂層が混ざる①層が薄く堆積するなど、13 トレンチとよく類似する。ただし、①層の検出面が 6, 7cm ほど 13 トレンチより低い。堆積はどちらのトレンチでもほぼ水平であることから、同一遺構の床面構造によるものか、もしくは隣接する同種の遺構であると考えられる。

6 層上面からはピットが 1 基のみ検出された (P11)。径は 13cm とやや小ぶりだが、深さは 31cm あり、埋土は 5 層土に類似する。本トレンチ 5 層からは、成川式土器が多く出土しているが、5 層や①層より青磁碗や瓦器擂鉢が出土しており、中世の遺構である可能性が高い。

遺物 (Fig. 47, PL. 42)

14 トレンチにおいては、5 層で弥生時代～古墳時代土器が主体的に出土し、軽石製品も出土する。青磁や瓦器、近世遺物もわずかに含まれる。5 層及び 5 層下部出土遺物を 12 点、6 層上部出土の遺物 1 点を図化した。

124 は弥生時代の大甕の口縁部である。緩やかに屈曲するもので、上向きの鰐状の突帯が口縁部直下に巡る。外面は縦位方向のハケメを、鰐を貼付する際の横位のナデで消しているが、内面は左上がりのハケメがナデ消されずに明瞭に残る。屈曲部内面の稜が明瞭でないことから弥生時代後期の可能性がある。

125 は成川式土器の甕口縁部であるが、口縁部が厚ぼったい。内面には接合痕が明瞭に残される。126・127 は成川式土器甕の脚台である。126 は付け根部で、内面にはハケメが残り、脚部には接合痕が確認できる。127 は脚台部である。内面には横位の工具痕が消え切らずに残る。薄手で整調ななつくりであることから、弥生時代終末期～古墳時代初頭の中津野式土器の可能性がある。128・129 は成川式土器高坏の脚部である。128 は破損が著しいが、内面に横位に整形する際の工具痕が残される。129 も破損が著しいが、外面には赤色顔料が塗布され、横位のミガキが施される。130 は成川式土器壺の底部である。丸底である。

131～133 は土師器坏と思われる資料である。131・132 はへう切底であり古代の可能性が高い。133 は糸切底であり、中世の資料である。

134 は竜泉窯系青磁碗の高台である。見込みに草花文が描かれる。外面高台は畳付けまで施釉されない。14 世紀後半～15 世紀半ばの資料。135 は瓦器擂鉢である。口縁外面をおさえ舌状に整形する。内面には擂目がわずか

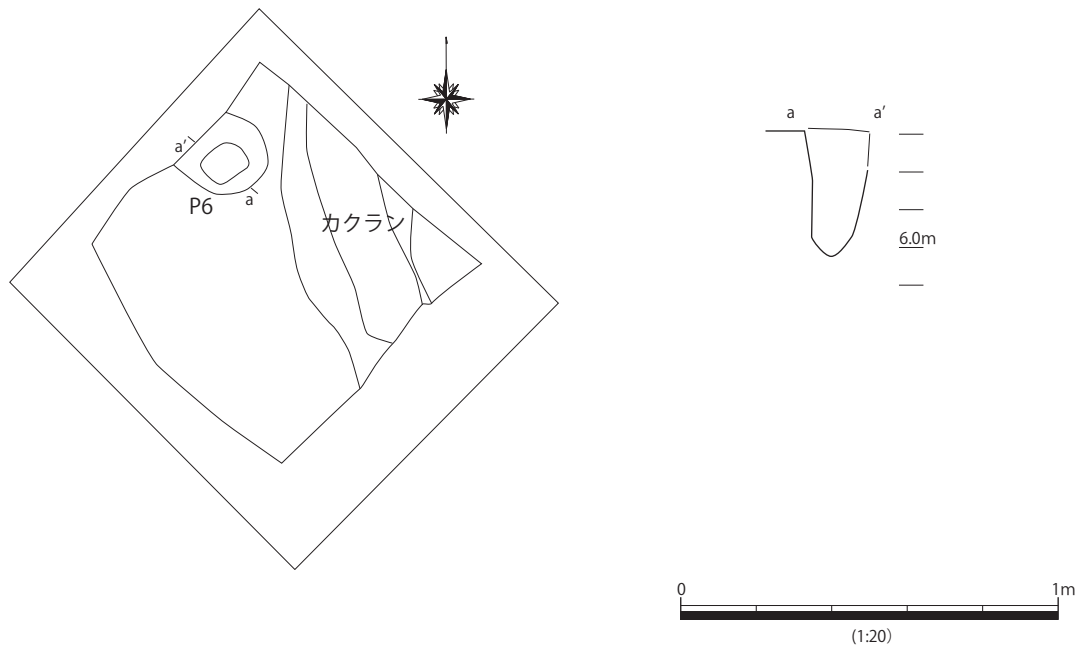
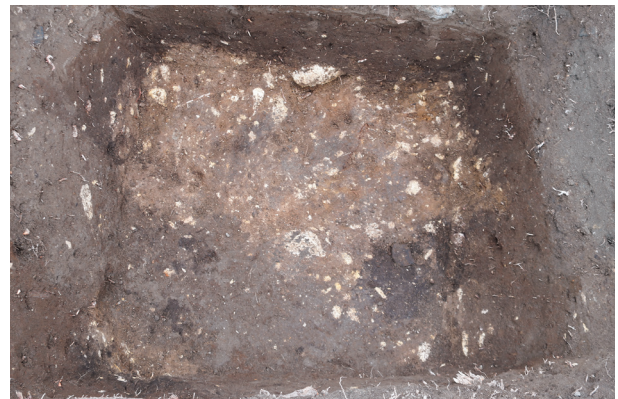


Fig. 44 12 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 12 トレンチ南壁



2 12 トレンチ 6 層上面遺構検出 (北東から)



3 12 トレンチ遺構掘削状況 (北西から)



4 12 トレンチ完掘

PL. 39 12 トレンチ

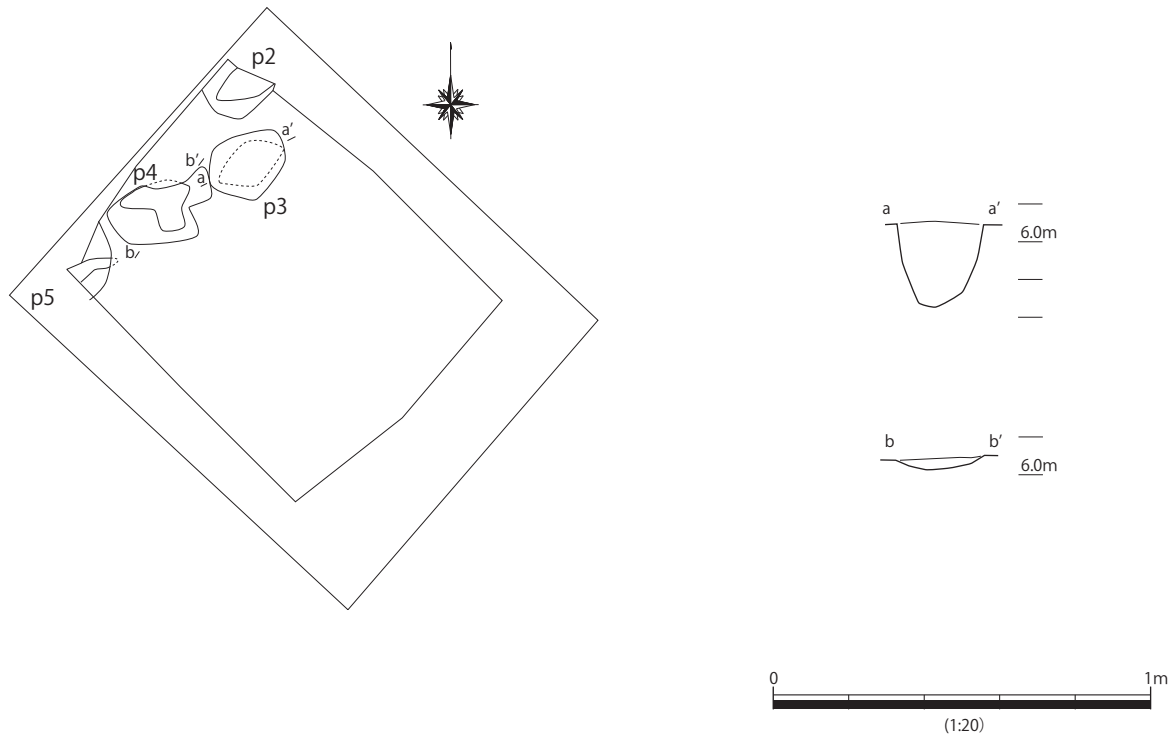


Fig. 45 13 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 13 トレンチ南壁



2 13 トレンチ①層・②層上面検出状況（北東から）



3 13 トレンチ 6 層上面遺構検出状況（北東から）



4 13 トレンチ完掘状況（北東から）

PL. 40 13 トレンチ

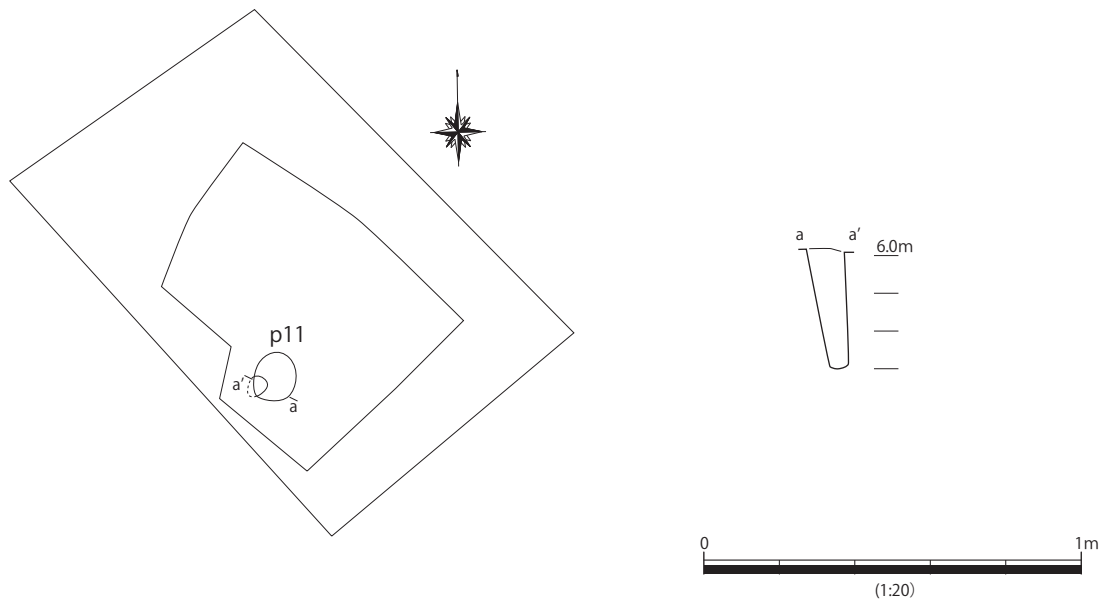


Fig. 46 14 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 14 トレンチ 5 層上面検出状況（東から）



3 14 トレンチ P11 半裁状況（北から）



2 14 トレンチ 6 層上面遺構検出状況（東から）



4 14 トレンチ完掘状況（東から）

PL. 41 14 トレンチ

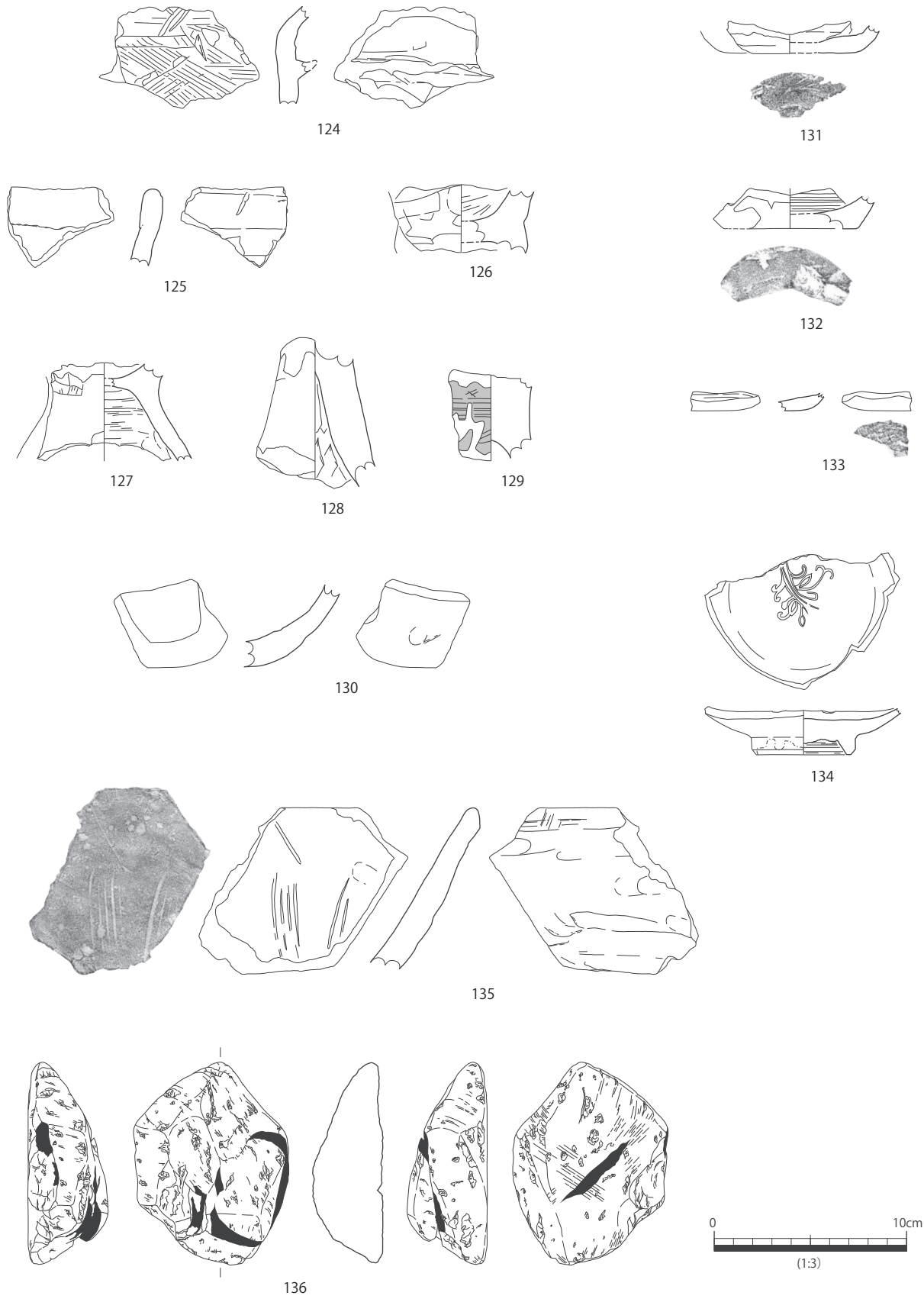
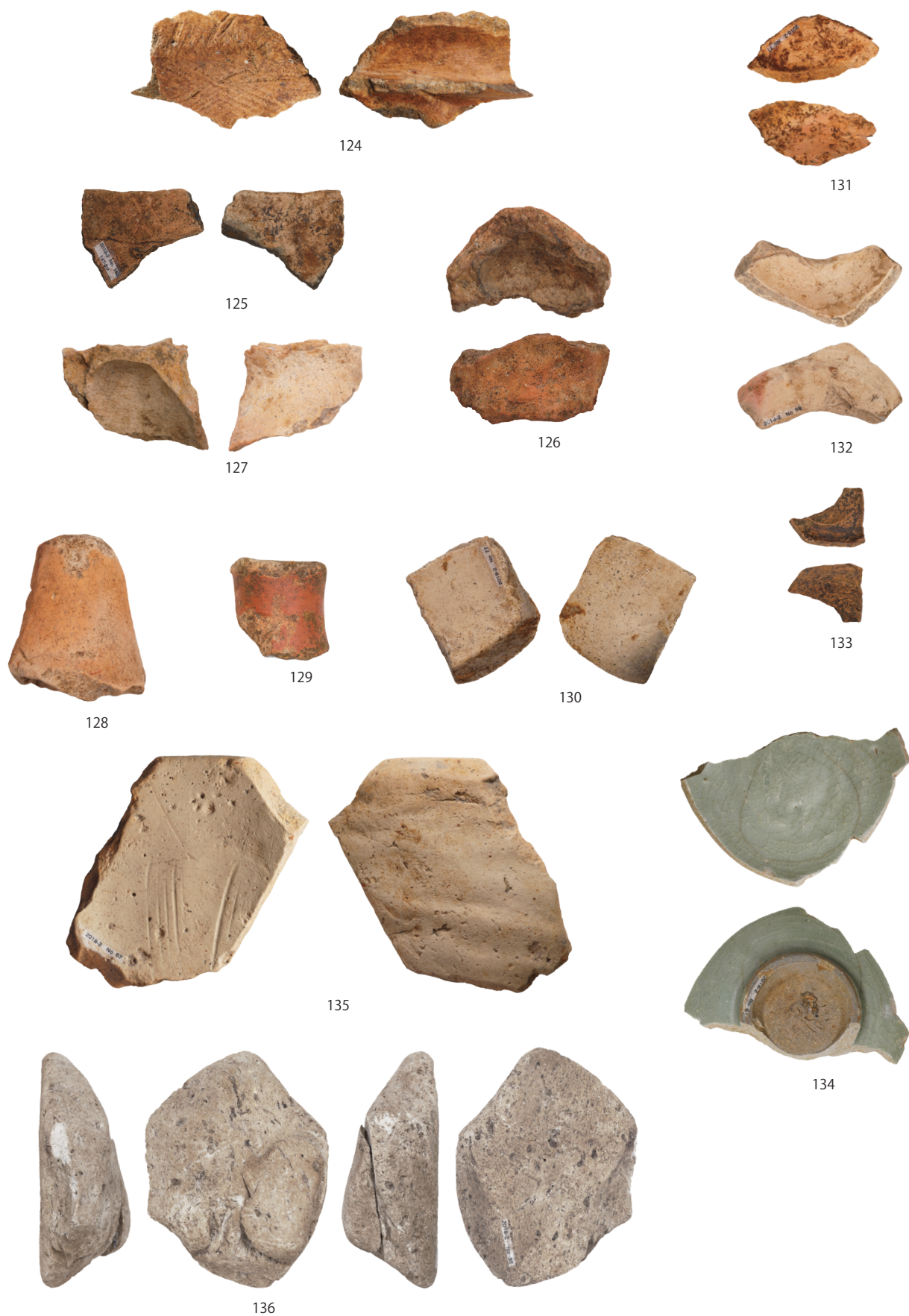


Fig. 47 14 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 42 14 トレンチ出土遺物

に残るが、ほとんど摩滅している。

136 は軽石製品である。平坦面と凹面が 10 面ある。機能については明瞭でない。

15 トレンチ

遺構 (Fig. 48, PL. 43)

15 トレンチでは、1・5・6 層を確認した。14 トレンチ以南に比べて、6 層の検出面が高い。6 層上面よりピットが 4 基検出された (P7～10)。壁際に位置しているものが多いため、全形がわかるのは P8 のみである。いずれも直径が 20 数 cm 程度と推定される。深さの計測値は 3～16 cm と浅いが、埋土は 5 層土に類似し、ピット検出面は 6 層を 20 cm ほど掘り込んだレベルであるため、本来は 20 cm 以上の深さであったと推定される。

遺物 (Fig. 49, PL. 44)

15 トレンチでは 5 層で弥生時代～古墳時代土器がわずかに出土したのみである。1 点を図化した。

137 は成川式土器壺の突帯部である。突帯形状は断面 M 字状であり、比較的幅が広い。

16 トレンチ

遺構 (PL. 45)

16 トレンチでは、1・5・6 層を確認した。15 トレンチ同様、6 層の検出面は高く、5 層上面は現代の攪乱によってかなり削平されている。6 層上面より南東隅に土坑と推定される落ち込みを確認した (土層③, SK6)。推定、直径 50 cm 以上、深さは 25 cm ほどである。底面は凸レンズ状を呈する。埋土は、5 層土に類似する。

遺物

16 トレンチでは 5 層で弥生時代～古墳時代土器がわずかに出土したのみである。図化できる遺物はなかった。

17 トレンチ

遺構 (Fig. 50, PL. 45)

17 トレンチでは、1・5・6 層を確認した隣接する 16 トレンチや 18 トレンチに比べると、6 層上面の検出面が 30 cm ほど低い。5 層の下に 5 層土に 6 層土の砂礫が混ざっている層 (⑤) が確認でき、⑤ 層の平面的分布範囲は明瞭ではなかったが、遺構の一部である可能性もある。6 層上面では、ピットが 1 基検出された (P20)。東壁際に位置するため、全形はわからないが、長軸 28 cm、短軸 17 cm、深さ 18 cm である。埋土は 5 層土に類似する。

遺物 (Fig. 51, PL. 46)

17 トレンチでは 5 層で弥生時代～古墳時代土器がわずかに出土したのみである。攪乱層には各時代の遺物が比較的含まれている。攪乱層より出土した 3 点を図化した。

138 は土師器の口縁部である。焼成は良好である。139 は現代磁器の湯飲み碗口縁部である。外面には渦巻き文が重なるように巡っていた痕跡が残っている。

140 は黒曜石製の打製石鏃である。完形である。

18 トレンチ

遺構 (Fig. 52, PL. 47)

18 トレンチでは 1・5・6 層を確認した。16 トレンチ同様、6 層の検出面が高い。6 層上面より土坑 1 基 (SK3) が検出された。SK3 は南角に位置し、全形は不明だが、北側に伸びる幅 15 cm ほどの突起を持つ。底面は、先端から土坑中心部に向かって傾斜する。最深部は 20 cm ほどである。

18 トレンチでは、遺物は出土していない。

19 トレンチ

遺構 (Fig. 53, PL. 48)

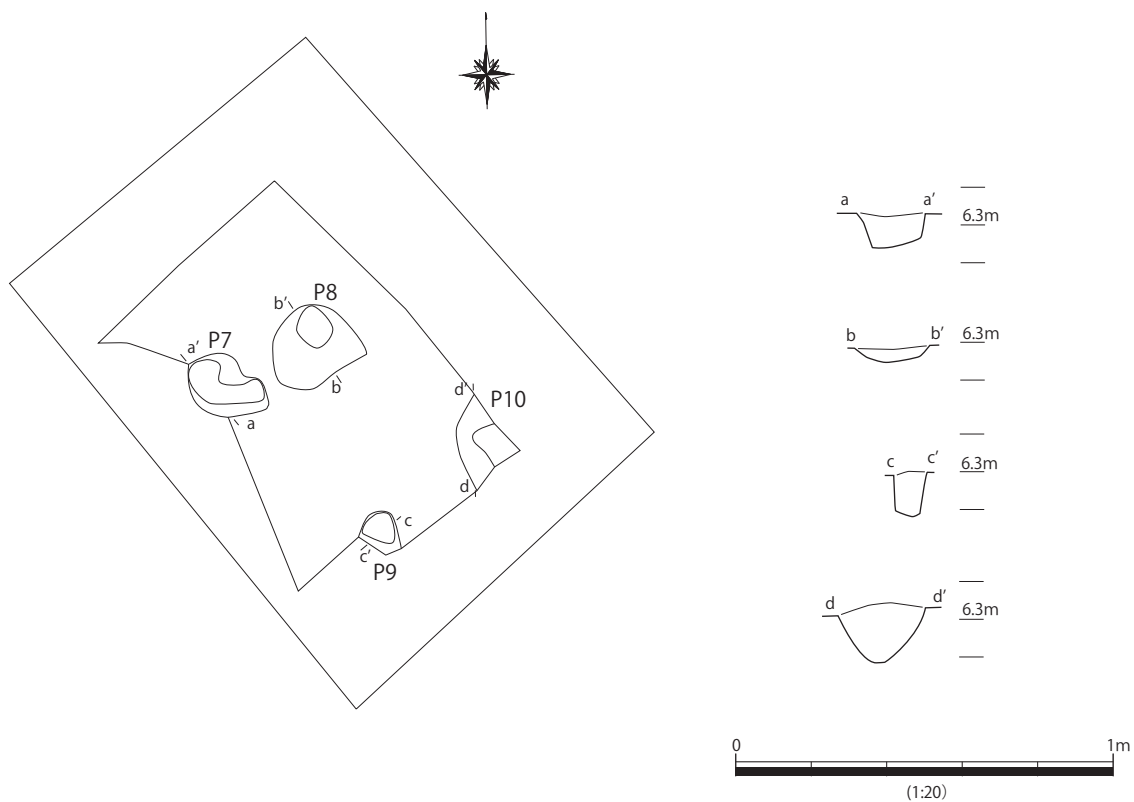
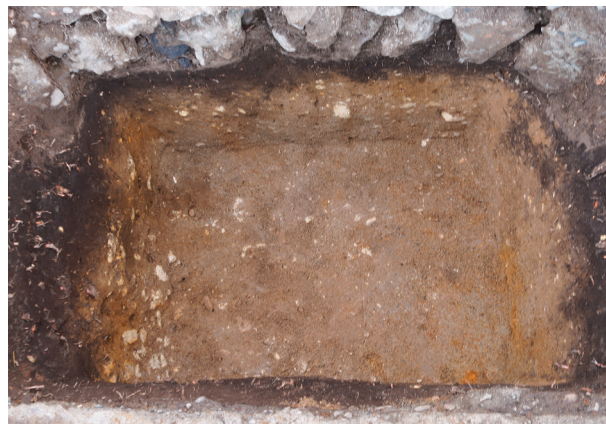


Fig. 48 15 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図 S=1/20



1 15 トレンチ 6 層上面遺構検出状況（東から）



2 15 トレンチ完掘状況（東から）

PL. 43 15 トレンチ

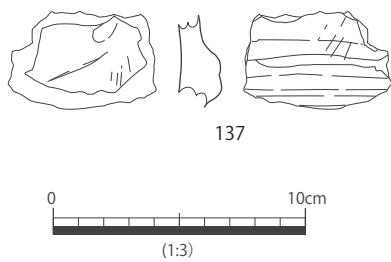
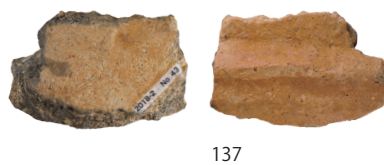


Fig. 49 15 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 44 15 トレンチ出土遺物



1 16 トレンチ南壁



2 16 トレンチ 6 層上面検出状況（東から）



3 16 トレンチ完掘状況（東から）



4 17 トレンチ 6 層上面検出状況（東から）



5 17 トレンチ P20 半裁状況（南から）



6 17 トレンチ完掘状況（東から）

PL. 45 16 トレンチ・17 トレンチ

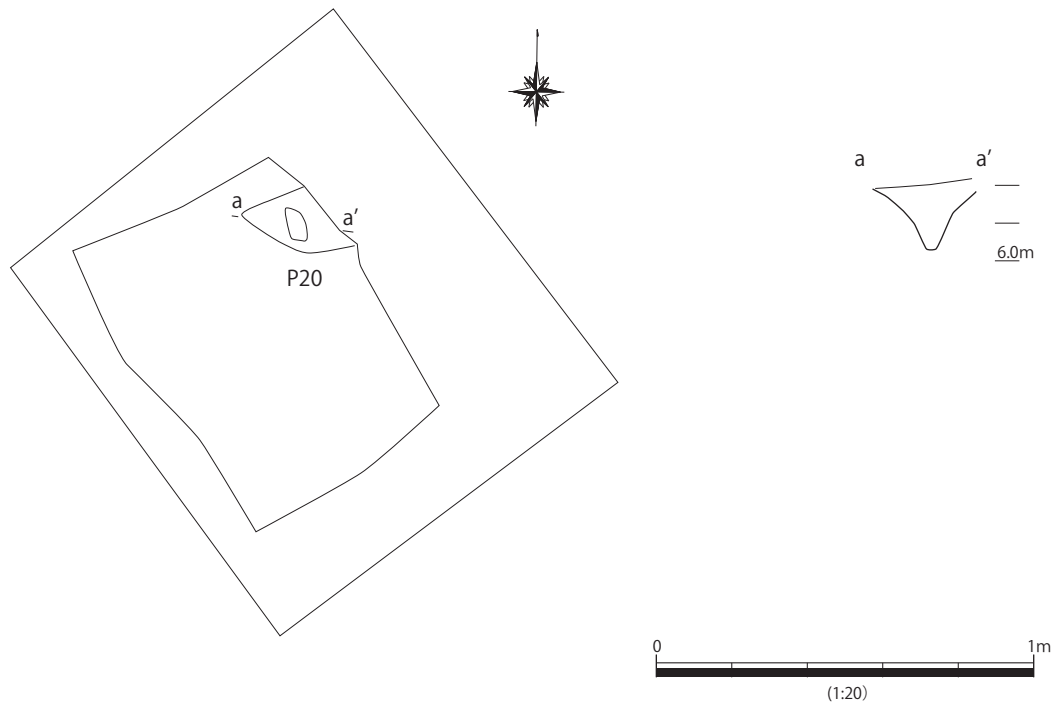


Fig. 50 17 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図 S=1/20

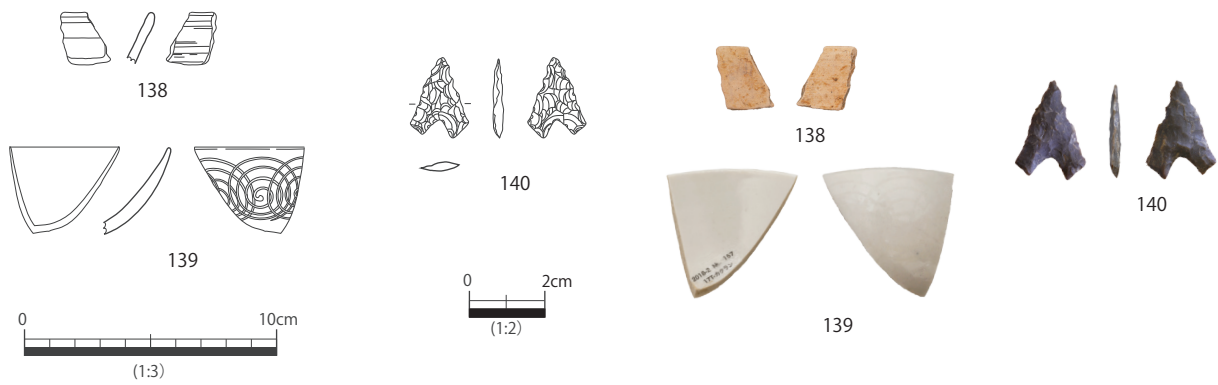


Fig. 51 17 トレンチ出土遺物 S=1/3,
140 のみ S=1/2

PL. 46 17 トレンチ出土遺物

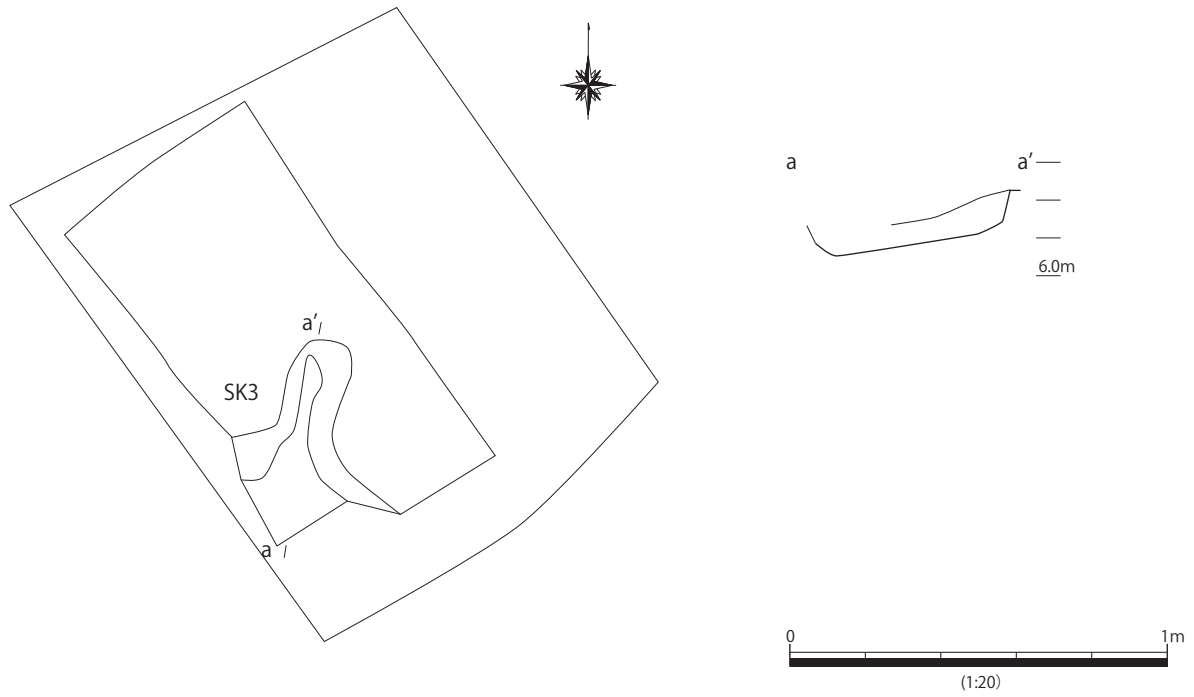


Fig. 52 18 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図 S=1/20



1 18 トレンチ南壁

PL. 47 18 トレンチ



2 18 トレンチ SK3 完掘状況 (南から)

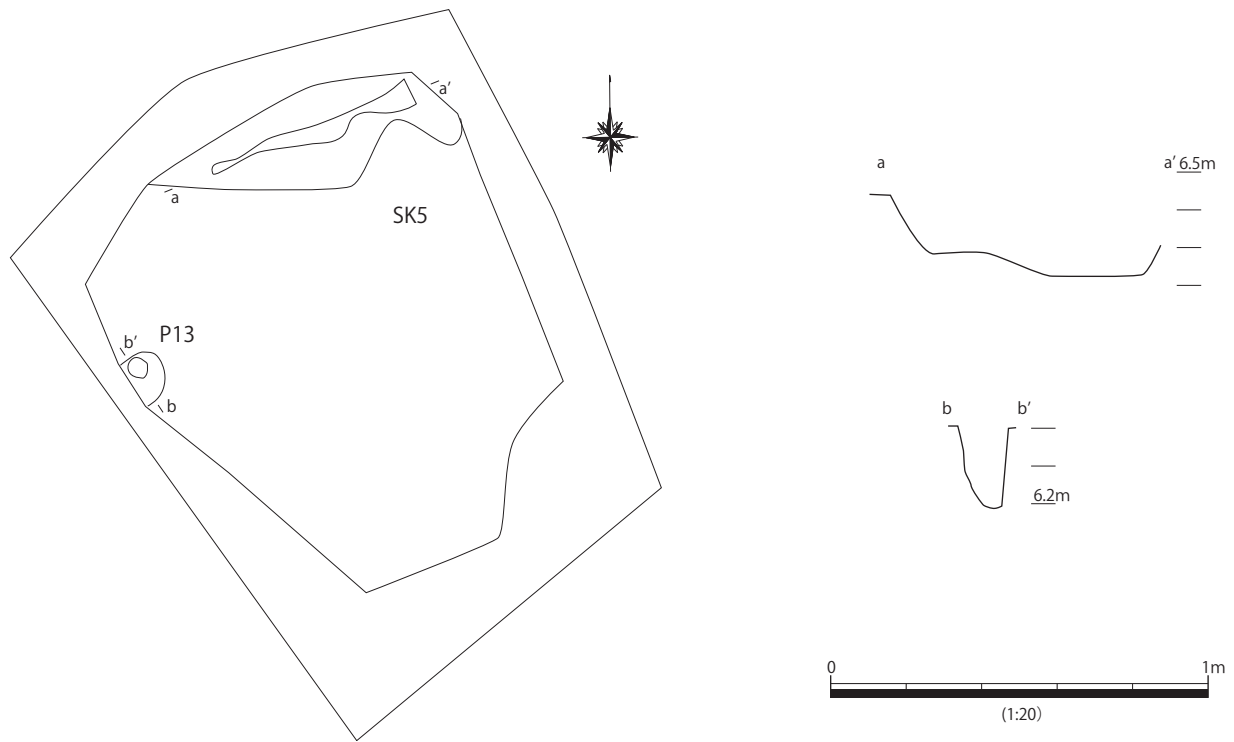


Fig. 53 19 トレンチ 6 層上面検出遺構平面図・断面図 S=1/20



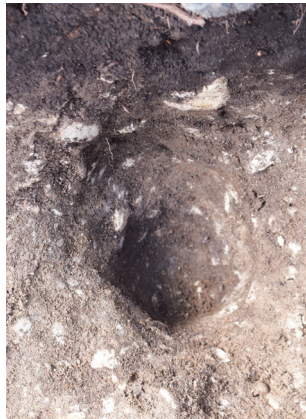
1 19 トレンチ南壁



2 19 トレンチ 5 層上面遺構検出



3 19 トレンチ SK5 完掘 (東から)



4 19 トレンチ P13 完掘 (東から)



5 19 トレンチ完掘状況 (東から)

PL. 48 19 トレンチ

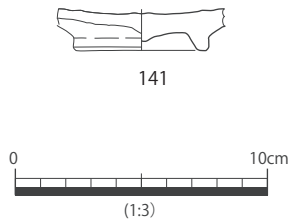


Fig. 54 19 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 49 19 トレンチ出土遺物



1 20 トレンチ西壁



2 20 トレンチ完掘状況 (南から)

PL. 50 20 トレンチ

19 トレンチでは、1・5・6 層を確認した。土層の状態や6 層検出面レベルが17 トレンチと類似し、隣接する18・20 トレンチに比べると低い。6 層上面より土坑1 基 (SK5) とピット1 基 (P13) が検出された。SK5 は、北壁際に位置し、全形は不明だが、検出状態で幅75cm、深さ21cmを測り、大型である。P13 は西壁際に位置するが、直径13cm、深さ21cmを測る。

遺物 (Fig. 54, PL. 49)

1 層より出土した1 点を図化した。

141 は薩摩焼龍門司系鉢の高台である。内外面ともに薄く自然釉が掛かる。重量がある。19 世紀の製品である。

20 トレンチ

遺構 (PL. 50)

20 トレンチでは、1・6 層を確認した。18 トレンチ同様、6 層の検出面は高く、5 層上面は現代の攪乱によってかなり削平されている。重機で表土掘削を実施した際、6 層中まで掘削してしまい、調査は壁面観察にとどまっ

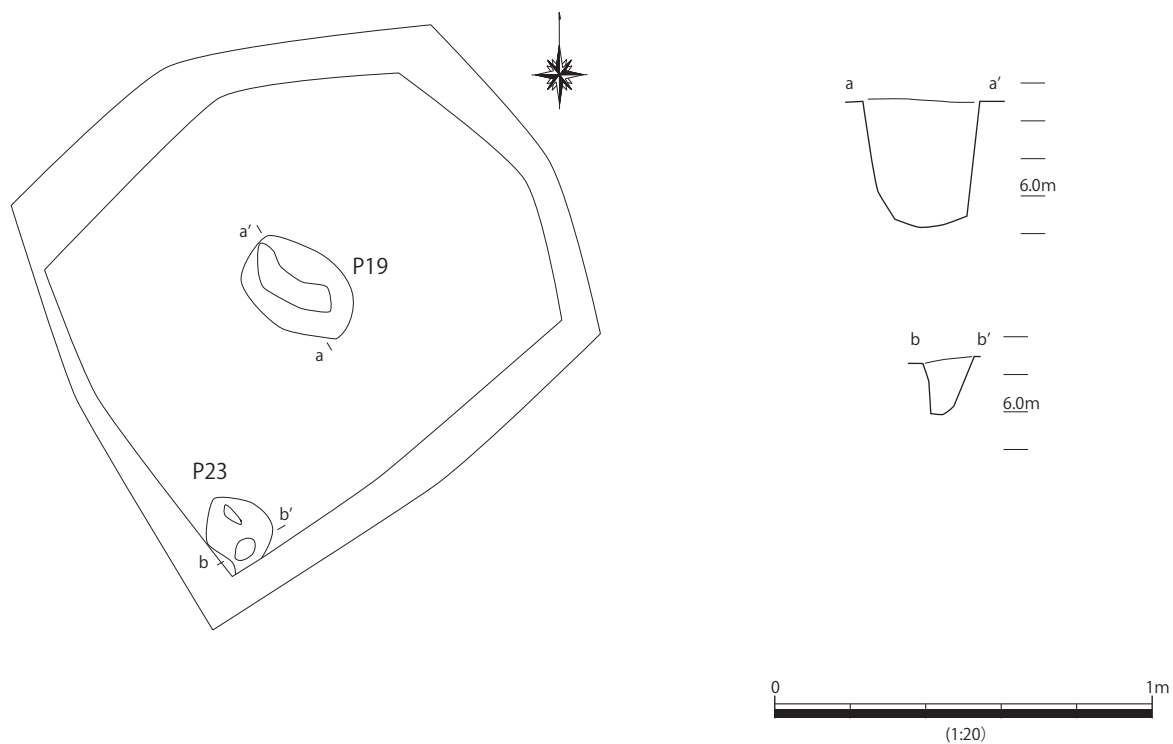


Fig. 55 21 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 21 トレンチ南壁



2 21 トレンチ 6 層上面検出状況



3 21 トレンチ P19 半裁状況（東から）



4 21 トレンチ完掘状況（東から）

PL. 51 21 トレンチ



PL. 52 22 トレンチ

た。壁面観察の結果、南東角に土坑状の落ち込みを1基確認した(SK2)。全形は検出できなかったが、直径30cm以上、深さ20cm以上と推定される。埋土は5層土に類似する。遺物は出土していない。

21 トレンチ

遺構 (Fig. 55, PL. 51)

21 トレンチでは、1・6層を確認した。20 トレンチ同様、6層の検出面は高く、5層上面は現代の攪乱によってかなり削平されている。6層上面からはピットを2基検出した(P19・23)。P23は直径20cm前後、深さ13cmと小ぶりだが、P19は長軸32cm、短軸22cm、深さ34cmと比較的大型である。いずれの埋土も5層土に類似する。遺物は出土していない。

22 トレンチ (PL. 52)

6層上面まで掘削を受けており、プライマリーな包含層および出土遺物はなかった。

23 トレンチ

遺構 (Fig. 56, PL. 53)

23 トレンチでは、1・5・6層を確認した。6層の検出面レベルは20・21 トレンチほど高くない。6層上面からはピットを2基検出した(P21・22)。いずれも直径約20cm、深さ20cmほどで、埋土は5層土に類似する。遺物は出土していない。

24 トレンチ

遺構 (Fig. 57, PL. 54)

24 トレンチでは、1・5・6層を確認した。本トレンチの5層は黒色が強く硬くしまり、黄色パミスの混入もない。他のトレンチで確認された5層土とは性質が異なるため、便宜的に5c層とした。5層の上位の土層である可能性もある。6層上面より、ピットを5基検出した(P24～28)。P24とP27以外は壁際に位置するため、全形が不明だが、小ぶりのP27以外は、同規模に見える。全形がわかるP24では、長軸42cm、短軸27cm、深さ37cmである。このうち、P24・25・28は一列上に位置する。各ピット間の芯芯距離は、どちらも約60cmで等間隔である。

遺物

5層において土器片数点、不詳陶器が1点出土しているが、図化できるものはない。

25 トレンチ

遺構 (Fig. 58, PL. 55)

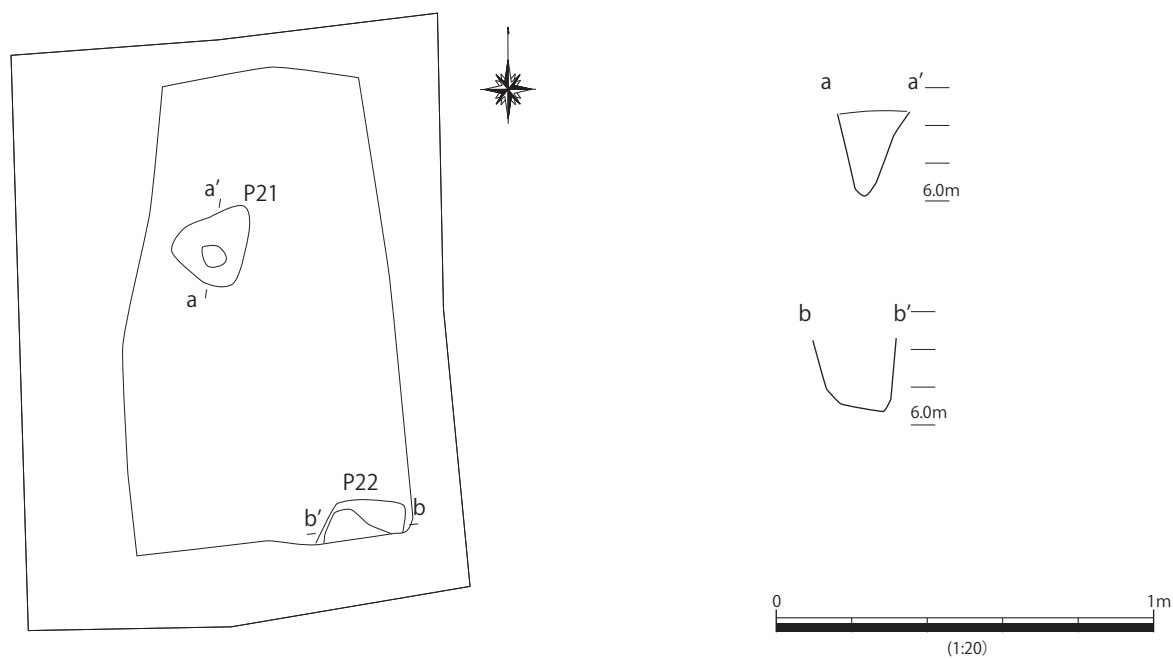


Fig. 56 23 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 23 トレンチ 6 層上面遺構検出状況 (東から)



2 23 トレンチ P21 半裁状況 (東から)



3 23 トレンチ P22 埋土 (北から)



4 23 トレンチ完掘状況 (東から)

PL. 53 23 トレンチ

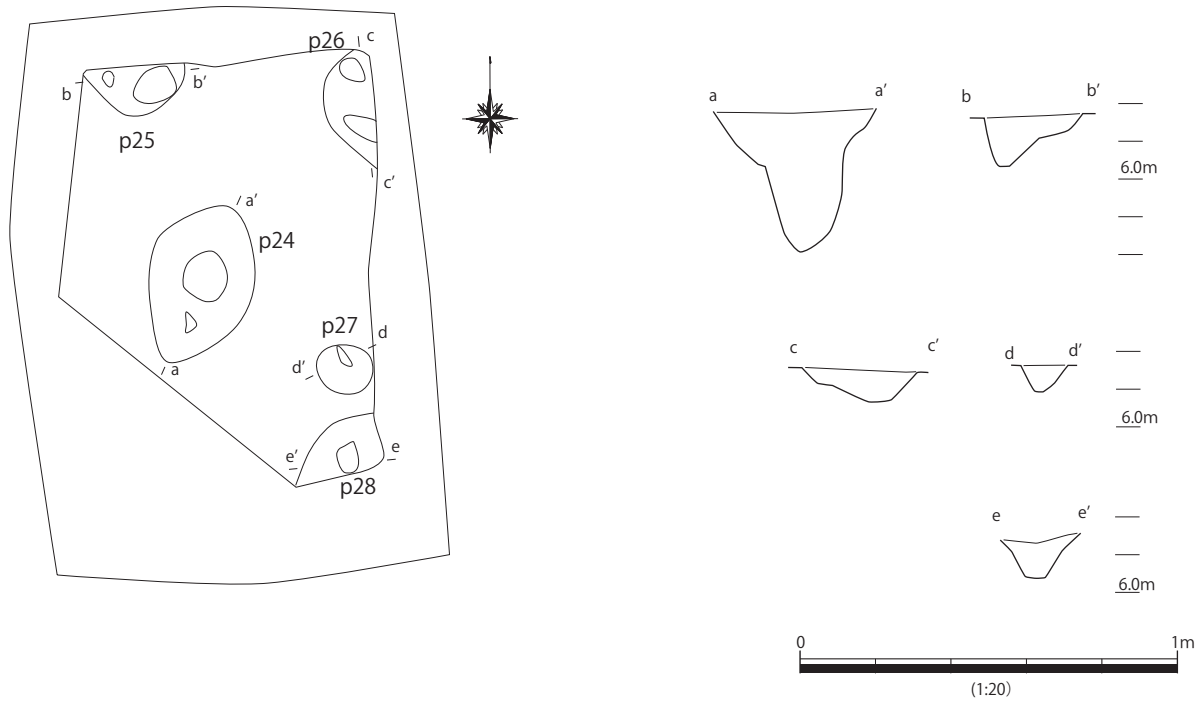


Fig. 57 24 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 24 トレンチ 6 層上面遺構検出状況 (東から)



2 24 トレンチ P28 埋土



3 24 トレンチ P24 半裁状況 (東から)



4 24 トレンチ完掘 (東から)

PL. 54 24 トレンチ

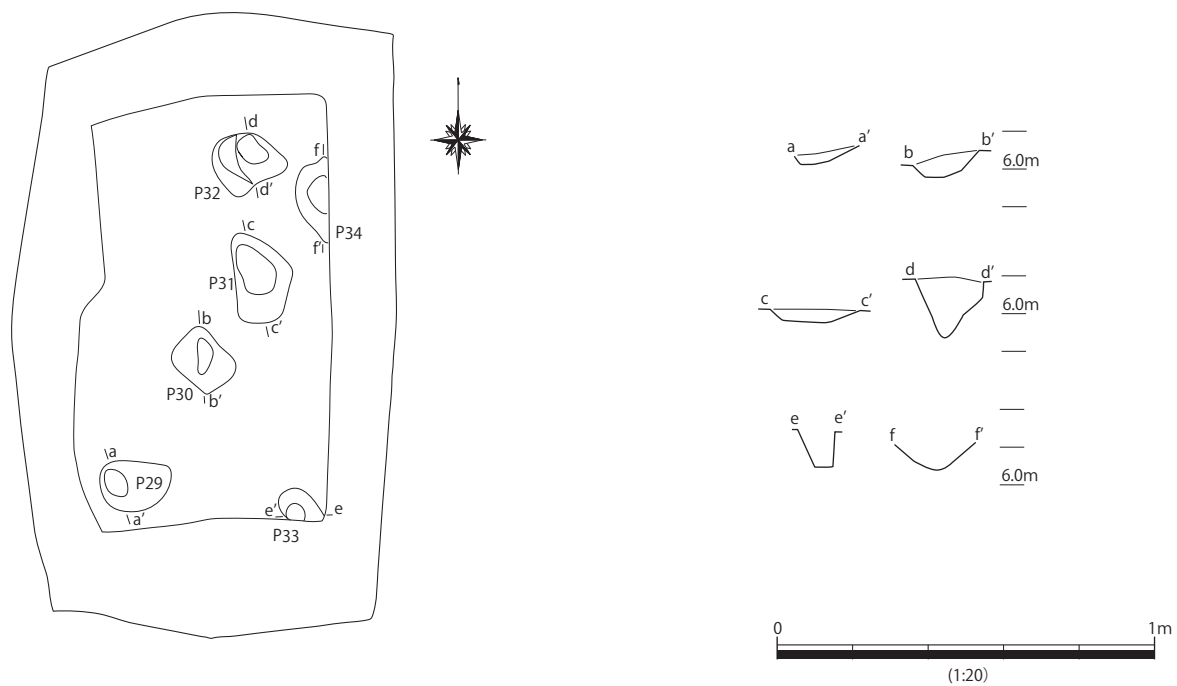


Fig. 58 25 トレンチ 6 層上面遺構平面図・断面図 S=1/20



1 25 トレンチ 6 層上面遺構検出状況 (東から)



2 25 トレンチ P30～32 半裁状況 (東から)



3 25 トレンチ 6 層上面検出遺構完掘状況

PL. 55 25 トレンチ

24 トレンチでは、1・5c・6層を確認した。また、5c層の下に5c層と6層との混土である①層の堆積が薄く確認できた。6層上面において、ピットを6基検出した（P29～34）。P33はやや小ぶりだが、P29～31・34は直径20cm前後、深さ5cmと浅いものの、同規模で、北東-南西方向に並んでいる。各ピットの芯芯距離は、約30cmである。埋土は、5c層土に類似する。

遺物

5層において、土器片数点および瓦器らしき製品が1点出土している。図化できるものはなかった。

6. まとめ

本地点では、近世の耕作土と推定される4層、中世～弥生時代の遺物を包含する5層が主な遺物包含層であった。遺構は、砂礫層である6層の上面で土坑やピットが検出された。周辺の調査成果をまとめた新里他編（2014）と比較し、本調査成果を各時期ごとにまとめる（Fig. 59）。

中世

14 トレンチでは、5層から中世の青磁や瓦器が出土した。周辺では、過去の調査によって備前播鉢や瓦質土器、青磁、白磁などが出土しており、本調査地点での種別と類似する。24・25 トレンチでは黒色シルト土である5c層が確認されている。遺物が出土していないため時期は不明だが、これまで検出されている弥生時代～古代の遺物包含層とは色調・土質など異質であり、中世のプライマリーな層である可能性もある。今後、周辺調査の際には、詳細な土層の検討が必要だろう。

古代

13・14 トレンチは隣接する12・15 トレンチに比べて6層上面の検出レベルが低く、人為的に5層と6層土が混ぜられたと思われる①層と②層が5層下面に平坦に堆積するという特徴を持つ。竪穴状の遺構の埋土であると考えられる。同様な埋土を持つ土坑が過去の調査によって隣接地で確認されている（Fig. 59 ピンクドット）。これらの土坑内からは雁又式鉄鏃や土師器坏などが、包含層からも土師器、赤彩土器、黒色土器、須恵器など出土し、8世紀後半から9世紀代のものが主体であった¹⁾。土坑の形状は、直径88～124cmの平面形が円形もしくは楕円形を呈し、深さ48～82cmである。両トレンチの状況は、この形状に矛盾しない。なお、16・18～20 トレンチでは、直径50cm以上の土坑が1基ずつ確認された。全形がわかる遺構はなかったが、この規模の土坑は他のトレンチでは検出されておらず、土師器片の出土も17 トレンチより南側で確認され、分布域がおおよそ重複することから、古代の遺構である可能性がある。

古墳時代・弥生時代

出土土器のほとんどは、古墳時代の成川式土器であった。その他少量ではあるが、入来式など弥生時代中期以降の弥生土器も出土した。周辺北側と東側の附属小学校では、古墳時代の竪穴建物跡が確認されており（Fig. 59 青部分）、鹿児島大学構内遺跡郡元団地にある古墳時代の居住域のひとつとなっている。本調査では明らかに古墳時代の遺構だと判明するものはなかったが、出土遺物の主体を成川式土器が占め、9 トレンチより北側にはピットが検出されていることから、一部中世・古代に削平されながら、古墳時代の遺構が残存している可能性は高い。

註

1) 新里貴之・寒川朋枝・中村直子編 2014 『鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）』鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第9集 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

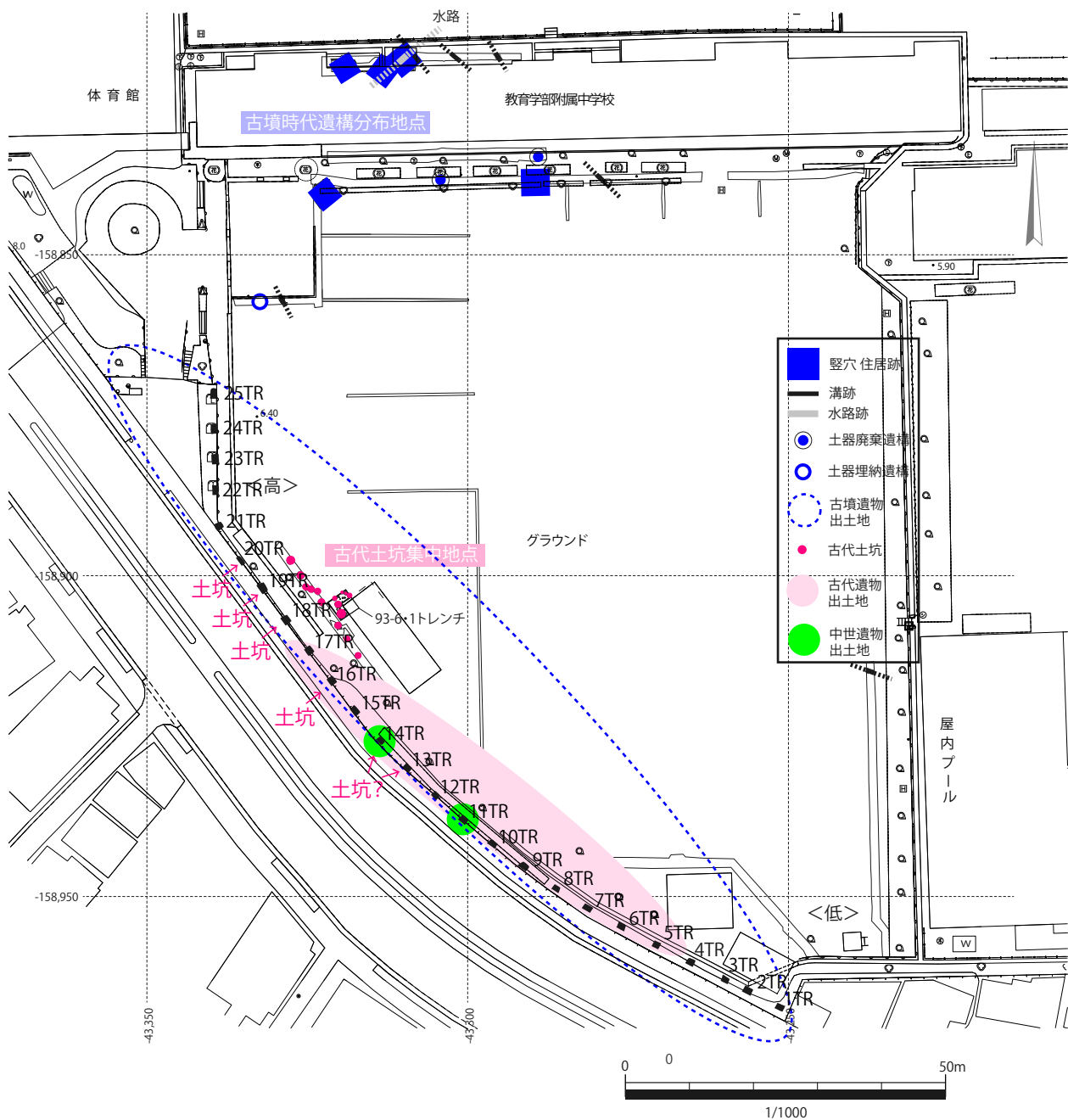


Fig. 59 調査区周辺の遺構配置と遺物出土状況 S=1/1000

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第9集 Fig.39 を基に作成

Tab. 13 遺構リスト

トレンチ	遺構No.	遺構の種類	検出面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土
9	P14	ピット	6層上面	20		19	黒褐色10YR2/2シルト, 細砂とパミスを含む
	P15	ピット	6層上面	21		26	黒褐色10YR2/2シルト, 細砂とパミスを含む
	P16	ピット	6層上面	15		13	中心部: 黒褐色10YR2/2シルト, 周辺部灰黄褐色10YR4/2細砂
	P17	ピット	6層上面	17		8	黒褐色10YR3/2細砂
	P18	ピット	6層上面	17		19	灰黄褐色10YR4/2細砂
11	SK1	土坑	6層上面	50	30	9	黒褐色10YR3/1シルト, 細砂・パミスを少し含む
	P12	ピット	6層上面	22		15	黒褐色10YR3/1シルト, 細砂・パミスを少し含む
12	P6	ピット	6層上面	22		34	黒褐色10YR 3/2砂混じりシルト, パミスを少量含む
13	P2	ピット	6層上面	15		5	灰黄褐色10YR4/2細砂, 黄色パミスを含む
	P3	ピット	6層上面	22		23	黒褐色10YR3/1シルト, 細砂含む
	P4	ピット	6層上面	28	15	3	灰黄褐色10YR4/2細砂, 黄色パミスを含む
	P5	ピット	6層上面	11+ α		2	灰黄褐色10YR4/2細砂, 黄色パミスを含む
	P20	ピット	6層上面	17		18	黒褐色10YR2/2シルト, パミスを少し含む
14	P11	ピット	6層上面	13		31	黒褐色10YR3/2細砂, パミスを少し含む
15	P7	ピット	6層上面	18		5	黄褐色10YR5/6細砂・灰黄褐色10YR4/2シルト, 黄色パミスを含む
	P8	ピット	6層上面	24		5	黒褐色10YR3/2シルト, 細砂を含む
	P9	ピット	6層上面	12		12	黒褐色10YR3/2シルト, 細砂を含む
	P10	ピット	6層上面	16+ α		16	黒褐色10YR2/3シルト, 黄色のパミスを含む
16	SK6	土坑	6層上面	50+ α		25	黒褐色10YR3/2シルト, パミス混入なし
18	SK3	土坑	6層上面	50+ α		19	黒褐色10YR2/2シルト, 細砂とパミスを含む
19	SK5	土坑	6層上面	75+ α		25	黒褐色10YR2/1黒色シルト, パミスを含む
	P13	ピット	6層上面	13		21	黒褐色10YR3/2シルト細砂, パミスを含む
20	SK2	土坑	6層上面	30+ α		20+ α	灰黄褐色10YR4/2シルト
21	P19	ピット	6層上面	22	18	34	黒褐色10YR3/2シルト, パミスを含む
	P23	ピット	6層上面	20+ α		13	黒褐色10YR3/2細砂
23	P21	ピット	6層上面	22		23	黒褐色10YR2/3シルト
	P22	ピット	6層上面	22		20	黒褐色10YR2/2シルト, パミスを少し含む
24	P24	ピット	6層上面	42	27	37	黒色10YR2/1シルト微量のパミスを含む
	P25	ピット	6層上面	26		13	にぶい黄橙色10YR7/2シルト, 細砂を少し含む
	P26	ピット	6層上面	16		8	黒色10YR2/1シルト微量のパミスを含む
	P27	ピット	6層上面	14		7	灰黄褐色10YR4/2細砂, 6層土混ざる
	P28	ピット	6層上面	21+ α		9	灰黄褐色10YR4/2細砂, 6層土混ざる
25	P29	ピット	6層上面	19	14	3	暗灰黄色2.5Y4/2砂
	P30	ピット	6層上面	17		7	暗灰黄色2.5Y4/2砂
	P31	ピット	6層上面	23	16	4	黒褐色2.5Y3/1細砂・シルト
	P32	ピット	6層上面	21	18	16	黒褐色2.5Y3/1細砂・シルト
	P33	ピット	6層上面	9		9	黒褐色2.5Y3/1細砂・シルト
	P34	ピット	6層上面	22		7	黒褐色2.5Y3/1細砂・シルト, 埋土下部は砂質

Tab. 14 層別遺物出土数_陶磁器

		古代 or 古墳	中世	中世 ～ 近世	近世										近代						不明		層別 出土 数計		
					薩摩焼					肥前 磁器	薩摩 磁器	薩摩 磁器？	清朝 磁器	不明 磁器	陶器	不明 陶器	琉球 上焼	型紙 刷	磁器	現代 磁器	不明 陶器	瓦器		瓦器？	瓦
					苗代 川	加治木 始良系	龍門 司	豎野	不明 陶器																
1Tr	3層				1						1		1		1									3	
	4層															1							1		
2Tr	3層										1						1						2		
	4層	1						1							1								3		
3Tr	3層						1								1			1					3		
	4層				1					1													2		
4Tr	3層	1													1		1	1				1	5		
	4層						1		1				1					1	1				5		
5Tr	3層	1			4					1								1					7		
	4層	1			2		1																4		
6Tr	3層					1																	1		
7Tr	3層	1			1	1				1													3		
8Tr	4層				1			1									1		1				5		
9Tr	3層				2	1																	3		
	4層				1																		1		
11Tr	5層			1																			1		
14Tr	5層		1		1															1			3		
17Tr	1層																	3					3		
19Tr	1層						1																1		
24Tr	5c層															1							1		
25Tr	5c層																				1		1		
種別計		5	1	1	14	3	2	2	1	2	3	1	1	1	1	4	1	2	3	6	1	1	1	58	

Tab. 15 層別遺物出土数_土器その他

		弥生	弥生～ 古墳	古墳													層別 出土数 計
		弥生	弥生～ 古墳土器	弥生か 成川	成川	土師器	ガラス	石器 砥石	石器 石鏃	石	軽石	鉄		鉄滓	赤色顔料	炭化物	
1Tr	3層	2	87		19	1	1										110
	4層		17														17
2Tr	3層	1	14		21							2					38
	4層		17		2												19
3Tr	3層		119		5					1	1						126
	4a層		2														2
	4b層				1												1
	4層		5		1												6
	5層		2														2
4Tr	3層		59		9			1									69
	4層		18		1								2				21
5Tr	3層		19		3												22
	4層		20		1	1											22
6Tr	3層		2														2
	4層		3		3	1											7
7Tr	3層	1	14		2	3											20
	4層		4														4
8Tr	3層				1												1
	4層		12		2												14
9Tr	層不明		1														1
	3層		22		1		1										24
	4a層		2														2
	4層		20														20
	P18		1														1
10Tr	層不明		3														3
11Tr	層不明		3		1												4
	5層	1	74	1	20						1				1		98
12Tr	5a層		1							1							2
	5b層		2		1												3
	5層		1														1
	P6		1														1
13Tr	5層		1		1												2
14Tr	5層	1	10		4	2					1						18
	①		1		4	1											6
	6層				1												1
15Tr	5層		4		1												5
16Tr	1層											1				1	2
	5層		2														2
17Tr	1層		3		1	1			1		1						7
	5層		2														2
18Tr	1層		1														1
24Tr	5c層		5														5
25Tr	5c層		3		1												4
種別計		6	577	1	107	10	2	1	1	2	4	3	2	1	1		718

Tab. 16 陶磁器観察表

No.	地区	層	種別	器種	部位	色調(釉)	色調(素地)	備考
80	1Tr	3	陶器	土瓶	底	灰赤2.5YR4/2	暗赤褐2.5YR3/2	近代.
81	1Tr	3	青花	碗	口	青	赤灰2.5Y R6/1	清代端反碗. 18C末～19C.
82	1Tr	4	陶器	急須	口	コバルトブルー	にぶい黄橙7/4	琉球施釉陶器(上焼). 近代.
87	2Tr	3	染付	碗	胴～底	コバルトブルー	灰白10Y R7/1	近代. 底径3.4cm. 湯飲み碗
88	2Tr	3	染付	碗	口	暗青灰4/1に近い	灰白5Y7/1	近代・端反碗.
91	3Tr	3	陶器	土瓶	口	黒10Y R1.7/1	淡黄2.5Y8/3	堅野. 18C後半～.
92	3Tr	3	磁器	鉢	口	コバルトブルー	灰白N8/	近代. 火鉢か.
97	4Tr	3下	須恵器		胴		表・裏・器内: 灰5/	
98	4Tr	3	磁器	皿	口	コバルトブルー	明褐灰5Y R7/1	近代型紙刷. 輪化皿.
99	5Tr	3	須恵器		胴		表: 黄褐2.5Y5/3 裏: 灰褐5Y R4/2 器内: 褐灰5Y R6/1	
100	5Tr	3	陶器	土瓶	蓋	褐10Y R4/4	にぶい橙5Y R6/4	苗代川. 18C後半～.
101	5Tr	4	陶器	甕	口	黒褐2.5Y3/1	黄灰2.5Y6/1	龍門司. 18C後半～.
102	5Tr	4	陶器	土瓶	底	オリーブ褐2.5Y4/3	にぶい赤褐5Y R5/4	苗代川. 18C後半～.
103	5Tr	4	陶器	播鉢	胴	黒褐2.5Y3/2	にぶい赤褐2.5Y5/4	苗代川. 18C.
107	7Tr	3	染付	皿	口	暗青灰5P B4/1に近い	にぶい黄橙10Y R7/2	近世か.
108	7Tr	3	陶器	土瓶	把手部	暗灰黄2.5Y4/2	赤褐5Y R4/6	苗代川. 18C後半～. 孔径0.8cm.
109	7Tr	3	陶器	碗	胴	オリーブ褐2.5Y4/3	明赤褐2.5Y R5/6	加治木始良系. 18C.
110	9Tr	3	陶器	播鉢	胴	黒褐5Y R2/1	赤褐5Y R4/6	苗代川. 18C.
134	14Tr	5	青磁	碗	高台	オリーブ灰5GY6/1	灰7.5Y5/1	竜泉窯系. 14C後半～15C半ば.
135	14Tr	①(5下層)	瓦器	播鉢	口		表: 浅黄2.5Y7/3 裏: 灰黄2.5Y7/2 器内: にぶい黄橙10Y R7/4	
139	17Tr	1	磁器	碗	口	透明	灰白N8/	現代. 湯飲み碗.
141	19Tr	1	陶器	鉢	高台	暗オリーブ5Y4/4	灰オリーブ5Y5/2	龍門司. 19C.

Tab. 17 土器等観察表(1)

No.	地区	層	型式等	器種	部位	調整(表)	調整(裏)	混和材	色調	備考
73	1Tr	3	入来Ⅱ式	甕	口	ナデ		白, 微砂粒	表・裏: にぶい黄橙10YR6/3 器肉: 灰黄褐10YR5/2	
74	1Tr	3	成川	甕	口	ハケメ(一)	ハケメ(一)	赤・白・黒色粒, 石英	表・器肉: にぶい橙7.5YR6/4 裏: 褐7.5YR4/3	
75	1Tr	3	成川	甕	口	ハケメ(＼)(一)	ハケメ(＼)(一)	赤・白・黒色粒, 微砂粒	表・器肉: にぶい黄橙10YR6/4 裏: にぶい褐7.5YR5/4	
76	1Tr	3	成川		突帯	ハケメ(一)	ナデ(一)	白・黒色粒, 微砂粒	表: にぶい黄橙10YR6/4 裏: にぶい橙7.5YR7/4 器肉: にぶい黄橙10YR7/4	刻み内に布目圧痕.
77	1Tr	3	成川	甕	脚	ナデ		赤・白・黒色粒, 微砂粒, , 石英	表・裏: にぶい黄橙10YR7/4 器肉: 橙2.5YR6/8	
78	1Tr	3	成川	甕	脚	ハケメ()	ハケメ()	白・黒色粒, 微砂粒, 石英(小)	表: にぶい黄橙10YR5/4 裏: 褐7.5YR4/6 器肉: 明赤褐5YR5/6	
79	1Tr	3	土師器	坏	底	ハケメ(一)	ナデ(一)	白・黒色粒	表・裏・器肉: にぶい黄橙10YR7/4	底径8.2cm.
83	2Tr	3	弥生	甕	口	ハケメ(一)	ハケメ(一)	白・黒色粒, 石英	表: にぶい褐7.5YR5/4 裏: にぶい黄橙10YR6/4, 黒2.5Y2/1 器肉: にぶい黄橙10YR6/4	底径5.6cm.
84	2Tr	3	成川	甕	口	ハケメ(一)→ナデ	ハケメ(＼)(一) 指頭圧痕	白・黒色粒, 礫	表: にぶい褐7.5YR5/4 裏: 赤褐5YR4/6 器肉: 黒褐10YR3/2	
85	2Tr	4	成川	甕	口	ハケメ(＼)(一)	ハケメ(一)	赤・白・黒色粒, 微砂粒, 角閃石	表: にぶい橙7.5YR7/4 裏・器肉: 褐灰7.5YR6/1	
86	2Tr	3	成川	高坏	脚	ナデ		赤・白, 微砂粒, 角閃石	表: 橙7.5YR7/6 顔料: 暗赤褐2.5YR3/6 器肉: にぶい黄橙10YR7/4	赤色顔料塗布.
89	3Tr	3	成川	甕か鉢	脚	ナデ(一)	ナデ(一)	赤・白・黒色粒, 石英	表: にぶい黄橙10YR6/4 裏: 橙7.5YR7/6 器肉: 橙5YR6/6	
90	3Tr	4b	成川	壺	底	ハケメ(＼)		赤・白・黒色粒	表: にぶい橙7.5YR6/4 裏・器肉: 黄灰2.5Y6/1	
93	4Tr	3	成川	甕	口	ナデ	ナデ	白・黒色粒, 角閃石, 石英	表: にぶい黄橙10YR7/4 裏・器肉: 褐灰10YR5/1	
94	4Tr	3	成川		突帯	ナデ	ハケメ(一)	白・黒色粒, 角閃石, 石英	表: 明赤褐2.5YR5/6 裏・器肉: 黒褐2.5Y3/2	
95	4Tr	3	成川	高坏	脚	ナデ(一)	ナデ(一)	赤・白・黒色粒	表・裏: にぶい黄橙10YR7/4 器肉: にぶい橙7.5YR6/4	赤色顔料塗布.
96	4Tr	3	成川	甕	脚	ハケメ()	ハケメ(一)	白・黒色粒, 石英	表: にぶい黄橙10YR6/3 裏・器肉: 灰黄褐10YR5/2, 橙2.5YR6/8	
104	7Tr	3	弥生	壺?	胴	ナデ(一)	ナデ(一)	赤・白・黒色粒, 微砂粒, 長石, 礫	表: にぶい黄2.5Y6/3 顔料: にぶい赤褐5YR4/4 裏: にぶい橙7.5YR6/4 器肉: 黄灰2.5Y4/1	
105	7Tr	3	成川	埴	肩	ナデ(一)	ハケメ(一)	赤・白・黒色粒	表: にぶい黄橙10YR6/4 裏・器肉: 褐灰10YR5/1	
106	7Tr	3	土師器	坏	底	ナデ(一)	ナデ(一)	赤・白・黒色粒, 微砂粒, 角閃石, 石英, 礫	表・器肉: 浅黄橙10YR8/3 裏: 浅黄橙7.5YR8/6	底径7.6cm.
111	11Tr	5	弥生	甕	口	ナデ(一)	ナデ(一)	白・黒色粒, 石英	表・裏: にぶい橙7.5YR6/4 器肉: 黒10YR2/1	
112	11Tr		成川	甕	口	ハケメ(一)	ハケメ(／)	白・黒色粒	表・裏: にぶい黄橙10YR7/4 器肉: 黄灰2.5Y4/1	
113	11Tr	5	成川	甕	口	ナデ(一)	ナデ(一)	白・黒色粒, 石英	表・器肉: 橙5YR6/6 裏: 橙7.5YR6/6	
114	11Tr	5	成川	甕	口	ナデ(一) 指頭圧痕	ハケメ(＼)(一) 指頭圧痕	黒色粒, 微砂粒, 角閃石	表・裏: 橙7.5YR6/6 器肉: にぶい黄橙10YR7/4	
115	11Tr	5	成川	甕	突帯	ナデ	ナデ	白・黒色粒, 角閃石	表・器肉: 灰黄褐10YR4/2 裏: 黒褐10YR2/2	

Tab. 18 土器等観察表（2）

No.	地区	層	型式等	器種	部位	調整(表)	調整(裏)	混和材	色調	備考
116	11Tr	5	成川	甕	脚	ハケメ()	ハケメ(—)	白・黒色粒	表:にぶい黄褐10YR5/4 裏・器肉:赤褐5YR4/6、にぶい黄褐10YR4/3	
117	11Tr	5	弥生?成川?	壺	突帯	ナデ(—)	ハケメ(\\)()	白・黒色粒, 微砂粒	表:褐7.5YR4/3、黒褐7.5YR3/1 裏:にぶい褐7.5YR5/4、暗褐10YR3/3 器肉:にぶい黄褐10YR4/3	
118	11Tr	5	成川	壺	突帯	ナデ	ナデ 指頭圧痕	黒色粒, 微砂粒	表:灰黄2.5Y6/2 裏:浅黄橙10YR8/3 器肉:褐灰10YR5/1	
119	11Tr	5	成川	高坏	坏	ミガキ(—) 指頭圧痕	ハケメ(—) 指頭圧痕	黒色粒	表・裏:橙7.5YR6/6 顔料(表):赤褐2.5YR4/8 器肉:褐灰10YR6/1	赤色顔料塗布.
120	11Tr	5	成川	埴	口	ミガキ(—)	ミガキ(—) 指頭圧痕	白色粒	表:浅黄橙10YR8/4 顔料:赤褐2.5YR4/6 裏:褐灰10YR5/1 器肉:褐灰10YR6/1	赤色顔料塗布.
121	11Tr	5	成川	高坏	脚	ミガキ()		白・黒色粒, 微砂粒	表:明赤褐5YR5/8 器肉:暗褐7.5YR3/4	赤色顔料塗布.
122	11Tr	5	成川	埴	肩	ナデ	ハケメ(—)	白・黒色粒, 微砂粒	表:橙7.5YR7/6 裏・器肉:浅黄橙10YR8/4	
124	14Tr	5	弥生	大甕	口	ハケメ(—)	ハケメ(\\)(/)	白・黒色粒, 微砂粒	表・裏:褐7.YR4/4 器肉:にぶい黄褐10YR4/3	
125	14Tr	5	成川	甕	口	ナデ	ナデ	白・黒色粒, 微砂粒, 角閃石, 石英	表:にぶい黄橙10YR6/4 裏:にぶい黄褐10YR5/3 器肉:黒10YR1.7/1	
126	14Tr	5	成川	甕	脚	ハケメ(—)	ハケメ(/)	白・黒色粒, 微砂粒	表:橙5YR6/6 裏:明赤褐5YR5/6、にぶい黄褐10YR4/3 器肉:にぶい黄褐10YR4/3	
127	14Tr	① (5下層)	成川	甕	脚台	ハケメ()→ナデ	ハケメ(—)→ナデ 指頭圧痕	白・黒色粒, 微砂粒, 角閃石(少), 長石	表・裏・器肉:にぶい黄橙10YR6/4	
128	14Tr	① (5下層)	成川	高坏	脚	ナデ	ヘラナデ(/)	赤・白・黒色, 微砂粒	表・裏:橙7.5YR7/6 器肉:にぶい黄橙10YR7/4	
129	14Tr	① (5下層)	成川	高坏	脚	ミガキ(— / \\)	ヘラナデ	白・黒色粒, 微砂粒	表:橙5YR6/6 顔料:暗赤褐2.5YR3/6 裏・器肉:にぶい黄褐10YR4/3	赤色顔料塗布.
130	14Tr	6上	成川	壺	底	ナデ	ナデ	赤・白・黒色粒, 微砂粒, 角閃石, 礫	表・裏:浅黄橙10YR8/3 器肉:黄灰2.5Y6/1	
131	14Tr	① (5下層)	土師器	坏	底	ナデ(—)	ナデ	赤・白・黒色粒, 微砂粒	表:橙7.5YR7/6 裏・器肉:にぶい橙7.5YR7/4	底径6.6cm.
132	14Tr	① (5下層)	土師器	坏	底	ナデ(—)	ハケメ(—)	赤・黒色粒, 微砂粒	表・裏・器肉:にぶい黄橙10YR7/4	底径7cm.
133	14Tr	5	土師器	坏	底	ナデ(—)	ナデ(—)	白・黒色粒, 微砂粒	表・裏・器肉:褐7.5YR4/6	
137	15Tr	5	成川	壺	突帯	ハケメ(/)	ハケメ()	赤・白・黒色粒, 微砂粒	表:明褐7.5YR5/6 裏・器肉:にぶい黄橙10YR6/4	
138	17Tr	1	土師器		口	ナデ(—)	ナデ(—)	黒色粒	表・裏・器肉:浅黄橙7.5YR8/6	

Tab. 19 石器観察表

No.	地区	層	種別	器種	サイズ (cm)			重量 (g)	石材
					最大長	最大幅	最大厚		
123	11Tr	5	石器	軽石加工品	7.3	3.8	5.4	22.18	軽石
136	14Tr	5	石器	軽石加工品	10.5	8.1	4.1	84.65	軽石
140	17Tr	1	石器	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.63	西北九州産黒曜石に類似する石材

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第16集

鹿児島大学構内遺跡

郡元団地 I-9 区

2013-2 電気・電子工学科棟改修工事に伴う発掘調査

郡元団地 F-6 区

2014-2 保健管理センター増築工事に伴う発掘調査

郡元団地 R ～ T-7 ～ 9 区

2018-2 附属中学校ブロック塀補強工事に伴う発掘調査

2020 年 3 月

発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

〒 890-8580 鹿児島市郡元 1 丁目 21-24
